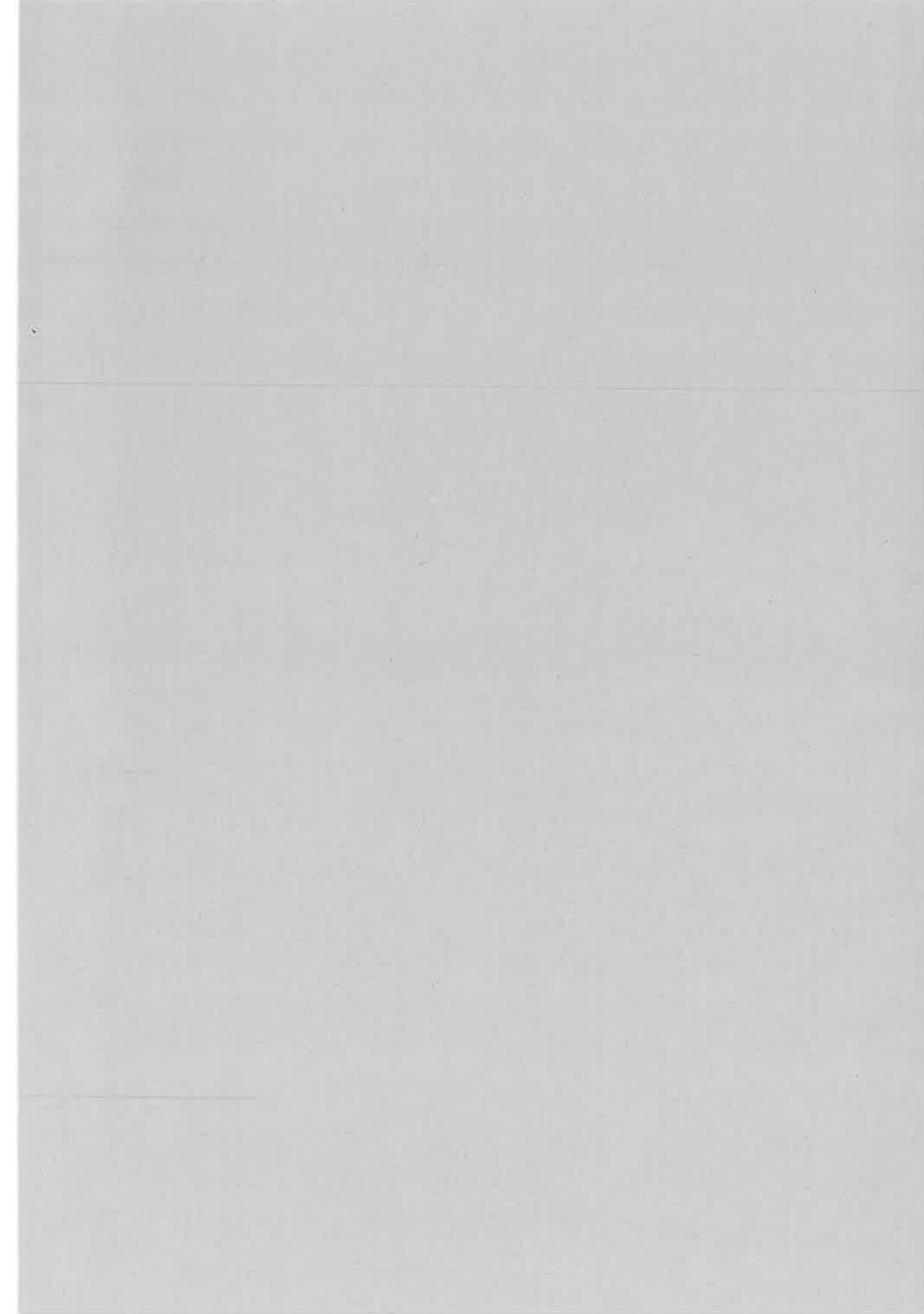


山口県立美術館10年の歩み

山口県立美術館年報 昭和62~63年

THE YAMAGUCHI PREFECTURAL MUSEUM
OF ART



山口県立美術館10年の歩み

山口県立美術館年報 昭和62~63年

THE YAMAGUCHI PREFECTURAL MUSEUM
OF ART

目 次

山口県立美術館10年の歩み	・
山口県立美術館概要	4
山口県立美術館—この10年	5
Ⅰ. 展覧会	8
Ⅱ. 入館者数一覧	24
Ⅲ. 美術講演会および講座	28
美術館ニュース「天花」	
Ⅳ. 収集資料	31
Ⅴ. 組織等	34
山口県立美術館年報 昭和62～63年度	
事 業	
Ⅰ. 展覧会	41
Ⅱ. 普及活動	121
Ⅲ. 入館者数一覧	137
収集資料	
Ⅰ. 館蔵品貸出利用状況	141
Ⅱ. コレクション	145
Ⅲ. 美術図書	187

山口県立美術館概要

所在地	山口市亀山町3番1号
敷地面積	11,545.470平方メートル
建物概要	構造 鉄筋コンクリート造地下1階・地上2階、一部鉄骨造 建物面積 4,077.168平方メートル 建物延面積 5,420.350平方メートル
工期	昭和52年8月～昭和54年3月
設計	鬼頭 梓建築設計事務所
監理	山口県建築課 鬼頭 梓建築設計事務所
施工	鹿島建設株式会社 日本電設工業株式会社 株式会社 大気社 塩田工業株式会社
総工費	17億円

展示事業

常設展示

本県の美術文化の歴史や郷土の生んだ代表的作家の全貌、郷土の風土と生活の中に育かれた代表的な工芸などがわかるよう常設展示をする。

企画展示

館の調査研究にもとづき、テーマを設定し、内外のすぐれた作品を借用して、ユニークな企画展示をする。

その他の展示

新聞社や他館との共催展、美術団体展、文化庁巡回展などすぐれた展覧会を誘致し公開する。

普及教育事業

移動美術館

館蔵品による移動巡回展を県内各地で行い、県民の生活に密着した展示活動を実施する。

講座・講演等

実技講座、美術講座、講演会等を実施し、県民の創作の場、教養修得の場を提供するとともに、友の会を組織して、より多くの県民の密度の高い利用をはかる。

公募展等

県美術展覧会等公募展を開催し、県民の作品創作の場を提供する。

調査収集事業

本県の美術に関する調査研究を実施し、基礎資料や作品を収集するとともに整理・保管する。また、これら資料の有効な利用をはかる。

山口県立美術館 —この10年—

山口県立美術館とほぼ同じ頃に完工したパークロードの並木は、すっかりたくましくなってきた。このケヤキ並木が紅葉しはじめる今秋10月初旬、本館も満10才を迎える。

開館10周年を記念する事業は、ひと足早く3月に完成した収蔵庫等の増築も含めて、企画展や共催展を中心に展覧会のプログラムが組まれた。8月5日には記念式典と特別展「室町文化の中にもみる大内文化の遺宝展」の開会式が開催される。

本館は建設や開設の準備に8年半の年月を要した。じっくりと構えて周到な準備にとり組んだことになるのだが、雑然とした雰囲気の中で、ようやくの思いでオープンしたことなどが昨日のようである。

平井龍知事のスイッチオンで開扉され、「生誕150年—狩野芳崖展」と「受贈作品披露展」をもって開館した。ボストン美術館や東京芸術大学資料館などから芳崖の代表作品の里帰り、県内外での新出作品の発見などが新聞やテレビで話題となり、本県初の公立美術館ということもあって、予想をはるかにこえる9万8千人の入館者数をみてのスタートとなった。連日の人いきれで館内冷房フル回転、立錫の余地のない市民会館大ホールでの水上勉氏の記念講演会、市内の交通渋滞への苦情等々予想だにできなかったパニック現象に押され、それまで描きつづけていた館のヴィジョンを見いだす余裕のない発足となった。

このような状況で歩みはじめた本館ではあったが、10年経った今日までをひと区切りとしてとらえるならば、今後たどるであろう本館の長い歴史のなかでは、やはり草創の期としてはめこまれることになるのであろう。

10年を機に、館の歩みを概観してみると、3期に分けることができる。

〈第一期〉

開館年度から昭和56年度までの3年間である。自主企画展の体験が専門スタッフを一巡し、計画されていた学芸、普及課の各事業の方向づけがほぼでき、本館のおおよその輪廓が描けた時期といえる。

歩みはじめた道程への方向づけは、顧問の岡田譲、河北倫明、三輪休雪、三好正直などの諸先生からの示唆にとむ適切な助言によるところが大きい。なかでも、開館前後の昭和54年8月と昭和55年6月に開かれた顧問会議での「山口県立美術館」への助言は、館運営上の基本的な理念ともいえるもので、今に生きている。

この期に開催された狩野芳崖展、桂ゆき展、近代洋画の人間像展、香月泰男展、円山派と森寛斎展、古萩展などの自主企画展は、いずれも、本館がまず本県の美術を知ることから出発した調査研究の成果として企画された展覧会である。展覧会そのものが一過性となることは止むをえない。つくる側とみる側にとって、終了後にストックして残り、次に継げるものとしてはカタログ以外にはない。図録づくりには力を注ぎ重視する方向でとりくむことになった。写真撮影、印刷などの業者との納得いくまでの協議。そのほか作品輸送と作品とり扱い、展示ディスプレイから看板一枚に至るまで、展覧会にかかわるあらゆる民間業者との連帯意識の醸成と技術獲得のための学習競争は、双方共に熾烈を極めた時期であった。

開館を機に、積年の県美展は改革にふみ切ることになった。ひとりひとりの運営委員の意見を聴取し、従来内包していた問題点をとりまとめ、運営委員会で討議、祭典的色彩から脱皮して、厳選公募制による現代美術展的性格へと改める方向が打ち出された。運営委員会そのものの構成も、作家ばかりであったのを学識経験者を加えて再編され、諸制度の抜本的見直しとともに一新した県美展像が描かれた。改革された主なことからは、招待制度の廃止、県外審査員の招致、出品規定の変更、賞の整理と増額等であった。基本的には、美術に対する意識の高揚を求めて作品主義の筋が通

され、純粹公募展としての再出発であったといえる。招待制度の廃止に伴う暫定として「山口県現代美術選抜展」を昭和55年に開催したが、これは県美展の二重構造性を型をかえたものとして、性格が残るため、さまざまなしがらみを断って、館が主体性を発揮した企画展として、山口県の現代美術展として再構成することになった。昭和56年度の「山口の現代美術Ⅰ」がそれである。このように本館が主催する年間の展覧会は、自主企画展2、県美展、現代美術展の計4本となった。勿論、館の性格や特色を最も示すのは常設展にあるのだが、コレクションそのものの充実がままならない状況での発足であったことにもよるのだが、企画展運営に重点をおく結果となった。この期における新聞社等の全国巡回展は、名義共催ではあったが、美術団体展などと同様、貸館方式による開催とした。

館蔵作品は、開館時の常設展示にむけて、収集を進めてきた。昭和49年度立案の第一次計画は、主として近代以降の本県関係作家の作品を対象としたものであったが、昭和55年度に策定をみた第二次作品収集計画では、将来につながる特色あるコレクションを目指し、重点的な努力目標が設定された。

- 絵画 対象とする時代幅を近世、中世までに拡張する。
重点作家の画業を掘り下げるため関連作家の作品も対象とする。
- 彫刻 美術館周辺環境の美的整備の一環としての作品も包摂する。
木を素材とした彫刻を重点的に収集する
- 工芸 伝統工芸を地場産業の一環としてとらえ、当面、萩焼の重点的系統的収集を進める。

この期に収集された代表的な作品は、梶山鼎介コレクションとして寄贈を受けた「八臂弁財天」をはじめとする狩野芳崖作品5点、地元ロータリークラブからの受贈作品「懸崖飛沫図」（狩野芳崖作）、所蔵家から特別な好意で譲り受けることができた雪舟作の重要文化財「山水小巻」、「牧牛図」（二幅）、高橋由一作品「鴨図」などが上げられる。

開館の翌年から県内二箇所で開催した「山口県移動美術館」は美術館と地域社会を結びつける試みであった。市町村との共催で、可能な限り、共同作業を原則としているが、地元の担当が、館員とともに展覧会のすべてを体験してもらうことにより、地域での企画展に経験を生かしてほしいという願いも含めて、館から遠隔地の県民に鑑賞の機会を提供する目的で開催されることになった。館のPRにもなり、身近かに地域の住民の方々とのふれあう場としての役割も大きく今日まで続いている。

館の機関紙「天花」の発行、県内地域リーダーを対象とした上級実技講座等、県の文化行政の一翼をになうために、広域性、仲介性の視点に立った事業も、ほぼこの期に出揃ったのである。開館時、共に知恵をしばり汗をかいたスタッフの転出に伴ない新しいスタッフを迎えて、オ二期の体制に入っていく。

<第二期>

昭和57年度から昭和59年度までの間で、館の運営にリズムが生れた時期といえる。

自主企画展は、中本達也と戦後美術の一断面展、三輪休和展、松林桂月展、近・現代日本の彫刻展、雲谷等顔と桃山時代展、小林和作と須田国太郎展、いずれも本県ゆかりの美術を検証する目的で構成されたものである。スタッフにとっては二巡、三巡目のとりくみである。テーマの設定や内容の構成にそれぞれひとひねりした切り込みが生かされ注目された。

現代美術を対象とした「山口の現代美術」と隔年交互に開催することになった「現代の陶芸」は、本県が萩焼という伝統のある地場を有するだけに、多様化している陶芸というジャンルがかかえる今日的な問題を問いかけてみようとしたものであった。—いま、土と火でなにか可能か—、—いま、大きなやきものになにか見えるか—といった問題意識からの問いをテーマにすえ、作家の主張も十分発揮できるよう配慮したもので、参加した作家によって構成された会場となった。緊張感と熱気の溢れる現代美術展としての陶芸は、従来の概念を打ち破り、大きな衝撃を残した。

県美展も、改組後毎年のように制度の見直しがなされ、出品規定も意欲的な新しい試みに対応できるように改善され、インスタレーションなどの出品も見て、県内美術界へのインパクトの大きい現代美術展的要素も加ってきた。

この期は、全国巡回展への本館のかかわりあいが大きく変化した時期でもある。新聞社など主催者側からの情報が殆んどなかった第一期に比べ、昭和57年度開催のサンパウロ美術館展の成功を機に情報も増し、年間3本の共催展をプログラムに組み入れる状況になった。誘致に当っては、企画に何らかの形で参画するとか、運営における共催者同士のチーム意識も強化を前提に選択がなされ、事業としての成功も含めて、魅力化に努める体制づくりが確立された。本館ではじめて1つの展覧会で10万人を越えたのは、昭和59年度の「ミレー展」である。

この第二期は、長期企画展計画を着実にこなしながら、一方でシンボリックな事業もからめ、ひとつひとつの展覧会が存在感を発揮されるようにプログラムが位置づけられ、ほぼ担当のローテーション通りに進行した。

一方、館蔵品の収集については、予算的には低迷の時代に入り、美術館建設ブームに伴う作品の高騰化傾向の中で、第二次収集計画の期間延長がやむを得ない状況となった。しかし、雲谷等顔作品や狩野松栄作品など貴重な作品や長谷川三郎の作品などが集められ、中でも、現代陶芸作品が、企画展とのからみで、積極的に収集され、性格づけが明確なコレクションの様相を示してきたのは、この期の特徴ともいえる。

〈第三期〉

昭和60年度から昭和63年度までの四年間である。

この時期の主催展は、自主企画展として、中国陶磁2000年の流れ展、戦後日本画の一断面展、THE NINE 展、雲谷派の系譜展、松田正平展、日本画・昭和の熱き鼓動展、1920年代・日本展、11人の1965～75展（写真）が開かれた。その特徴の一つは、開館以来の企画展計画路線上の本県美術を対象とするものとともに、それにとらわれない日本美術の時代相の特質を浮彫りにするテーマ性の強い問題提起型の自主企画展を開催したことである。第二には、デザインや写真などにもとりくみジャンルの広がりをみたこと、第三には、他館との共同企画の展覧会も自主企画展として位置づけたことなどが挙げられる。すなわち、自主企画展の内容や展示構成が多様化、大規模化に向かいつつあることに注目したい。美術館界の動向をみても、本館が開館してからでもこの10年間に、中国九州地方で公立美術館が15館開設された。スタッフ同士の交流も増し、次第に必要な経費も高騰している、さらに鑑賞者のニーズも肥えてきている。必然的に共同企画の展覧会は増えてくる情勢になってきた。企画展の現代美術のとりくみも、対象が広域性、多様性を持ち、変化に富んでいる。本館の主催する展覧会は、県美展も二部門制に踏み切ったことも含めて、現代の美術状況や美術館情勢を直視しながらも、柔軟に館活動を展開する時代に突入したといえよう。

共催展として開催された昭和61年度の山東省文物展では、企画交渉段階から館も一員として参画し、共同企画展として、本館で公開されたあと、東京、関西を巡回した。この展覧会の交渉準備期間は3年以上を要した。共同企画での各館との横の連絡をとりあつてのプログラミングは、長期的な展望なしでは実現がむづかしい。ましてや相互交流ともなれば尚更である。本館も昨年度から県費による館員の外国展交渉を兼ねた海外の美術館視察を開始することになった。

この期の館蔵作品収集で特筆すべきことは、念願であった香月泰男のシベリア・シリーズ未収集作品3点のうち2点「神農」「湿地」をコレクションに加えることができたことと、同じく香月泰男の版画の大量寄贈を受けたことであろう。また、植木茂の初期から晩年までの作風の変遷が通観できる彫刻作品35点を遺族から受贈したこと、常設展示や企画展示を通して、研究対象として写真も加え、写真のコレクションにとりかかったことなどであろう。

現在を含めてこの第三期は、新しい展開への脱皮、明日の美術館像づくりのための模索が始った時期ともいえる。開館10周年を迎えるに当たり、県立美術展のこれまでの歩みを意義あらしめるためにも、いっそう充実した館活動を創り出したいものである。

(足立明男 当館副館長)

I. 展覧会

(1) 自主企画展

昭和54年度

生誕150年狩野芳崖 —山口県立美術館 開館記念特別展—

1979年10月7日～11月18日 月曜日休館・10月8日開館

企画展示室Ⅰ・Ⅱ／常設展示室Ⅱ（一部）

展示作品 ●狩野芳崖 87点／関係作家 14点／計101点

●資料 12件

展覧会カタログ ●A4版 274ページ

●アート紙110kg／4色オフセット24ページ、2色オフセット178ページ

●上質紙90kg／オフセット72ページ

桂ゆき

1980年3月1日～3月30日 月曜日および3月20日休館

企画展示室Ⅰ・Ⅱ

展示作品 ●80点

展覧会カタログ ●A4版 80ページ

●アート紙110kg／4色オフセット24ページ、1色オフセット32ページ

●ダイヤペーク90kg／オフセット24ページ

昭和55年度

山口県現代美術選抜展

1980年8月2日～17日 月曜日休館

企画展示室Ⅰ・Ⅱ

出品作家 ●日本画5人／洋画24人／彫刻7人／工芸13人／書道18人／写真9人／デザイン4人
計80人

近代洋画の人間像

1980年10月18日～11月30日 月曜日休館・11月3日／24日開館

企画展示室Ⅰ・Ⅱ

展示作品 ●自画像 15点／婦人像 14点／風俗 9点／裸婦 18点／肖像 11点／子供 18点
／構想画から新しいイメージへ 14点／計 99点

展覧会カタログ ●A4版 192ページ

●アート紙110kg／4色オフセット80ページ

●上質紙90kg／オフセット112ページ

香月泰男 —その造形と抒情の軌跡—

1981年1月6日～2月8日 月曜日休館・1月15日開館

企画展示室Ⅰ・Ⅱ／常設展示室Ⅰ・Ⅱ

展示作品 ●油彩 193点／素描 33点／版画 12点／コラージュ 3点／陶画 55点／計 296点

●資料 9件

- 展覧会カタログ ● A 4 版 276ページ
●アート紙110kg/4色オフセット32ページ、2色オフセット128ページ
●上質紙90kg/オフセット116ページ

昭和56年度

山口の現代美術 I

1981年4月18日～5月10日 月曜日および4月29日休館

企画展示室 I・II

出品作家 ●澄川喜一、田中稔之、田辺 武、殿敷 侃、服部硯夫、濱野邦昭、藤崎恒頼、堀
晃、三輪龍作、吉村芳生

展覧会カタログ ●大スキラ版 44ページ
●アート紙90kg

古萩 —その源流と周辺—

1981年10月17日～11月29日 月曜日休館・11月23日開館

企画展示室 I・II/常設展示室 II

展示作品 ●李朝系 28点/萩系 81点/出雲系 3点/唐津系 14点/高取系 12点/上野系
9点/八代系 5点/薩摩系 8点/計 160点

展覧会カタログ ● A 4 版 220ページ
●アート紙110kg/4色オフセット128ページ
●上質紙90kg/オフセット92ページ

円山派と森寛齋 —応挙から寛齋へ—

1982年1月8日～2月11日 月曜日休館・1月15日開館

企画展示室 I・II/常設展示室 II

展示作品 ●走獣 22点/花鳥 23点/山水 32点/人物 21点/画卷 4点 /計 102点

展覧会カタログ ● A 4 版 176ページ
●アート紙110kg/4色オフセット24ページ、2色オフセット88ページ
●上質紙90kg/オフセット64ページ

昭和57年度

現代の陶芸 I —いま、土と火で何が可能か—

1982年4月17日～5月9日 月曜日および4月29日休館

企画展示室 I・II

出品作家 荒木高子、伊藤公象、鯉江良二、里中英人、星野 暁、三島喜美代、三輪龍作

展覧会カタログ ● A 4 版 48ページ
●アート紙110kg/4色オフセット4ページ、一色オフセット28ページ
●上質紙90kg/オフセット16ページ

中本達也と戦後美術の一断面

1982年7月24日～8月22日 月曜日休館

企画展示室 I・II

展示作品 ●中本達也 78点/関係作家 41点/計 119点

展覧会カタログ ● A 4 版 178ページ

- アート紙110kg／4色オフセット24ページ、1色オフセット96ページ
- 上質紙90kg／オフセット158ページ

三輪休和

1982年10月23日～11月28日 月曜日および11月23日休館

企画展示室Ⅰ・Ⅱ

- 展示作品 ●102点
- 展覧会カタログ ●A4版 148ページ
- アート紙110kg／4色オフセット80ページ
 - 上質紙90kg／オフセット68ページ

昭和58年度

山口の現代美術Ⅱ

1983年4月16日～5月8日 月曜日および4月29日休館

企画展示室Ⅰ・Ⅱ

- 出品作家 ●嶋田日出夫、武市 勝、西岡文彦、原田文明、堀 研、前川謙一、矢儀浩嗣、山下哲郎、吉松順一郎
- 展覧会カタログ ●大スキラ版 44ページ
- アート紙90kg

松林桂月 ーその墨と色彩の妙ー

1983年10月22日～11月27日 月曜日休館

企画展示室Ⅰ・Ⅱ／常設展示室Ⅱ

- 展示作品 ●72点
- 展覧会カタログ ●A4版 167ページ
- アート紙110kg／4色オフセット32ページ、1色オフセット64ページ
 - 上質紙90kg／オフセット71ページ

近・現代日本の彫刻

1984年1月6日～2月12日 月曜日休館

企画展示室Ⅰ・Ⅱ／常設展示室Ⅱ

- 展示作品 ●53点
- 展覧会カタログ ●A4版 128ページ
- アート紙110kg／4色オフセット48ページ
 - 上質紙90kg／オフセット80ページ

昭和59年度

雲谷等顔と桃山時代

1984年6月12日～7月22日 月曜日休館

企画展示室Ⅰ・Ⅱ／常設展示室Ⅱ

- 展示作品 ●雲谷等顔 27点／関係作家 11点
- 資料 6件
- 展覧会カタログ ●A4版 200ページ
- アート紙110kg／4色オフセット24ページ、2色オフセット124ページ

- 上質紙110kg／オフセット52ページ

現代の陶芸Ⅱ —いま、大きなやきものになにが見えるか—

1984年10月13日～11月11日 月曜日休館

企画展示室Ⅰ・Ⅱ／屋外

出品作家 ●伊澤乙也、佐藤 敏、杉浦康益、辻 晋堂、中村康平、西村陽平、ピーター・ボー
コス、三輪和彦、千葉県立盲学校生徒作品

展覧会カタログ ●A 4版 55ページ
●アート紙110kg／4色オフセット4ページ、1色オフセット48ページ

小林和作・須田国太郎

1985年1月5日～2月10日 月曜日休館

企画展示室Ⅰ・Ⅱ／常設展示室Ⅱ

展示作品 ●小林和作 77点／須田国太郎 57点／計 134点

展覧会カタログ ●A 4版 168ページ
●アート紙110kg／4色オフセット24ページ、1色オフセット72ページ
●上質紙90kg／オフセット72ページ

昭和60年度

山口の現代美術Ⅲ

1985年6月14日～7月7日 月曜日休館

企画展示室Ⅰ・Ⅱ

出品作家 ●荒瀬景敏、伊藤 誠、岡崎乾二郎、河村正之、吉川陽一郎、菊池敏直、蔵重範子、
佐川晃司、高木 修、砥上賢治、松浦寿夫、柳井嗣雄

展覧会カタログ ●大スキラ版 60ページ
●ニューエイジ90kg／表紙デザイン 磯部 司

中国陶磁2000年の流れ

1985年7月13日～8月18日 月曜日休館

企画展示室Ⅰ・Ⅱ／常設展示室Ⅱ

展示作品 ●165点
展覧会カタログ ●A 4版 226ページ
●アート紙110kg／4色オフセット84ページ、1色オフセット116ページ
●上質紙90kg／オフセット26ページ

戦後日本画の一断面

—模索と葛藤—

1986年1月7日～2月9日 月曜日休館・1月15日開館

企画展示室Ⅰ・Ⅱ／常設展示室Ⅱ

展示作品 ●70点
展覧会カタログ ●A 4版 178ページ
●アート紙110kg／4色オフセット24ページ、1色オフセット72ページ
●上質紙90kg／オフセット82ページ

昭和61年度

THE・NINE —9人のクリエイターたち—

1986年6月27日～7月27日 月曜日休館

企画展示室 I・II

- 展示作品 ●107点
展覧会カタログ ●A4版 116ページ
●アート紙110kg／4色オフセット60ページ
●ニューエイジ 90kg／1色オフセット56ページ

雲谷派の系譜 —雪舟の後継者たち—

1986年10月9日～11月16日 月曜日および11月4日休館

企画展示室 I・II／常設展示室II

- 展示作品 ●70点
展覧会カタログ ●A4版 222ページ
●アート紙110kg／4色オフセット40ページ、1色オフセット100ページ
●上質紙110kg／オフセット82ページ

現代の陶芸Ⅲ —いま、やきもの色に心ときめくか—

1987年2月28日～3月22日 月曜日休館

企画展示室 I・II

- 出品作家 ●井上雅之、金子 潤、佐々木 成、土門邦勝
展覧会カタログ ●A4版 40ページ
●アート紙110kg／4色オフセット4ページ、1色オフセット36ページ

昭和62年度

山口の現代美術Ⅳ 今日の立体 —素材・構造・イメージ—

1987年5月19日～6月14日 月曜日

企画展示室 I・II

- 出品作家 ●小泉俊己、竹田康宏、橋田尚之、中西 学、中原浩太、松井紫明
展覧会カタログ ●大スクラ版 60ページ
●アート紙110kg／4色オフセット8ページ、1色オフセット52ページ

松田正平展

1987年10月3日～11月8日 月曜日休館

企画展示室 I・II

- 展示作品 ●油彩 95点／油彩小品 16点／水彩 4点／素描 4点／計119点
展覧会カタログ ●A4版160ページ
●アート紙110kg／4色オフセット 84ページ
●上質紙90kg／オフセット76ページ

日本画・昭和の熱き鼓動

1988年1月7日～2月14日 月曜日休館

企画展示室 I・II／常設展示室II

- 展示作品 ●58点

- 展覧会カタログ ● A 4 版 144ページ
●アート紙110kg／4色オフセット64ページ
●上質紙90kg／オフセット80ページ

昭和63年度

1920年代・日本 ―都市と造形のモンタージュ―

1988年7月15日～8月21日 月曜日休館

企画展示室 I・II／常設展示室 II

展示作品 ● 作品等455点／資料19点／年表パネル等112点

展覧会カタログ ● A 4 版変形334ページ

ニュー・ジャパニーズ・スタイル・ペインティング

―日本画材の可能性―

1988年12月2日～12月25日 月曜日休館

企画展示室 I・II

出品作家 ● 内倉ひとみ、片山雅史、加藤悦郎、河嶋淳司、清司恵美、芝意文、芝野幸仁、諏訪直樹、宮前正樹、山田宴三、内倉ひとみ

展覧会カタログ ● A 4 版 44ページ

●アート紙110kg／4色オフセット8ページ、1色オフセット8ページ

●上質紙90kg／28ページ

11人の1965～75 ―日本の写真は変えられたか―

1989年1月6日～2月12日 月曜日休館

企画展示室 I・II

展示作品 ● 東松照明 23点／高梨豊 25点／森山大道 21点／中平卓馬 20点／深瀬昌久 23点／荒木経惟 20点／内藤政敏 20点／柳沢信 20点／須田一政 20点／田村彰英 24点／牛腸茂雄 60点／計276点

展覧会カタログ ● A 4 版208ページ

●アート紙110kg／2色オフセット136ページ

●上質紙90kg 72ページ

(2) 共催展など

昭和54年度

ルーマニア国立美術館展

1980年1月5日～27日 月曜日休館

- 主催 毎日新聞社・ルーマニア国立美術館・日本ルーマニア友好協会・T Y S テレビ山口・山口県立美術館
- 後援 外務省・文化庁・ルーマニア社会主義文化評議会・ルーマニア駐日大使館
- 会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ
- 展示作品 ●ルーマニア近代絵画（油彩） 30点／古画コレクション 40点／計70点
- 展覧会カタログ ●スキラ版118ページ

昭和55年度

マンガヤン展

南仏の抒情—乱舞する色彩

1980年6月27日～7月20日 月曜日休館

- 主催 読売新聞社・K R Y 山口放送・山口県立美術館
- 後援 外務省・文化庁・フランス大使館・山口県・山口県教育委員会
- 会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ
- 展示作品 ●油彩 60点／デッサン、パステル、水彩画 46点／計106点
- 展覧会カタログ ●スキラ版156ページ

インドネシア古代美術館展

仏跡ボロブドールとその周辺

1981年3月14日～4月12日 月曜日休館

- 主催 中国新聞社・T Y S テレビ山口・共同通信社・山口県立美術館
- 後援 インドネシア共和国政府・外務省・文化庁・ユネスコ・アジア文化センター・日本万国博覧会記念協会
- 会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ
- 展示作品 ●如来坐像など 約90点
- 展覧会カタログ ●スキラ版176ページ

昭和56年度

ピカソ陶芸展

1981年6月27日～8月2日 月曜日休館

- 主催 T Y S テレビ山口・毎日新聞社・T N C テレビ西日本・国際文化交流協会・山口県立美術館
- 後援 外務省・文化庁・スペイン大使館・フランス大使館・山口県・山口県教育委員会
- 会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ
- 展示作品 ●ファイアンス陶器ほか 計188点
- 展覧会カタログ ●スキラ版158ページ

イヴ・ブレイエル展

1981年12月9日～24日 月曜日休館

主催 K R Y 山口放送・読売新聞西部本社・山口県立美術館
後援 外務省・文化庁・フランス大使館・山口県・山口県教育委員会
会場 企画展示室 I・II
展示作品 ●油彩画 60点／水彩画 20点／デッサン 10点／舞台装置・衣装 5点／挿絵本
6点／計101点
展覧会カタログ ●スキラ版144ページ

昭和57年度

モーリス・ド・ブラマンク展

鮮烈な色彩ーフォーブの巨匠

1982年5月15日～6月27日 月曜日休館

主催 K R Y 山口放送・読売新聞西部本社・山口県立美術館
後援 外務省・文化庁・フランス大使館・山口県・山口県教育委員会
会場 企画展示室 I・II
展示作品 ●油彩画・水彩画・版画・陶画など 計106点
展覧会カタログ ●スキラ版132ページ

サンパウロ美術館展

1983年1月5日～30日 月曜日休館

主催 サンパウロ美術館・サンパウロ美術館展組織委員会・毎日新聞社・山口県立美術館
後援 外務省・文化庁・ブラジル大使館
会場 企画展示室 I・II
展示作品 ●ブラジル近・現代絵画 26点／ヨーロッパ名画 60点／計86点
展覧会カタログ ●A4版変型370ページ

昭和58年度

浮世絵の美

ー錦絵の系譜・春信から清親までー

1983年5月14日～6月19日 月曜日休館

主催 T Y S テレビ山口・山口県立美術館
後援 山口県・山口県教育委員会
会場 企画展示室 I・II
展示作品 ●絵師35人の代表的錦絵 計170余点
展覧会カタログ ●A4版228ページ

フランス近世名画展

1983年8月9日～9月11日 月曜日休館

主催 毎日新聞社・山口県立美術館
後援 外務省ほか
会場 企画展示室 I・II
展示作品 ●ルーヴル美術館、ルーアン、カーン、オルケアン、グルノーブル、モンペリエの各
美術館から選ばれた油彩画 計170余点
展覧会カタログ ●スキラ版214ページ

伝統工芸30年の歩み展

1984年3月10日～4月15日 月曜日休館

主催 東京国立近代美術館・K R Y山口放送・朝日新聞社・山口県立美術館
会場 企画展示室 I・II
展示作品 ●6部門 計約40点
展覧会カタログ ●A4版変型174ページ

昭和59年度

プラハ国立美術館秘蔵名画展・III

1984年5月4日～6月3日 月曜日休館

主催 プラハ国立美術館・毎日新聞社・山口県立美術館・栃木県立美術館
後援 外務省・文化庁・チェコスロバキア大使館
会場 企画展示室 I・II
展示作品 ●計97点
展覧会カタログ ●スキラ版180ページ

パスキン展

1984年8月3日～26日 月曜日休館

主催 読売新聞西部本社・K R Y山口放送・山口県立美術館
後援 外務省・文化庁・フランス大使館
会場 企画展示室 I・II
展示作品 ●油彩、デッサン、版画、水彩画など 計140点
展覧会カタログ ●A4版変型156ページ

ボストン美術館蔵ミレー展

1984年11月22日～12月23日 月曜日休館

主催 ボストン美術館・読売新聞西部本社・K R Y山口放送・山口県立美術館
後援 外務省・文化庁・アメリカ大使館・山口県・山口県教育委員会
会場 企画展示室 I・II
展示作品 ●油彩 26点／パステル 10点／版画 12点／計140点
展覧会カタログ ●A4版変型204ページ

昭和60年度

ピカソ展

ー長女マヤ・ピカソの秘蔵コレクションー

1985年5月3日～6月9日 月曜日休館

主催 T Y Sテレビ山口・毎日新聞社・山口県立美術館
後援 外務省・文化庁・フランス大使館
会場 企画展示室 I・II
展示作品 ●油彩、素描など 計89点
展覧会カタログ ●A4版変型154ページ

ルーベンス展

—巨匠とその周辺—

1985年10月2日～11月4日 月曜日休館

主催 K R Y山口放送・読売新聞社・山口県立美術館
後援 外務省・文化庁・ベルギー大使館・山口県・山口県教育委員会
会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ
展示作品 ●ルーベンス44点／その他26点／計70点
展覧会カタログ ●スキラ版160ページ

帖佐美行展

1985年12月6日～12月22日 月曜日休館

主催 読売新聞社・K R Y山口放送
会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ
展示作品 ●代表作 90点
展覧会カタログ ●スキラ版102ページ

ユトリ口展

—没後30年記念—

1986年2月27日～3月30日 月曜日休館

主催 K R Y山口放送・読売新聞社・山口県立美術館
後援 外務省・文化庁・フランス大使館・山口県・山口県教育委員会
会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ
展示作品 ●計70点
展覧会カタログ ●スキラ版150ページ

昭和61年度

大黄河文明の流れ 山東省文物展

1986年4月26日～6月15日 月曜日休館

主催 山口県・西武美術館・朝日新聞社・K R Y山口放送
後援 外務省・文化庁・中国大使館・朝日イブニングニュース社・国鉄九州総局・広島鉄道
管理局・米子鉄道管理局
会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ
展示作品 ●計100点／ 付属展示品10点
展覧会カタログ ●A 4版186ページ

フランス美術の黄金時代展

—ロココから印象派まで—

1986年11月29日～12月21日 月曜日休館

主催 T Y Sテレビ山口・毎日新聞社・山口県立美術館
後援 外務省・文化庁・フランス大使館・フランス芸術活動協会
会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ
展示作品 ●計77点
展覧会カタログ ●スキラ版196ページ

徳川美術館の名宝展

1987年1月6日～2月8日 月曜日休館

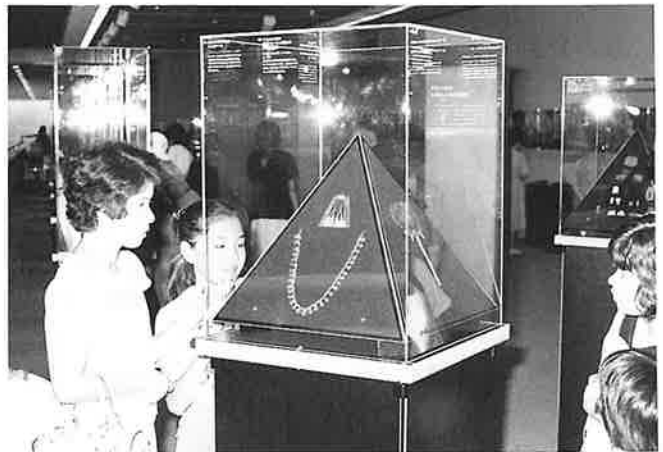
主催 徳川美術館・山口県立美術館・TYSテレビ山口・毎日新聞社

会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ

展示作品 ●国宝ほか約130点

展覧会カタログ ●A4版変型126ページ

※昭和62～63年度については年報参照（→110P以下）



古代エジプト展会場風景

(3) 移動美術館

昭和55年度 小林和作とその世界

8月13日～19日(7日間) 入館者 1549人(一日平均221人) 柳井市文化福祉会館

10月1日～7日(7日間) 入館者 1603人(一日平均229人) 萩市民館

パンフレット B5版・32ページ

昭和56年度 安井賞受賞作家展

5月17日～24日(8日間) 入館者 1100人(一日平均138人) 下関市民会館

5月27日～6月2日(7日間) 入館者 1670人(一日平均239人) 岩国市民会館

展示作品 油彩、水彩、版画など計45点

パンフレット 大スキラ版・13ページ

昭和57年度 山口県の洋画家—その画風の移り変わり—

7月15日～19日(5日間) 入館者 799人(一日平均160人) むつみ村農民研修所

10月30日～11月3日(5日間) 入館者 2579人(一日平均516人) 久賀町町民センター

展示作品 油彩、版画など計36点

パンフレット 大スキラ版・14ページ

昭和58年度 現代の美術

11月2日～6日(5日間) 入館者 2045人(一日平均409人) 阿武町中央公民館

11月9日～13日(5日間) 入館者 2134人(一日平均427人) 玖珂町町民センター

展示作品 油彩、版画、ブロンズ、陶など計27点

パンフレット 大スキラ版・20ページ

昭和59年度 風景との対話

10月17日～21日(5日間) 入館者 2474人(一日平均495人) 下松市立図書館

11月24日～28日(5日間) 入館者 1174人(一日平均235人) 錦町農村環境改善センター

展示作品 油彩、版画など計25点

パンフレット 大スキラ版・20ページ

昭和60年度 変容する人物表現

5月22日～26日(5日間) 入館者 1315人(一日平均263人) 由宇町文化会館

7月3日～7日(5日間) 入館者 3408人(一日平均682人) 長門市中央公民館

展示作品 油彩、素描、彫刻、陶彫など計40点

パンフレット 大スキラ版・32ページ

昭和61年度 動きとかたち

10月15日～19日(5日間) 入館者 1470人(一日平均294人) 東和町総合センター

11月22日～26日(5日間) 入館者 1025人(一日平均205人) 福栄村コミュニティセンター

展示作品 油彩、日本画、ブロンズ、陶など計40点

パンフレット 大スキラ版・36ページ

昭和62年度 美と出会うとき

11月12日～16日(5日間) 入館者 1671人(一日平均334人) 上関町中央公民館

11月19日～23日(5日間) 入館者 1333人(一日平均267人) 田万川町勤労者体育センター

展示作品 油彩、日本画、版画、彫刻など計40点

パンフレット 大スキラ版・32ページ

昭和63年度 美—見えるもの、見えないもの

11月2日～6日(5日間) 入館者 2240人(一日平均448人) 豊田町民センター

11月12日～16日(5日間) 入館者 1721人(一日平均344人) 美和町農林業者トレーニングセンター

展示作品 油彩、日本画、水彩、彫刻、素描など計38点

パンフレット 大スキラ版・32ページ

移動美術館

年度	タイトル	会期	開催場所	入館者	会期	一日平均入館者
昭和55年度	小林和作とその世界	8.13～8.19	柳井市文化福祉会館	1,549	7	221
		10.1～10.7	菟市民館	1,603	7	229
昭和56年度	安井賞受賞作家展	5.17～5.24	下関市民会館	1,100	8	138
		5.27～6.2	岩国市民会館	1,670	7	239
昭和57年度	山口県の洋画家 —その画風の移り変わり—	7.15～7.19	むつみ村農民研修所	799	5	160
		10.30～11.3	久賀町民センター	2,579	5	516
昭和58年度	現代の美術	11.2～11.6	阿武町中央公民館	2,045	5	409
		11.9～11.13	玖珂町民センター	2,134	5	427
昭和59年度	風景との対話	10.17～10.21	下松市立図書館	2,474	5	495
		11.24～10.28	錦町農村環境改善センター	1,174	5	235
昭和60年度	変容する人物表現	5.22～5.26	由宇町文化会館	1,315	5	263
		7.3～7.7	長門市中央公民館	3,408	5	682
昭和61年度	動きとかたち	10.15～10.19	東和町総合センター	1,470	5	294
		11.22～11.26	福栄村コミュニティセンター	1,025	5	205
昭和62年度	美と出会うとき	11.12～11.16	上関町中央公民館	1,671	5	334
		11.19～11.23	田万川町勤労者体育センター	1,333	5	267
昭和63年度	美—見えるもの、見えないもの	11.2～11.6	豊田町民センター	2,240	5	448
		11.12～11.16	美和町農林業者トレーニングセンター	1,721	5	344
計				31,310	99	316

(4) 山口県美術展覧会

出品総数の推移

分野	33回(昭54)	34回(昭55)	35回(昭56)	36回(昭57)	37回(昭58)	38回(昭59)	39回(昭60)	40回(昭61)	41回(昭62)	42回(昭63)	計
日本画	112	84	93	78	57	59	74	61	57	53	728
洋画	416	283	312	272	234	232	232	275	237	222	2,751
彫刻	35	28	18	20	18	16	10	14	18	12	189
工芸	368	271	214	182	153	153	143	153	148	127	1,912
書	513	451	284	225	200	162	156	163	139	98	2,391
デザイン	91	41	50	30	28	21	21	23	27	25	357
写真	195	97	133	113	148	151	168	198	237	255	1,695
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	14
計	1,730	1,225	1,104	920	838	794	804	887	899	806	10,037

入選点数の推移

分野	33回(昭54)	34回(昭55)	35回(昭56)	36回(昭57)	37回(昭58)	38回(昭59)	39回(昭60)	40回(昭61)	41回(昭62)	42回(昭63)	計
日本画	37	16	13	13	9	9	11	11	7	10	136
洋画	73	44	47	47	41	40	35	34	39	38	438
彫刻	8	8	2	1	1	1	2	3	2	2	30
工芸	81	57	33	30	29	32	20	29	31	30	372
書	188	79	47	38	37	37	23	25	21	13	508
デザイン	30	10	9	3	4	1	5	7	2	3	74
写真	30	17	21	18	22	26	27	31	35	39	266
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
計	447	231	172	150	143	146	123	140	137	136	1,825

入賞点数の推移

分野	33回(昭54)			34回(昭55)			35回(昭56)			36回(昭57)			37回(昭58)			38回(昭59)			39回(昭60)			40回(昭61)			41回(昭62)			42回(昭63)			計														
	最優秀	優秀	佳作	最優秀	優秀	佳作	最優秀	優秀	佳作	最優秀	優秀	佳作	最優秀	優秀	佳作	最優秀	優秀	佳作	最優秀	優秀	佳作	最優秀	優秀	佳作	最優秀	優秀	佳作	最優秀	優秀	佳作	最優秀	優秀	佳作												
日本画	-	1	1	2	-	1	1	1	-	1	1	3	-	1	1	3	-	1	1	2	1	1	1	2	-	-	1	1	-	-	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	2	8	9	19	
	4			3			5			5			4			5			2			1			5			4			38														
洋画	1	1	1	4	-	1	1	5	-	1	1	7	-	1	1	7	1	1	1	6	-	1	1	6	-	3	1	8	1	3	3	7	1	1	1	8	-	1	1	7	4	14	12	65	
	7			7			9			9			9			8			12			14			11			9			95														
彫刻	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	-	1	1	1	1	-	1	1	1	-	1	1	2	-	1	-	1	-	1	-	1	1	1	1	1	-	1	1	1	1	5	9	8	10
	4			4			3			4			3			3			2			2			4			3			32														
工芸	-	1	1	4	1	1	1	5	1	1	1	4	1	1	1	4	-	1	1	4	1	1	1	4	1	1	3	7	1	1	2	6	-	1	1	5	-	1	1	6	6	10	13	49	
	6			8			7			7			6			7			12			10			7			8			78														
書	-	1	1	6	-	1	1	6	-	1	1	7	-	1	1	6	-	1	1	7	-	1	1	7	-	1	1	5	-	1	1	4	-	1	1	6	1	1	1	6	1	10	10	60	
	8			8			9			8			9			9			7			6			8			9			81														
デザイン	-	1	1	2	-	1	1	1	-	1	1	1	-	-	1	2	-	-	-	2	-	-	1	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	1	1	-	1	1	1	-	6	7	13	
	4			3			3			3			2			3			1			1			3			3			26														
写真	-	1	1	4	-	1	1	3	-	1	1	2	-	1	1	3	1	1	1	5	-	1	1	6	1	-	1	6	-	1	2	5	-	1	1	7	-	1	1	10	2	9	11	51	
	6			5			4			5			8			8			8			8			8			9			12			73											
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	-			-			-			-			-			-			-			-			-			-			-			-			1								
計	2	7	7	23	2	7	7	22	2	7	7	24	2	6	7	26	2	6	6	27	2	5	7	29	2	7	7	28	2	7	7	31	2	7	7	32	20	66	70	266					
	39			38			40			41			41			43			44			42			47			49			424														

運當委員（順不同）

開催年 回数 運當委員	1979 昭和54年度 第33回	1980 昭和55年度 第34回	1981 昭和56年度 第35回	1982 昭和57年度 第36回	1983 昭和58年度 第37回	1984 昭和59年度 第38回	1985 昭和60年度 第39回	1986 昭和61年度 第40回	1987 昭和62年度 第41回	1988 昭和63年度 第42回
白杵華臣	白杵華臣									
角川政治(写)	角川政治									
福田百合子	福田百合子	福田百合子								
中村 脩(日)	中村 脩		中村 脩	中村 脩						
友近琢男(洋)	友近琢男	友近琢男	友近琢男	友近琢男						
服部碩夫(洋)	服部碩夫	服部碩夫	服部碩夫	服部碩夫						
吉賀大眉(工)	吉賀大眉	吉賀大眉	吉賀大眉	吉賀大眉						
杉本春生	杉本春生	杉本春生	杉本春生	杉本春生	杉本春生	杉本春生	杉本春生	杉本春生	杉本春生	杉本春生
田口克己(洋)	田口克己		田口克己	田口克己	田口克己	田口克己	田口克己	田口克己	田口克己	田口克己
田中江舟(書)	田中江舟	田中江舟	田中江舟	田中江舟	田中江舟	田中江舟				
田中米吉(彫)	田中米吉	田中米吉	田中米吉	田中米吉	田中米吉	田中米吉	田中米吉	田中米吉		
三堀英夫(写)		三堀英夫	三堀英夫	三堀英夫	三堀英夫	三堀英夫				
村上景介(日)		村上景介			村上景介	村上景介				
杉尾 守			杉尾 守	杉尾 守						
富永恒光(洋)					富永恒光	富永恒光	富永恒光	富永恒光	富永恒光	富永恒光
斉藤武男					斉藤武男	斉藤武男	斉藤武男	斉藤武男	斉藤武男	斉藤武男
三輪龍作(彫)					三輪龍作	三輪龍作	三輪龍作			
山本二郎					山本二郎		山本二郎	山本二郎	山本二郎	山本二郎
広実泉城(書)							広実泉城	広実泉城	広実泉城	広実泉城
大和保男(工)							大和保男	大和保男	大和保男	大和保男
下瀬信雄(写)							下瀬信雄	下瀬信雄	下瀬信雄	下瀬信雄
奥津 聖									奥津 聖	奥津 聖
川口政宏(彫)									川口政宏	川口政宏
県教委	山本康雄	小林末次	小林末次	小林末次	吉武康昌	吉武康昌	吉武康昌	東 章	工藤公照	工藤公照

審査員（分野別・順不同）

開催年 回数 運當委員	1979 昭和54年度 第33回	1980 昭和55年度 第34回	1981 昭和56年度 第35回	1982 昭和57年度 第36回	1983 昭和58年度 第37回	1984 昭和59年度 第38回	1985 昭和60年度 第39回	1986 昭和61年度 第40回	1987 昭和62年度 第41回	1988 昭和63年度 第42回
小野具定(日)	小野具定									
河本武士(日)	河本武士									
中村 脩(日)		中村 脩								
村上景介(日)	村上景介		村上景介							
藤川章造(洋)	藤川章造									
赤崎君美(洋)		赤崎君美								
尾崎正章(洋)	尾崎正章	尾崎正章								
秋山 泉(洋)	秋山 泉	秋山 泉	秋山 泉	秋山 泉						
富永恒光(洋)	富永恒光	富永恒光	富永恒光	富永恒光						
田辺 武(彫)	田辺 武									
川口政宏(彫)	川口政宏	川口政宏								
田中米吉(彫)								田中米吉		
兼田文男(工)	兼田文男									
坂田泥華(工)	坂田泥華									

Ⅱ. 入館者数一覽

入館者数一覽

展 覧 会 名	開 催 期 間	入館者数	累 計
常 設 展	54.11.20～55. 3.30 (106)	28,900	28,900
生誕150年狩野芳崖	54.10. 7～ 11.18 (38)	98,836	127,736
山口県学校美術展	54.11.29～ 12. 2 (4)	4,567	132,303
第33回県美展	54.12. 8～ 12.23 (14)	8,810	141,113
ルーマニア国立美術館展	55. 1. 5～ 1.27 (20)	65,799	206,912
桂 ゆ き 展	55. 3. 1～ 3.30 (25)	9,480	216,392
中・四国大学美術展	54.11.23～ 11.25 (3)	2,227	218,619
山口県高等学校教職	55. 2. 1～ 2. 7 (6)	959	219,578
美術書道展	55. 2.15～ 2.17 (4)	986	220,564
山口大学卒業制作展	55. 2.21～ 2.24 (4)	1,616	222,180
山口芸術短期大学卒業制作展	55. 2.21～ 2.24 (4)	1,616	222,180
54 年 度 計	(通 し 累 計)	222,180	(222,180)
常 設 展	55. 4. 1～56. 3.31 (269)	42,641	42,641
山口県現代美術選抜展	55. 8. 2～ 8.17 (14)	3,871	46,512
第34回県美展	55. 9. 6～ 9.21 (14)	8,867	55,379
近代洋画の人間像	55.10.18～ 11.30 (40)	30,015	85,394
香 月 泰 男 展	56. 1. 6～ 2. 8 (30)	17,593	102,987
伝 統 工 芸 新 作 展	55. 4.25～ 5. 5 (10)	5,232	108,219
日本現代工芸美術展	55. 5.10～ 5.25 (14)	7,200	115,419
第40回美術文化展	55. 5.31～ 6. 8 (8)	1,609	117,028
マ ン ギ ャ ン 展	55. 6.27～ 7.20 (21)	26,220	143,248
山口県学校美術展	55.12. 2～ 12. 7 (4)	4,798	148,046
第2回西	55.12.10～ 12.14 (5)	607	148,653
モダンアート協会展	55.12.10～ 12.14 (5)	607	148,653
山口大学卒業制作展	56. 2.26～ 3. 1 (4)	499	149,152
山口芸術短期大学卒業制作展	56. 3. 5～ 3. 8 (4)	1,368	150,520
インドネシア古代美術展	56. 3.14～ 3.31 (14)	7,387	157,907
55 年 度 計	(通 し 累 計)	157,907	(380,087)
常 設 展	56. 4. 1～57. 3.31 (304)	33,863	33,863
山口の現代美術Ⅰ	56. 4.18～ 5.10 (20)	4,802	38,665
第35回県美展	56. 9.19～ 10. 4 (13)	9,826	48,491
古 萩 展	56.10.17～ 11.29 (39)	25,132	73,623
円山派と森寛斎展	57. 1. 8～ 2.11 (30)	12,770	86,393
インドネシア古代美術展	56. 4. 1～ 4.12 (11)	8,862	95,255
日本現代工芸美術展	56. 5.16～ 5.31 (14)	7,766	103,021
伝 統 工 芸 新 作 展	56. 6. 4～ 6.14 (10)	3,138	106,159
ピカソ陶芸展	56. 6.27～ 8. 9 (38)	26,822	132,981
山口県学校美術展	56.12. 3～ 12. 6 (4)	4,447	137,428
イヴ・ブレイエル展	56.12. 9～ 12.24 (14)	5,808	143,236
モダンアート山口作家展	57. 2.18～ 2.21 (4)	740	143,976
山口大学卒業制作展	57. 2.25～ 2.28 (4)	896	144,872
山口芸術短期大学卒業制作展	57. 3. 4～ 3. 7 (4)	1,253	146,125
56 年 度 計	(通 し 累 計)	146,125	(526,212)

常設展	57. 4. 1~58. 3.31 (300)	37,033	37,033
現代の陶芸Ⅰ	57. 4.17~ 5. 9 (19)	2,736	39,769
ブラマンク展	57. 5.15~ 6.27 (38)	39,485	79,254
中本達也と戦後美術の一面	57. 7.24~ 8.22 (26)	3,760	83,014
第36回県美展	57. 9.18~ 10. 3 (13)	10,056	93,070
三輪休和展	57.10.23~ 11.28 (32)	10,451	103,521
山口行動展	57. 4. 3~ 4.11 (8)	1,886	105,407
新美会その後展	57. 7.10~ 7.18 (8)	1,243	106,650
山口県高等学校芸術文化祭	57. 8.27~ 8.29 (3)	830	107,480
山口県学校美術展	57.12. 2~ 12. 5 (4)	5,357	112,837
モダンアート展	57.12.11~ 12.19 (8)	895	113,732
サンパウロ美術館展	58. 1. 5~ 1.30 (24)	72,168	185,900
山口大学卒業制作展	58. 2.24~ 2.27 (4)	983	186,883
山口芸術短期大学卒業制作展	58. 3. 3~ 3. 6 (4)	1,398	188,281
57年度計	(通し累計)	188,281	(714,493)
常設展	58. 4. 1~59. 3.31 (303)	27,521	27,521
山口の現代美術Ⅱ	58. 4.16~ 5. 8 (19)	3,094	30,615
第37回県美展	58. 9.27~ 10.12 (14)	7,278	37,893
松林桂月展	58.10.22~ 11.27 (31)	11,915	49,808
近・現代日本の彫刻	59. 1. 6~ 2.12 (33)	6,499	56,307
伝統工芸30年の歩み展	59. 3.10~ 3.31 (19)	11,159	67,466
浮世絵の美	58. 5.14~ 6.19 (32)	42,354	109,820
第43回美術文化展	58. 6.22~ 6.26 (5)	516	110,336
日本現代工芸美術展	58. 6.30~ 7.17 (16)	4,720	115,056
日本国際美術家協会展	58. 7.21~ 7.28 (7)	1,433	116,489
全国高校文化祭	58. 8. 2~ 8. 4 (3)	2,349	118,838
フランス近世名画展	58. 8. 9~ 9.11 (31)	57,431	176,269
山口県学校美術展	58.12. 1~ 12. 4 (4)	3,879	180,148
山口芸術短期大学卒業制作展	59. 2.16~ 2.19 (4)	1,276	181,424
山口大学卒業制作展	59. 2.23~ 2.26 (4)	832	182,256
58年度計	(通し累計)	182,256	(896,749)
常設展	59. 4. 1~60. 3.31 (302)	28,753	28,753
伝統工芸30年の歩み展	59. 4. 1~ 4.15 (15)	11,667	40,420
雲谷等顔と桃山時代展	59. 6.12~ 7.22 (36)	17,011	57,431
第38回県美展	59. 9.11~ 9.30 (16)	9,058	66,489
現代の陶芸Ⅱ	59.10.12~ 11.11 (27)	3,006	69,495
小林和作・須田国太郎展	60. 1. 5~ 2.10 (32)	5,089	74,584
伝統工芸新作展	59. 4.21~ 4.29 (8)	1,594	76,178
プラハ国立美術館	59. 5. 4~ 6. 3 (27)	52,008	128,186
秘蔵名画展Ⅲ	59. 8. 3~ 8.26 (21)	13,002	141,188
パスキーン展	59. 8. 3~ 8.26 (21)	13,002	141,188
山口県学校美術展	59.11.15~ 11.18 (14)	4,718	145,906
ミレー展	59.11.22~ 12.23 (27)	104,758	250,664
山口大学卒業制作展	60. 2.14~ 2.17 (4)	1,200	251,864
山口芸術短期大学卒業制作展	60. 2.21~ 2.24 (4)	1,146	253,010
二紀展	60. 2.26~ 3. 3 (9)	2,896	255,906
山口県書道連盟選抜展	60. 3.23~ 3.31 (9)	1,912	257,818
59年度計	(通し累計)	257,818	(1,154,567)

常設展	60. 4. 2~61. 3.30 (304)	22,030	22,030
行動美術展	60. 4. 6~ 4.14 (8)	1,838	23,868
日本現代工芸美術展	60. 4.17~ 4.21 (5)	2,368	26,236
ピカソ展	60. 5. 3~ 6. 9 (33)	104,911	131,147
山口の現代美術Ⅲ	60. 6.14~ 7. 7 (21)	1,655	132,802
中国陶磁展	60. 7.13~ 8.18 (32)	7,128	139,930
第39回県美展	60. 9. 6~ 9.23 (16)	7,404	147,334
ルーベンス展	60.10. 2~ 11. 4 (30)	55,100	202,434
山口県学校美術展	60.11.21~ 11.24 (4)	4,634	207,068
中・四国大学美術展	60.11.29~ 12. 1 (3)	629	207,697
帖佐美行展	60.12. 6~ 12.22 (15)	2,293	209,990
戦後日本画の一断面展	60. 1. 7~ 2. 9 (30)	4,098	214,088
山口大学卒業制作展	61. 2.13~ 2.16 (4)	929	215,017
山口芸術短期大学卒業制作展	61. 2.20~ 2.23 (4)	1,426	216,443
ユトリロ展	61. 2.27~ 3.30 (26)	45,017	261,460
60年度計	(通し累計)	261,460	(1,416,027)
常設展	61. 4. 1~62. 3.31 (242)	17,673	17,673
大黄河文明の流れ	61. 4.26~ 6.15 (45)	148,821	166,494
山東省文物展	61. 6.27~ 7.27 (27)	3,626	170,120
THE NINE デザイン展	61. 8. 2~ 8.10 (8)	1,629	171,749
伝統工芸新作展	61. 8.16~ 8.24 (8)	1,383	173,132
美術文化展	61. 9.11~ 9.28 (16)	8,479	181,611
第40回県美展	61.10. 9~ 11.16 (34)	7,272	188,883
雲谷派の系譜展	61.11.21~ 11.24 (4)	5,851	194,734
山口県学校美術展	61.11.29~ 12.21 (20)	58,802	253,536
フランス美術の黄金時代展	62. 1. 6~ 2. 8 (30)	100,686	354,222
徳川美術館の名宝展	62. 2.12~ 2.15 (4)	1,313	355,535
山口大学卒業制作展	62. 2.19~ 2.22 (4)	1,577	357,112
山口芸術短期大学卒業制作展	62. 2.28~ 3.22 (20)	2,674	359,786
現代の陶芸Ⅲ	62. 3.28~ 3.31 (3)	1,306	361,092
川原慶賀展			
61年度計	(通し累計)	361,092	(1,777,119)
常設展	62. 4. 1~63. 3.31 (309)	18,923	18,923
川原慶賀展	62. 4. 1~ 5.10 (36)	13,208	32,131
山口の現代美術Ⅳ	62. 5.19~ 6.14 (24)	2,993	35,124
古代エジプト展	62. 6.27~ 8. 2 (32)	88,367	123,491
日本現代工芸美術展	62. 8. 5~ 8. 9 (5)	1,333	124,824
第41回県美展	62. 9. 9~ 9.25 (15)	7,426	132,250
松田正平展	62.10. 3~ 11. 8 (32)	7,306	139,556
山口県学校美術展	62.11.12~ 11.15 (4)	6,026	145,582
マチス展	62.11.20~ 12.27 (33)	31,844	177,426
日本画・昭和の熱き鼓動展	63. 1. 7~ 2.14 (34)	8,115	185,541
山口大学卒業制作展	63. 2.18~ 2.21 (4)	946	186,487
二紀展	63. 2.23~ 2.28 (6)	2,437	188,924
山口芸術短期大学卒業制作展	63. 3. 3~ 3. 6 (4)	1,254	190,178
20世紀美術偉大な先駆者たち展	63. 3. 9~ 3.31 (20)	20,139	210,217
62年度計	(通し累計)	210,317	(1,987,436)

常設展	63. 4. 1～ 1. 3.31 (308)	18,026	18,026
20世紀美術偉大な先駆者たち展	63. 4. 1～63. 4. 3 (3)	5,838	23,864
ルネ・マグリット展	63. 4. 8～ 5.15 (32)	54,642	78,506
伝統工芸新作展	63. 5.20～ 5.29 (9)	2,690	81,196
ハイテクアート展	63. 6. 3～ 6.26 (21)	18,437	99,633
服部碩夫展	63. 6.29～ 7. 3 (5)	806	100,439
1920年代・日本展	63. 7.15～ 8.21 (33)	14,853	115,292
第42回県美展	63. 9. 8～ 9.25 (16)	7,974	123,266
モダンアート展	63.10. 4～ 10. 9 (6)	1,209	124,475
豊饒なるインド展	63.10.15～ 11.20 (32)	23,200	147,675
山口県学校美術展	63.11.24～ 11.27 (4)	5,725	153,400
山口の現代美術Ⅴ	63.12. 2～ 12.25 (21)	1,757	155,157
11人の1965 - 75展	64. 1. 6～ 1. 2.12 (33)	3,638	158,795
山口大学卒業制作展	1. 2.16～ 2.19 (4)	1,001	159,796
山口芸術短期大学卒業制作展	1. 2.23～ 2.26 (4)	1,210	161,006
サージェント展	1. 3. 2～ 3.31 (25)	16,078	177,084
63年度計	(通し累計)	177,084	(2,164,520)



豊饒なるインド美術展会場風景

Ⅲ. 美術講演会および講座 美術館ニュース「天花(てんげ)」

美術講演会

1979(昭和54年)	水上 勉(小説家)	悲母観音私考	10月13日	山口市市民会館 大ホール
1980(昭和55年)	陰里鉄郎(東京国立文化財研究所)	近代洋画の人間像について	10月26日	美術館講座室
1981(昭和56年)	加藤唐九郎(陶芸家)	作陶談義	11月15日	美術館講座室
1982(昭和57年)	中原佑介(美術評論家)	私と戦後美術	7月31日	美術館講座室
1983(昭和58年)	西野新川(日本画家)	師・松林桂月を語る	10月30日	美術館講座室
1985(昭和60年)	高橋玄洋(劇作家)	小林和作を語る	1月15日	美術館講座室
1985(昭和60年)	長谷部楽爾(東京国立博物館)	中国陶磁について	7月21日	美術館講座室
1987(昭和62年)	金子 潤(陶芸作家)	オマハ・プロジェクトについて	2月28日	美術館講座室
1987(昭和62年)	河北倫明 (前京都国立近代美術館長)	昭和初期日本画の動き	1月17日	美術館講座室
1988(昭和63年)	シーモア・ハワード (カリフォルニア大学教授)	1920年代アヴァンギャルドについて	7月17日	美術館講座室
1988(昭和63年)	浅野 徹(東京国立近代美術館)	国際的な美術動向への呼応 —日本の前衛絵画の展開—	7月24日	美術館講座室

美術講座

1979(昭和54)年度

1980(昭和55年)	田中幸人(毎日新聞西部本社)	ドナウ川流域の美術	1月12日	美術館講座室
1980(昭和55年)	源 弘道(朝日新聞西部本社)	現代美術の動向と桂ゆき	2月23日	美術館講座室
1980(昭和55年)	針生一郎(美術評論家)	桂ゆきの世界	3月8日	美術館講座室

1980(昭和55)年度

1980(昭和55年)	吉賀大眉(陶芸家)	日本現代工芸美術展について	5月17日	美術館講座室
1980(昭和55年)	鈴木健二(九州芸術工科大学教授)	フォーヴの作家たち	7月6日	美術館講座室
1980(昭和55年)	富永恒光(山口芸術短期大学教授)	県美展の出品作品について	9月21日	県美展会場
1980(昭和55年)	田中米吉(彫刻家)	県美展の出品作品について	9月21日	県美展会場
1981(昭和56年)	岩田 礼(美術評論家)	香月泰男を語る	1月25日	美術館講座室

1981(昭和56)年度

1981(昭和56年)	中村 脩(日本画家)	県美展の出品作品について	9月19日	県美展会場
1981(昭和56年)	三堀英夫(写真家)	県美展の出品作品について	9月27日	県美展会場
1981(昭和56年)	田中江舟(書家)	県美展の出品作品について	10月4日	県美展会場
1982(昭和57年)	土居次義(京都芸工大名器教授)	円山応挙と祐常門主	1月23日	美術館講座室

1982(昭和57)年度

1982(昭和57年)	田中米吉(彫刻家)	県美展の彫刻について	9月19日	県美展会場
1982(昭和57年)	富永恒光(山口芸術短期大学教授)	県美展の洋画について	9月26日	県美展会場
1982(昭和57年)	田中江舟(書家)	県美展の出品作品について	10月3日	県美展会場
1983(昭和58年)	古川 薫(小説家)	私の好きな絵	1月9日	美術館講座室
1983(昭和58年)	中江 彬(大阪府立大学助教授)	西洋美術雑感	1月16日	美術館講座室

1983(昭和58)年度

1983(昭和58年)	福田東亜(山口芸術短期大学助教授)	フランスの絵画	8月21日	美術館講座室
-------------	-------------------	---------	-------	--------

1983(昭和58年)	服部碩夫(山口大学教育学部教授)	県美展の洋画について	10月2日	県美展会場
1983(昭和58年)	田中江舟(書家)	県美展の書について	10月9日	県美展会場
1983(昭和58年)	三堀英夫(写真家)	県美展の写真について	10月9日	県美展会場
1984(昭和59年)	三輪龍作(陶彫家)	私と彫刻	1月15日	美術館講座室
1984(昭和59)年度				
1984(昭和59年)	武田恒夫(大阪大学教授)	桃山絵画について	6月24日	美術館講座室
1984(昭和59年)	服部碩夫(山口大学教育学部教授)	県美展の洋画について	9月16日	県美展会場
1984(昭和59年)	三堀英夫(写真家)	県美展の写真について	9月16日	県美展会場
1984(昭和59年)	田中江舟(書家)	県美展の書について	9月22日	県美展会場
1984(昭和59年)	乾 由明(京都大学教授)	現代陶芸の動向	10月13日	美術館講座室
1985(昭和60)年度				
1985(昭和60年)	下瀬信雄(写真家)	県美展の写真について	9月8日	県美展会場
1985(昭和60年)	田中江舟(書家)	県美展の書について	9月8日	県美展会場
1985(昭和60年)	服部碩夫(山口大学教育学部教授)	県美展と現代美術(1)	9月15日	県美展会場
1985(昭和60年)	杉本春生(県美展運営委員)	県美展と現代美術(2)	9月15日	県美展会場
1986(昭和61年)	針生一郎(美術評論家)	日本画の問題点と可能性	1月15日	美術館講座室
1986(昭和61)年度				
1986(昭和61年)	服部碩夫(山口大学教育学部教授)	県美展の絵画について	9月14日	美術館講座室
1986(昭和61年)	下瀬信雄(写真家)	県美展の写真について	9月14日	県美展会場
1986(昭和61年)	三輪龍作(陶彫家)	県美展の立体作品について	9月21日	県美展会場
1986(昭和61年)	広実泉城(書家)	県美展の書について	9月21日	県美展会場
1986(昭和61年)	狩野博幸(京都市立博物館)	近世の絵画一流派と興亡	10月19日	美術館講座室
1987(昭和62)年度				
1987(昭和62年)	服部碩夫(山口大学教育学部名誉教授)	県美展の絵画について	9月13日	県美展会場
1987(昭和62年)	下瀬信雄(写真家)	県美展の写真について	9月13日	県美展会場
1987(昭和62年)	川口政宏(山口大学教育学部教授)	県美展の立体作品について	9月15日	県美展会場
1987(昭和62年)	広実泉城(書家)	県美展の書について	9月15日	県美展会場
1988(昭和63)年度				
1988(昭和63年)	服部碩夫(山口大学教育学部名誉教授)	県美展の絵画について	9月11日	県美展会場
1988(昭和63年)	川口政宏(山口大学教育学部教授)	県美展の立体作品について	9月11日	県美展会場
1988(昭和63年)	広実泉城(書家)	県美展の書について	9月15日	県美展会場
1988(昭和63年)	下瀬信雄(写真家)	県美展の写真について	9月15日	県美展会場

美術館ニュース「天花」

基本的には12ページ構成、年に4回、毎回2000部発行してきた。

発行状況

昭和54年		第1号(5月1日)	第2号(8月1日)	第3号(55年3月1日)
昭和55年	第4号(7月1日)	第5号(10月1日)	第6号(12月1日)	第7号(56年4月1日)
昭和56年	第8号(9月1日)	第9号(12月1日)	第10号(57年2月1日)	第11号(4月1日)
昭和57年	第12号(7月1日)	第13号(10月1日)	第14号(58年1月1日)	第15号(3月31日)
昭和58年	第16号(7月1日)	第17号(11月1日)	第18号(59年3月1日)	第19号(3月31日)
昭和59年	第20号(6月1日)	第21号(10月11日)	第22号(60年1月1日)	第23号(3月1日)
昭和60年	第24号(6月1日)	第25号(9月1日)	第26号(12月1日)	第27号(61年3月1日)
昭和61年	第28号(6月1日)	第29号(9月1日)	第30号(11月1日)	第31号(62年2月1日)
昭和62年	第32号(6月1日)	第33号(9月1日)	第34号(12月1日)	第35号(63年3月1日)
昭和63年	第36号(6月1日)	第37号(9月1日)	第38号(12月1日)	第39号(平成元年3月1日)
				計 39号



美術講演会風景

Ⅳ. 収集資料

(1) 美術資料

収集状況

	区分	年度	日本画	洋画	彫刻	工芸	その他	計
収 集	購	47~53	11	14	0	3	4	32
		54	5	1	5	1	0	12
		55	2	25	0	1	22	50
		56	5	5	2	10	0	22
		57	19	7	0	12	6	44
		58	5	2	6	5	0	18
	入	59	4	4	0	10	0	18
		60	4	2	1	5	0	12
		61	4	2	1	12	0	19
		62	1	4	1	2	25	33
		63	5	1	0	0	80	86
		小計	65	67	16	61	137	346
状 況	寄	47~53	83	87	29	25	12	236
		54	16	4	5	14	1	40
		55	2	2	3	6	0	13
		56	0	1	0	0	0	1
		57	1	0	0	2	0	3
		58	0	0	5	0	0	5
	贈	59	0	0	35	0	0	35
		60	6	0	0	1	0	7
		61	5	5	0	0	0	10
		62	4	0	0	0	0	4
		63	0	0	0	0	138	138
		小計	117	99	77	48	151	492
	合計	182	166	93	109	288	838	

収蔵作家リスト

(分野別五〇音順)

日本画

朝倉 撰 (1923-)
 朝倉 南陵 (1756-1843)
 岩崎 鐸 (1913-)
 岩崎 巴人 (1917-)
 巖島 虹石 (1869-1903)
 雲谷 等益 (1591-1644)
 雲谷 等鶴 (1674- ?)
 雲谷 等顔 (1547-1618)

雲谷 等竺 (1741-1803)
 雲谷 等哲 (1631-1683)
 雲谷 等璠 (1635-1724)
 雲谷 等与 (1612-1668)
 雲谷 等龍 (1804-1875)
 小田 海僊 (1785-1862)
 小野 具定 (1914-)
 金子 鷗雨 (1848-1884)
 兼重 暗香 (1872-1946)
 加納 三楽 (1898-1981)
 狩野 松栄 (1519-1592)

狩野 芳崖 (1828-1888)
 楠田 信吾 (1935-)
 坂口 一草 (1902-)
 佐々木縮往 (1649-1734)
 佐藤 多持 (1919-)
 澤野 文臣 (1914-)
 雪 舟 (1420-1506)
 高島 北海 (1846-1931)
 田中 柏陰 (1867-1934)
 長崎 莫人 (1929-)
 永富 等運 (1791-1832)

中野 弘彦 (1927-)
西野 新川 (1912-)
野村 耕 (1927-)
福田 翠光 (1895-1973)
藤田 隆治 (1907-1965)
松林 桂月 (1876-1963)
松林 雪貞 (1880-1970)
森 寛斎 (1814-1894)

油彩

入江 一子 (1916-)
尾崎 正章 (1912-)
香月 泰男 (1911-1974)
桂 ゆき (1913-)
河上 左京 (1889-1971)
桑重 儀一 (1883-1943)
小林 和作 (1888-1974)
里見 勝蔵 (1895-1981)
高橋 由一 (1828-1894)
田中 稔之 (1928-)
殿敷 侃 (1942-)
永地 秀太 (1873-1942)
中本 達也 (1922-1973)
錦 義一郎 (1898-1962)
長谷川三郎 (1906-1957)
服部 碩夫 (1924-)
松田 正平 (1913-)
三浦 俊輔 (1911-)
宮崎 進 (1922-)
山本 文彦 (1937-)
吉村 芳生 (1950-)

彫刻

伊藤 鈞 (1933-)
植木 茂 (1913-1984)
川口 政宏 (1936-)
河内山賢祐 (1900-1980)
新海竹太郎 (1868-1927)
澄川 喜一 (1931-)
田中 米吉 (1925-)

田辺 武 (1945-)
戸張 孤雁 (1882-1927)
豊福 知徳 (1925-)
中野 四郎 (1901-1968)
長嶺武四郎 (1904-1984)
中村 青田 (1912-198)
濱野 邦昭 (1951-)
最上 寿之 (1936-)

工芸

荒木 高子 (1921-)
井澤 乙也 (1959-)
井上 雅之 (1957-)
伊藤 公象 (1932-)
加藤 重美 (1935-)
金子 潤 (1942-)
鯉江 良二 (1938-)
坂高麗左衛門 (1912-1981)
(11 代)
坂倉新兵衛 (1881-1966)
(12 代)
坂倉新兵衛 (1917-1975)
(14 代)
坂田 泥華 (1915-)
(13 代)
佐々木 成 (1948-)
佐藤 敏 (1936-)
里中 英人 (1932-1989)
杉浦 康益 (1949-)
田原陶兵衛 (1925-)
(12 代)
土門 邦勝 (1945-)
中村 康平 (1948-)
西村 陽平 (1947-)
星野 暁 (1945-)
堀尾 卓司 (1910-1986)
三島喜美代 (1932-)
三輪 休雪 (1910-)
(11 代)
三輪 休和 (1895-1981)
(10代休雪)
三輪 龍作 (1940-)

大和 保男 (1933-)
吉賀 大眉 (1915-)
P. ボーコス (1924-)

写真

牛腸 茂雄 (1946-1983)
トーマス・ (1954-)
シュトルート
東松 照明 (1930-)
中平 卓馬 (1938-)
森山 大道 (1938-)

資料

雲谷 等顔 (1547-1618)
雲谷 等益 (1591-1644)
雲谷 等作 (1615-1671)
雲谷 等爾 (1615-1671)
雲谷 等的 (1606-1664)
雲谷 等哲 (1631-1683)
雲谷 等与 (1612-1668)
雲谷 等徽 (1767-1851)
雲沢 等悦
香月 泰男 (1911-1974)
狩野 洞白
河北 道介 (1850-1907)
桑重 儀一 (1883-1943)
小林 和作 (1888-1974)
斎藤 等順
等 碩
等 巴
永地 秀太 (1973-1942)
長谷川等的
福田 翠光 (1895-1973)
藤田 隆治 (1907-1965)
松林 桂月 (1876-1963)
松林 雪貞 (1880-1970)
峯村 北山
三輪 休和 (1895-1982)
森 寛斎 (1814-1894)

館藏品貸出利用状況（寄託品を含む）

年度	日本画	洋画	彫刻	工芸	水彩画	版画	資料	年度別計
昭和54年度	4	5		4				13
昭和55年度	4			1				5
昭和56年度		5		7				12
昭和57年度	3	9		2	22		6	42
昭和58年度	1	3		11	4	5		24
昭和59年度	7	20		1		2	1	31
昭和60年度	2	28	1	4				35
昭和61年度	14	8	32	9				63
昭和62年度	4	8						12
昭和63年度	25	30	2	6	2		1	66
領域別計	64	116	35	45	28	7	8	303

(2) 美術図書

美術図書収集状況（一般図書を含む）

年度	分類	0. 総記	1. 哲学	2. 歴史	3. 社会科学	4. 自然科学	5. 技術	6. 産業	7. 芸術	8. 言語	9. 日本文学	計
昭和54年度 ～55年度		84	15	98	9	6	4		933	29	18	1196
昭和56年度 ～57年度		3		7	1				266			277
昭和58年度 ～59年度		7		40	1	2	1		293		2	346
昭和60年度 ～61年度			1	38	1	3	3		319		2	367
昭和62年度 ～63年度		10	11	15	4	3	3	1	249		2	298
計		104	27	198	16	14	11	1	2051	29	24	2484

V. 組織等

美術館顧問

〈昭和54・55年度〉

前東京国立近代美術館長 岡田 讓
 京都国立近代美術館長 河北 倫明
 山口県芸術祭運営委員長 三好 正直
 陶芸家・日本工芸会会員 三輪 休雪

〈昭和56年度〉

前東京国立近代美術館長 岡田 讓
 京都国立近代美術館長 河北 倫明
 山口県芸術祭運営委員長 三好 正直
 陶芸家 三輪 休雪
 山口県教育委員会教育長 井上 謙治

〈昭和57年度〉

京都国立近代美術館長 河北 倫明
 山口県芸術祭運営委員長 三好 正直
 陶芸家 三輪 休雪
 山口県教育委員会教育長 井上 謙治

〈昭和58・59年度〉

京都国立近代美術館長 河北 倫明
 京都大学文学部教授 乾 由明
 山口県芸術祭運営委員長 三好 正直
 陶芸家 三輪 休雪
 山口県教育委員会教育長 井上 謙治

〈昭和60年度〉

京都国立近代美術館長 河北 倫明
 京都大学教養部教授 乾 由明
 山口県芸術祭運営委員長 三好 正直
 陶芸家 三輪 休雪
 山口県教育委員会教育長 高山 治

〈昭和61～63年度〉

美術評論家 河北 倫明
 京都大学教養部教授 乾 由明
 重要無形文化財蒔焼保持者 三輪 休雪
 山口銀行頭取 伊村 光
 山口大学名誉教授 友近 琢男

美術館作品収集審査員

〈昭和51年度〉

山口芸術短期大学教授 三好 正直
 山口大学教育学部教授 服部 碩夫

山口県立山口博物館長 白 杵 華 臣

〈昭和52年度〉

京都国立近代美術館長 河北 倫明
 山口芸術短期大学教授 三好 正直
 山口大学教育学部教授 服部 碩夫
 毛利報公会毛利博物館長 白 杵 華 臣

〈昭和53年度〉

山口芸術短期大学教授 三好 正直
 山口大学教育学部教授 服部 碩夫
 毛利報公会毛利博物館長 白 杵 華 臣

〈昭和54年度〉

東京国立博物館美術課長 小松 茂美
 東京国立近代美術館企画課長 三木 多聞
 ジャパンアート・コンサルタント社長 浦上 敏朗
 山口大学教育学部教授 服部 碩夫
 山口大学名誉教授 友近 琢男
 東京国立博物館主任研究官 細野 正信
 東京国立文化財研究所第2研究室長 関 千代

〈昭和55年度〉

東京国立博物館美術課長 小松 茂美
 東京国立近代美術館企画課長 三木 多聞
 ジャパンアート・コンサルタント社長 浦上 敏朗
 山口大学教育学部教授 服部 碩夫
 山口大学名誉教授 友近 琢男

〈昭和56・57年度〉

国立国際美術館長 小倉 忠夫
 東京国立博物館美術課長 小松 茂美
 ジャパンアート・コンサルタント社長 浦上 敏朗
 山口大学名誉教授 友近 琢男
 山口大学教授 服部 碩夫

〈昭和58～61年度〉

東京国立近代美術館美術課長 浅野 徹
 大阪大学文学部教授 武田 恒夫
 ジャパンアート・コンサルタント社長 浦上 敏朗
 山口大学名誉教授 友近 琢男
 山口大学教育学部教授 服部 碩夫

〈昭和62・63年度〉

東京国立近代美術館美術課長 浅野 徹
 大阪大学文学部教授 武田 恒夫
 ジャパンアート・コンサルタント社長 浦上 敏朗
 山口大学名誉教授 服部 碩夫
 山口大学教育学部教授 石原 達二

職員構成

〈昭和54年度〉

館長	(事)	河北	野村	良重	輔明
副館長	(〃)				
総務課長	(事)	古屋	泰弘	隆治	隆行
主任	(〃)	江頭	徳徳	三隆	正文
	(〃)	主事	古梅	本三	夫男
	(技)	監視員兼運転士			
学芸課長	(事)	足立	明男	影山	純夫
	(〃)	学芸員	高田	美規	雄雄
	(〃)	〃	安井	雄一	郎生
	(〃)	研究員	勝津	吉	
	(〃)	学芸員			
普及課長	(事)	佐々木	蔚昭	木本	信徹
主任	(〃)	〃	〃	〃	〃
	(〃)	学芸員			

〈昭和55年度〉

館長	(事)	河北	野村	良重	輔明
副館長	(〃)				
総務課長	(事)	徳江	光武	明治	明隆
主任	(〃)	〃	〃	〃	〃
	(〃)	主事	古梅	本三	男
	(技)	監視員兼運転士			
学芸課長	(事)	足高	明美	立田	規雄
	(〃)	学芸員	安井	雄一	郎生
	(〃)	研究員	榎本	吉	
	(〃)	学芸員	勝津		
	(〃)	〃			
普及課長	(事)	佐々木	蔚昭	木本	信徹
主任	(〃)	〃	〃	〃	〃
	(〃)	学芸員			

〈昭和56年度〉

館長	(事)	河野	良輔	澄川	一雄
副館長	(〃)				
総務課長	(事)	徳藤	光武	正文	明文
主任	(〃)	〃	〃	〃	〃
	(〃)	主事	古梅	本三	男
	(技)	監視員兼運転士			
学芸課長	(事)	足安	明雄	立井	一郎生
	(〃)	研究員	榎本	吉	
	(〃)	学芸員	勝津		
	(〃)	〃			
普及課長	(事)	佐々木	蔚昭	高山	英男
	(〃)	学芸員	木本	信	
	(〃)	〃			

(下関市教育委員会派遣)

〈昭和57年度〉

館長	(事)	河野	良輔	澄川	一雄
副館長	(〃)				
総務課長	(事)	松田	隆行	藤本	正文
主任	(〃)	〃	〃	〃	〃
	(〃)	主事	中梅	谷本	夫男
	(技)	監視員兼運転士			
学芸課長	(事)	足立	明男	榎本	純夫
	(〃)	专门学芸員	高田	美規	雄雄
	(〃)	学芸員	高山	英	男
	(〃)	〃	山本	田	男
	(〃)	〃	奥		聰
普及課長	(事)	佐々木	蔚昭	安井	雄一郎
	(〃)	研究員	勝津	吉	生
	(〃)	学芸員	木本	信	昭

(下関市教育委員会派遣)

〈昭和58年度〉

館長	(事)	河野	良輔	河村	平八郎
副館長	(〃)				
総務課長	(〃)	松田	隆行	藤本	正文
主任	(〃)	〃	〃	〃	〃
	(〃)	主事	内中	藤谷	久夫
	(技)	監視員兼運転士			
学芸課長	(事)	足立	明男	高田	美規
	(〃)	专门学芸員	安井	雄一	郎生
	(〃)	研究員	菊屋	吉	
	(〃)	学芸員			
普及課長	(事)	佐々木	蔚昭	榎本	信徹
	(〃)	专门学芸員	山本	英	男
	(〃)	学芸員	木本	信	昭

(下関市教育委員会派遣)

〈昭和59年度〉

館長	(〃)	河野	良輔	河村	平八郎
副館長	(〃)	〃	〃	立	明男
総務課長	(事)	小内	幹生	林藤	貴久
主任	(〃)	〃	〃	〃	〃
	(〃)	主事	中梅	谷本	三男
	(技)	監視員兼運転士			
学芸課長	(兼)(事)	足立	明男	榎本	純夫
	(〃)	主任	高田	美規	雄雄
	(〃)	专门学芸員	高山	英	男
	(〃)	学芸員	山本	田	男
	(〃)	〃			
普及課長	(兼)(事)	河村	平八郎	安井	雄一郎
	(〃)	研究員	米屋	優	
	(〃)	学芸員			

〈昭和60年度〉

館長 河野良輔
 副館長 (事) 河村平八郎
 副館長 (少) 足立明男

総務課
 課長 (事) 渡辺博
 主任 (少) 内藤貴久
 主任主事 (少) 中尾将史
 (技) 監視員兼運転士 梅本三男

学芸課
 課長 (兼) (事) 足立明男
 主任 (少) 榎本徹
 専門学芸員 (少) 高田美規雄
 (少) 学芸員 菊屋吉生
 (少) 学芸員 米屋優

普及課
 課長 (事) 芳西靖幸
 (少) 研究員 安井雄一郎
 (少) 学芸員 山本英男

〈昭和61年度〉

館長 河野良輔
 副館長 (事) 今井克己
 副館長 (少) 足立明男

総務課
 課長 (事) 渡辺博
 主任 (少) 田中幸一
 主任主事 (少) 中尾将史
 (技) 監視員兼運転士 梅本三男

学芸課
 課長 (兼) (事) 足立明男
 主任 (少) 榎本徹
 専門学芸員 (少) 高田美規雄
 (少) 学芸員 山本英男
 (少) 学芸員 米屋優

普及課
 課長 (事) 芳西靖幸
 (少) 研究員 安井雄一郎
 (少) 学芸員 菊屋吉生

〈昭和62年度〉

館長 河野良輔
 副館長 (事) 今井克己
 副館長 (少) 足立明男

総務課
 課長 (事) 早川健次
 主任 (少) 田中幸一
 主任主事 (少) 山ノ口達也
 (技) 監視員兼運転士 梅本三男

学芸課
 課長 (兼) (事) 足立明男
 主任 (少) 榎本徹
 専門研究員 (少) 安井雄一郎
 専門学芸員 (少) 菊屋吉生
 (少) 学芸員 斎藤郁夫

普及課
 課長 (事) 芳西靖幸
 主任 (少) 高田美規雄
 (少) 学芸員 山本英男

〈昭和63年度〉

館長 河野良輔
 副館長 (事) 倉増洋二
 副館長 (少) 足立明男

総務課
 課長 (事) 早川健次
 主任 (少) 田中幸一
 主任主事 (少) 山ノ口達也
 (技) 監視員兼運転士 梅本三男

学芸課
 課長 (兼) (事) 足立明男
 主任 (少) 榎本徹
 専門研究員 (少) 安井雄一郎
 専門学芸員 (少) 学芸員 菊屋吉生
 (少) 学芸員 福島恒徳

普及課
 課長 (事) 吉本侃司
 主任 (少) 高田美規雄
 (少) 学芸員 斎藤郁夫

職員の動静

48. 4 美術館建設準備調査のため指導主事として足立明男、山口県文化課に採用（←山口大学付属中学校教諭）
50. 1 足立明男、指導主事を専門研究員（研究職）に任命替え
◇ 美術館建設準備のため専門研究員として木本信昭、山口県文化課に採用（←山口大学付属中学校教諭）
50. 4 美術館建設準備のため研究員として高田美規雄、新規採用（←東京芸術大学・修）
50. 8 東京国立近代美術館に足立明男、研修派遣（50. 11まで）
51. 9 東京国立近代美術館に木本信昭、研修派遣（51. 11まで）
52. 4 美術館建設準備のため研究員として影山純夫、転属（←山口県文化課文化財保護主事）
53. 4 美術館建設準備のため研究員として安井雄一郎（←九州大学・博）、勝津吉生（←立命館大学・学）新規採用
◇ 美術館開設準備室発足 室長 河野良輔（兼・山口県文化課長）／主幹 木梨亮一／古屋泰弘（兼・同課長補佐）／庶務主任 江頭徳治／専門研究員 足立明男・木本信昭／研究員 高田美規雄・影山純夫・安井雄一郎・勝津吉生
53. 9 東京国立博物館に高田美規雄、研修派遣（53. 11まで）
54. 4 美術館副館長として北村重明、転入（←山口県東京事務所次長）
◇ 普及課長として佐々木蔚、転入（←山口県通商観光課長補佐）
◇ 総務課主事として古屋 隆、転入（←宇部養護学校主事）
◇ 監視員兼運転士として梅本三男、転入（←山口県印刷所）
◇ 普及課学芸員として榎本徹、新規採用（←東京教育大学・修）
◇ 山口県立美術館発足
54. 10 山口県立美術館開館
55. 2 国立国際美術館に安井雄一郎、研修派遣（55. 3まで）
55. 4 美術館総務課長、古屋素弘、転出（←山口県教育研修所管理部長）同職に、徳光武明、転入（←山口県地方課外事係長）
影山純夫、普及課に転属（←学芸課）
榎本徹、学芸課に転属（←普及課）
◇ 安井雄一郎、非常勤講師として山口大学に出講（55. 9まで）
◇ 影山純夫、非常勤講師として山口県立女子大学に出講（55. 9まで）
55. 10 榎本徹、非常勤講師として山口県立女子大学に出講（56. 3まで）
◇ 京都国立博物館に影山純夫、研修派遣（→55. 12まで）
56. 4 副館長、北村重明、転出（→山口県医務課長）
◇ 総務課主任、江頭徳治、転出（→山口県教育庁指導課管理係長）
◇ 木本信昭、下関市教育委員会に派遣（→下関市立美術・博物館〈仮称〉開館準備室長補佐）
◇ 影山純夫、辞職（→山口大学教育学部講師）
◇ 副館長として澄川一雄、転入（←萩県税事務所次長）
◇ 総務課主任として藤本文正、転入（←大津教育事務所主任）
◇ 普及課学芸員として山本英男、新規採用（←大阪大学・学）
◇ 高田美規雄、普及課に転属（←学芸課）
56. 10 榎本徹、中華人民共和国へ出張（56. 10. 23から11. 1まで）
57. 1 出光美術館に榎本徹、研修派遣（57. 3まで）

57. 4 総務課長、徳光武明、転出 (→山口県県民生活課課長補佐)
- ◇ 総務課主事、古屋隆、転出 (→山口県教育庁総務課主事)
 - ◇ 総務課長として、松田隆行、転入 (←山口県港湾課課長補佐)
 - ◇ 総務課主事として、中谷寧夫、転入 (←柳井土木事務所主事)
 - ◇ 学芸課学芸員として、奥田聡、併任 (下関市教育委員会事務局付主事)
 - ◇ 榎本徹、学芸課専門学芸員に昇任 (←学芸課学芸員)
 - ◇ 高田美規雄、山本英男、学芸課に転属 (←普及課)
 - ◇ 安井雄一郎、勝津吉生、普及課に転属 (←学芸課)
57. 10 河野良輔、足立明男、中華人民共和国へ出張 (57. 10. 27から11. 5)
58. 1 山種美術館に勝津吉生、研修派遣 (57. 2まで)
58. 4 副館長、澄川一雄、転出 (→山口県県民生活課長)
- ◇ 同職に、河村平八郎、転入 (←山口県衛生看護学院事務局長)
 - ◇ 浜本 聡、転入 (←下関市立美術館)
 - ◇ 安井雄一郎、菊屋吉生、学芸課に転属 (←普及課)
 - ◇ 榎本 徹、山本英男、普及課に転属 (←学芸課)
 - ◇ 高田美規雄、学芸課専門学芸員に昇任 (←学芸課学芸員)
58. 5 高田美規雄、イタリア共和国へ出張 (58. 5. 24～6. 11)
58. 8 総務主任、藤本正文、転出 (→山口県教育委員会福利課長期給付係長)
- ◇ 同職に、内藤貴久、転入 (← 教職員課主任主事)
58. 9 足立明男、中華人民共和国へ出張 (58. 10. 12～10. 25)
59. 3 木本信昭、辞職 (→下関市立美術館副館長)
- ◇ 館長、河野良輔、退職 (→非常勤館長)
 - ◇ 浜本 聡、転出 (→下関市立美術館)
59. 4 館長 (非常勤) 河野良輔、任用
- ◇ 学芸課長、足立明男、副館長兼学芸課長に昇任
 - ◇ 総務課長、松田隆行、転出 (→山口県企業局総務課長補佐)
 - ◇ 同職に、小林幹生、転入 (←防府林業事務所総務課長)
 - ◇ 普及課長、佐々木蔚、転出 (→山口県視聴覚センター所長)
 - ◇ 副館長、河村平八郎、普及課長兼務
 - ◇ 榎本 徹、学芸課主任に昇任 (←普及課専門学芸員)
 - ◇ 普及課学芸員として米屋 優、新規採用 (←京都大学・学)
 - ◇ 山本英男、学芸課に転属 (←普及課)
 - ◇ 安井雄一郎、普及課に転属 (←学芸課)
59. 9 足立明男、榎本 徹、中華人民共和国へ出張 (59. 10. 21～11. 2)
60. 2 山種美術館に菊屋吉生、研修派遣 (60. 3まで)
60. 3 足立明男、榎本 徹、中華人民共和国へ出張 (60. 3. 22～4. 3)
60. 4 館長 (非常勤) 河野良輔、任用
- ◇ 総務課長、小林幹生、転出 (→中央児童相談所総務課長)
 - ◇ 同職に渡辺博、転入 (←県庁舎建設事務局総務課総務係長)

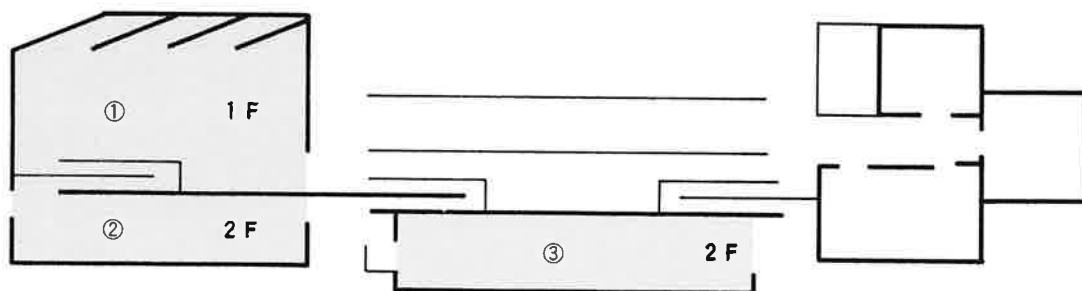
- ◇ 普及課長、芳西靖幸、転入 (←文化課文化財保護係長)
- ◇ 総務課主事の中谷寧夫、転出 (→消防防災課主事)
- ◇ 総務課主任主事、中尾将史、転入 (←山口県税事務所主任主事)
- ◇ 米屋優、学芸課に転属 (←普及課)
- ◇ 山本英男、普及課に転属 (←学芸課)
- 60. 9 榎本徹、中華人民共和国へ出張 (60. 9. 20～10. 8)
- 60. 11 大阪大学に山本英男、研修派遣 (60. 12まで)
- 61. 4 館長 (非常勤) 河野良輔、任用
 - ◇ 副館長、河村平八郎、転出 (→視聴覚センター所長)
 - ◇ 同職に、今井克己、転入 (←徳山保健所次長)
 - ◇ 総務課主任、内藤貴久、転出 (→長門土木事務所用地係長)
 - ◇ 同職に、田中幸一、転入 (←十種ヶ峰野活センター主任)
 - ◇ 山本英男、学芸課に転属 (←普及課)
 - ◇ 菊屋吉生、普及課に転属 (←学芸課)
 - ◇ 榎本徹、中華人民共和国へ出張 (61. 4. 5～4. 15)
- 61. 10 榎本徹、中華人民共和国へ出張 (61. 10. 8～10. 28)
 - ◇ 米屋 優、辞職 (→61. 10. 31、京都府教育委員会文化財保護課)
- 62. 4 館長 (非常勤) 河野良輔、任用
 - ◇ 総務課長、渡辺 博、転出 (→電子計算課長補佐)
 - ◇ 同職に早川健次、転入 (←通商観光課長補佐)
 - ◇ 総務課主任主事、中尾将史転出 (→下関土木事務所主任)
 - ◇ 同職に山ノ口達也、転入 (←柳井保健所)
 - ◇ 安井雄一郎、学芸課専門研究員に昇任 (←普及課研究員)
 - ◇ 菊屋吉生、学芸課専門学芸員に昇任 (←普及課学芸員)
 - ◇ 高田美規雄、普及課主任に昇任 (←学芸課専門学芸員)
 - ◇ 学芸課に齋藤郁夫、新規採用 (←大阪大学・博)
- 62. 7 山本英男、辞職 (→京都国立博物館)
- 63. 4 館長 (非常勤) 河野良輔、任用
 - ◇ 副館長、今井克己転出 (→監査課長)
 - ◇ 同職に倉増洋二、転入 (←岩国林業事務所次長)
 - ◇ 普及課長、芳西靖幸、転出 (→防府養護学校高等部主事)
 - ◇ 同職に吉本侃司、転入 (←社会教育課社会教育主事)
 - ◇ 学芸課に福島恒徳、新規採用 (←九州大学・修)
 - ◇ 齋藤郁夫、普及課に転属 (←学芸課)
- 63. 5 足立明男、オランダ王国、フランス共和国、ギリシャ共和国、イタリア共和国に出張 (63. 6. 2～6. 17)
- 63. 6 河野良輔、大韓民国に出張 (63. 6. 13～6. 17)
- 63. 8 榎本徹、アメリカ合衆国に出張 (63. 9. 5～9. 25)

事業

I. 展覧会

(1)企画展

館主催による自主企画展を毎年3本ひらいている。内訳は、予算規模に応じて大型企画展2、小型企画展1の割りで開催しているが、大型企画展ではおもに個人作家展およびテーマ展、小型企画展（普及活動）では現代美術をそれぞれとりあつかっている。会場は、基本的に企画展示室Ⅰ①・Ⅱ②を使用。内容によっては両室を別々の展覧会に利用することもあり、また大型企画展の場合、この2室に加え常設展示室Ⅱ③を併用し3つの会場を効果的に利用するなど、会場使用の原則には内容に応じて柔軟性をもたせている。



①企画展示室Ⅰ 583.298㎡（延べ面積）

②企画展示室Ⅱ 304.695㎡（ 〳 ）

③常設展示室Ⅱ 471.825㎡（ 〳 ）

※ 凡例 企画展記録は、名称・趣旨・会場構成・展観カタログ・出品作品・展評の順で編集されている。

松田正平展

1987(昭和62)年10月3日～11月8日

月曜日休館



主催 山口県立美術館
会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ



(1) 趣旨

油絵具を塗っては掻き落とすというやり方で色層を重ねていく。そうして得られた重厚だが透明感をたたえる絵肌に乗って瀬戸内の海が茫洋とひろがる。たちのぼる水蒸気にけぶる海景、空とぶ鷗やトンビ、走る舟、涌きおこる雲…、近年の松田正平の画境を一言で言い尽くすことは不可能だが、どこか間をはずしたような飄逸味のただよう形態、それに薄い色層をいくえにも塗りかさねた透明感のある絵肌(マチエル)には他の追隨を許さぬ氏独自の世界があるように思われる。

ふりかえると、明治末から大正期にかけて生まれた松田正平の世代は、幕末から明治はじめにかけて将来された油絵の技法にたいして最も自意識をもった世代だったと言っていいだろう。ヨーロッパ芸術からの借物あるいは模倣の意識にまっこうから対決をいどみ、日本人の油絵とは何なのかを真剣に考え悩んだ世代、ヨーロッパ美術を先達の洋画家たちのようにそのまま単純素朴にうけいれるには自意識的でありすぎ、かといって否定するにはまだ余りにも強い憧れでヨーロッパにむすびついていた世代、そして欺瞞のなかで問題の所在をすりかえて絵を描きつづけることを潔ぎよしとはしない潔癖かつ知的良心的でありすぎた世代といった言葉で要約できるかもしれない。氏の初期から一貫してみられるマチエルへのこだわりも、淵源をたどれば、油絵にたいするこの世代の自意識に帰着するものだろう。文士が小説家となり絵かきがアーティストとなる世相史では、絵かきという言葉が最もふさわしい世代ともいえるだろう。これは敬称である。

とはいえ、今回の展覧会で意図した第一は、松田正平の半世紀余にわたる画業をとにかく初期から近年まで展望することにあつた。正統派の油絵画家として紹介に値すると思われるにもかかわらず一般に知られてきた氏の画業は断片的で一貫性に欠き、話題にされるわりに氏の素顔はそれほど知られていないと思われたからである。氏の画業を戦後絵画史に位置づけるという早急な一般化は当初から本展の意図にはなかつた。とにかく作品をじっくり見ていただくことを念頭に置き企画に

あたった。近年、大上段からふりかぶって作家を意味づけようとする試みが少なくない。その恐るべき粗雑な論理を使う勇気が小さな担当者には欠けていたのもその理由である。作品の追跡調査によって制作の各エポック間を点綴するにふさわしい作品があらたに見い出されたこと、それに展覧会歴、年譜を今回ある程度まとめることができたことなどが成果であり、その成果にもとづき画業のエポックとして次のような時代区分をたて作品を展示した。

- (1) 東京美術学校時代からパリ留学まで(1930年～39年)
- (2) 帰国、戦中期(1939年～45年)
- (3) 光時代(1946年～52年)
- (4) 東京時代(1952年～63年)
- (5) 鶴舞時代(1963年～)

(2) 会場構成



- ①コーナー (1)初期から近作までの代表的油彩画
 ②コーナー (2)油彩画小品、水彩画、デッサン

(3) カタログ

責任編集 安井雄一郎

内容

ごあいさつ

松田正平展によせて 河北倫明(前京都国立近代美術館長)
 香月泰男と松田正平 福島葉子(故福島繁太郎長女・フォルム画廊社長)

松田正平の世界 洲之内徹(美術評論家・現代画廊主)

カラー図版

記録-松田正平

正平さんの鳴咽 山本保(前宇部市立図書館長)／美術学校時代の松田君と絵 筒井広道(画家・高知大学名誉教授)／日独館時代の松田正平君 中山誠(医師)／師範学校と松田正平先生 直野進(画家)／光市のころの松田正平画兄 尾崎正章(画家)／国展研究所の松田正平先生 麻生秀穂



(画家・東京芸術大学助教授)／昭和30年代の松田正平氏
藤田士朗(隣生画廊)

年譜

カタログ

年譜・展覧会歴・文献目録 安井雄一郎編

カタログ 斎藤郁夫・安井雄一郎編

索引

- A 4 版 160ページ
- アート紙 110kg／4色オフセット84ページ
- 上質紙 90kg／オフセット78ページ

(4) 出品目録

番号	作 品	制作年	寸 法(cm)
油彩			
1	宇部港湾風景	1929	41.1×53.2
2	中谷氏祖母の肖像	1932	45.6×33.5
3	高津浜風景	1933	64.9×90.8
4	裸婦習作	1934	80.5×53.2
5	裸婦習作	1935	53.5×72.8
6	N氏の肖像	1935	60.3×50.0
7	婦人像	1935	162.0×112.0
8	ジャニーヌ	1938	65.5×50.5
9	シモーヌ・ルシアン	1938	33.3×24.2
10	コロー「真珠の女」模写	1938	73.0×53.0
11	裸婦	1938	65.5×50.2
12	パリーの裏町	1938	65.0×50.5
13	二人の裸婦	1939	53.3×72.8
14	モレーの辻	1939	53.3×65.6
15	ネル・コレ	1939	54.7×37.5
16	壺とジャガイモのある静物	c1940	33.7×53.5
17	画家の父	1942	45.8×38.3
18	家	1942	72.7×100.0
19	上白根風景	1943	80.5×53.2
20	バラ	c1946	21.7×33.4
21	裸婦	1947	65.5×50.2
22	Y嬢	1947	73.0×50.4
23	女生徒	1949	72.8×50.3
24	光海岸	c1950	45.6×37.4
25	内海夕日	1952	72.8×50.3
26	バラ	1952	45.8×33.2
27	祝島風景	1953	50.3×65.5
28	光市風景	1953	45.8×60.7
29	玉川風景	1953	50.7×72.8
30	顔を覆う女	1953	60.8×50.4
31	婦人像	1953	41.3×32.2
32	M婦人像	1953	53.0×40.9
33	古代魚	1954	73.0×117.0
34	高萩海岸	c1954	27.5×41.0

35	銭湯	1955	80.5×61.0
36	はげこう	1955	61.0×72.4
37	ケシ	1955	33.4×45.2
38	桑	1955	50.7×72.8
39	自画像	1955	46.3×37.8
40	祝島	c1956	32.2×41.0
41	月夜	1956	116.8×81.0
42	飛行機雲	1956	91.2×116.8
43	東京湾	1957	91.5×73.0
44	綾取り	1957	73.0×116.8
45	バラ	1957	53.4×33.9
46	砧風景	1958	45.7×60.9
47	まりも	1958	31.9×41.0
48	燈台	1959	80.5×115.3
49	高萩風景	1957-9	91.8×66.4
50	乾魚	1959	60.6×91.0
51	裸婦	1959	35.0×91.9
52	かみきり虫	1959	53.4×80.6
53	星座	1959	41.1×27.7
54	燈台 (宇部港湾)	1960	91.0×116.8
55	眠る人	1960	60.5×90.8
56	鳥	1960	41.3×53.4
57	子供達	1961	91.1×65.3
58	ろうそく立てとパイプ	1964	27.3×41.0
59	跳ぶ男	1964	65.3×91.0
60	男たち	1965	116.7×90.8
61	バラ	1965	41.3×32.2
62	杉木立	1967	50.4×73.0
63	祝島風景	1970	38.0×45.6
64	海辺	1971	81.1×116.7
65	W氏の肖像	1971	41.0×32.0
66	瀬戸内海	c1971	45.6×65.3
67	裸婦	1973	50.2×72.7
68	祝島風景	c1973	41.0×53.0
69	大威徳明王	1975	116.4×72.8
70	大威徳明王	1975	41.2×24.4
71	周防灘	1975	65.6×50.4
72	周防灘	1976	53.4×73.0
73	大威徳明王	1976	65.3×45.9
74	周防灘	1976	50.3×65.3
75	裸婦	1977	65.4×91.2
76	おひょう	1977	53.2×72.9
77	祝島風景	1977	41.1×53.3
78	NC嬢	1977	45.7×33.5
79	大威徳明王	1978	90.8×60.6
80	裸婦 (草の上)	1978	65.4×91.3
81	鷺	1978	38.2×45.6
82	周防灘風景	1979	80.5×117.1
83	周防灘朝日	1979	53.4×72.8
84	四国犬	1979	41.3×53.5
85	バラ図	1979	31.9×41.1

86	周防灘 (祝島)	1980	80.5×116.7
87	周防灘	1981	80.3×116.8
88	周防灘	1982	91.1×65.5
89	バラ	1983	73.0×50.3
90	周防灘	1983	80.5×116.8
91	大きな魚 (おひょう)	1984	72.7×116.7
92	周防灘	1985	65.4×91.0
93	モデル	1986	74.5×165.2
94	自画像 (Mの肖像)	1986	41.5×32.0
95	周防灘	1987	80.5×117.0

油彩小品

1	パイプ	1952	24.4×33.6
2	洋梨とブドウ	1954	22.3×27.9
3	文楽人形	1963	24.4×33.7
4	イカ	1965	24.4×33.6
5	平郡島	1966	15.7×22.7
6	洋梨	1970	27.5×22.0
7	出漁	1971	24.4×33.7
8	バラ	1975	33.8×24.5
9	バラ	1975	18.0×14.2
10	バラ		41.2×24.5
11	人形	1977	18.2×14.0
12	灰皿	1979	18.2×14.3
13	めいぼう	1979	24.4×33.5
14	少女	1981	33.6×24.6
15	時計	1981	16.1×22.8
16	裸婦	1984	27.5×45.8

水彩

1	文楽人形		24.5×33.0
2	イチヂク		25.5×37.5
3	鳥	1968	28.2×40.0
4	裸婦	1984	25.0×33.5

素描

1	S氏の肖像	1979	45.8×38.0
2	バラ	1980	46.0×38.0
3	女性像	1984	34.7×26.1
4	女	1983	33.5×25.0

(5) 展評など

新聞(報道記事をのぞく)

シリーズ

松田正平展から 安井雄一郎 読売新聞(県内)／ 1. パリーの裏町 1938 (10. 4) 2. 画家の父 1942 (10. 16) 3. 内海夕日 1952 (10. 23) 4. 周防灘 1983 (10. 30)

松田正平展から 安井雄一郎 山口日々新聞／ 1. 絵かきの誕生(10. 16) 2. 東京美術学校時代(10. 18) 3. パリ留学(10. 20) 4. 戦中期(10. 23) 5. 光時代(10. 25) 6. 東京時代(10. 28) 7. 鶴舞時代1 (10. 30) 8. 鶴舞時代2 (11. 1) 9. 松田洋画のマチエール (11. 3) 10. 祝島・周防灘(11. 6)

日本画・昭和の熱き鼓動

1988（昭和63）年1月7日～2月14日

月曜日休館



主催 山口県立美術館
会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ
常設展示室Ⅱ



(1) 趣 旨

近年、近現代の日本画について検証を試みようという展覧会が、各地の国公立美術館で開催されている。しかしこれらの展覧会も時代的にみれば、どうやら大正期と戦後というふたつの時期に集中しているようで、それらの期間にはさまれた昭和初期の日本画の検証ということになると、いまだ充分なかたちではなされていないように思われる。今回の展覧会は、この昭和初期に焦点をしぼり、とくにその新たな胎動に着目しつつ、当時の20・30代を中心とした若き画家たち30名の作品、58点を展示し、この時代の日本画が、なにを新たに追求しようとしたのかを考えてみようとするものであった。

ここで注目しなければならないのは、当時昭和の新感覚を身につけた若い日本画家たちによってしだいに結成されはじめた研究会派や研究小グループの存在である。それらには、昭和の新たな時代意識を敏感に受けとめようという若い世代が集まり、帝展や院展ですでに老成しつつあった大家たちのめざした絵画のあり方とは、またちがった方向性を志向しようとしていた。そしてその方向性こそが、戦後の日本画の新しいうねりへと直接的に結びついていったわけである。

なおこのたびの展覧会では、当時次々生まれてきた日本画の研究会派、研究小グループのそれぞれの方向性や姿勢の差異、傾向を整理する上から、大まかに以下の3つのセクションに分けてみた。

I. 官展における新傾向

大日美術院、瑠爽画社、一來社などに集まった画家たち（常岡文亀、加藤栄三、東山魁夷、山田申吾、菅澤幸司、山本丘人、杉山寧、浦田正夫、高山辰雄）

II. 在野精神とモダンスタイル

新興美術院、青龍社、明朗美術連盟、山樹社、新日本画研究会、新美術人協会などに集まった画家たち（小林巢居、茨木杉風、田中案山子、坂口一草、加納三楽、落合朗風、東条光高、吉

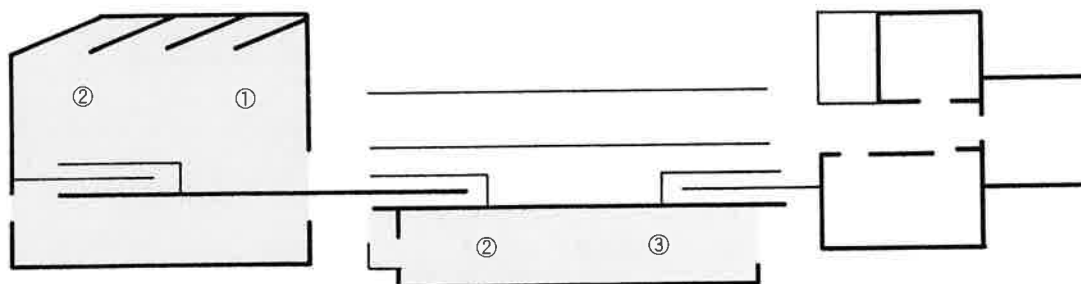
岡堅二、福田豊四郎、小松均、藤田隆治、藤田復生、柴田安子、藤田妙子、岩崎鐸)

Ⅲ. 日本画のアヴァンギャルド

歷程美術協会、ホクト社、新興美術家協会などに集まった画家たち(丸木位里、岩橋英遠、山岡良文、田口壮、山崎隆、玉村方久斗)

大正末から日本画壇の趨勢は、謹厳で静澄な雰囲気をつたえた新古典主義へと向かうが、そのいっぽうでは昭和の全く新しいよそおいを整えた日本画と呼べるべきものが登場してきた。軍事色が強まるなかで、若き日本画家たちは、昭和の新時代意識を背景とした、彼らの熱い息吹と鼓動をこめた活動をおこなった。こうした動きは、やがて大戦という厳しい統制時代のトンネルをくぐらなければならなかったが、戦後の日本画の隆盛と多様化の動向に直接つながるといふ大きな意味をもっているのである。今こうして当時の作品をふりかえる展覧会を開催したのも、そのことにより、さらにいっそう戦後の日本画の実相が明らかになるのでは、と考えたからにはほかならない。当時の若者たちが抱いた問題意識は、時代をへだてた今日にも多くの共通点をもっていることに気づかなければならないだろう。

(2) 会場構成



①官展における新傾向 ②在野精神とモダンスタイル ③日本画のアヴァンギャルド

(3) カタログ

責任編集 菊屋吉生

内容

ごあいさつ

「日本画・昭和の熱き鼓動」によせて

河北倫明 (美術評論家)

図版 (カラー)

昭和初期新日本画運動についての一試論

菊屋吉生 (山口県立美術館学芸員)

出品作家紹介・資料・参考図版・展覧会関連年譜 菊屋吉生編

出品目録

● A 4版 144ページ ● アート紙110kg / 4色オフセット64ページ

● 上質紙90kg / オフセット80ページ

日本画
昭和の熱き鼓動



(4) 出品目録

作品番号	作品名	作者	材質・形状・寸法 (cm)	制作年	所蔵・初出展覧会
I. 官展における新傾向					
1	蘭花譜	常岡文亀	絹本彩色 屏風2曲1隻 (各)174.5×83.5	昭和16 (1941)	第4回大日美術院展
2	随喜	常岡文亀	絹本彩色・額 106.0×141.5	昭和16 (1941)	東京競馬場 第4回新文展
3	雨後	加藤栄三	紙本彩色 屏風2曲1隻 180.5×187.0	昭和12 (1937)	第1回大日美術院展
4	自然と形象(3部作) 雪の谷間 秋の山 早春の麦畑	東山魁夷	紙本彩色・額3面 125.0×125.0 150.0×150.0 125.0×125.0	昭和16 (1941)	第3回日本画院展
5	霜晨	山田申吾	紙本彩色・額 123.0×242.0	昭和11 (1936)	山梨県立美術館 昭和11年文展
6	断崖	山田申吾	紙本彩色・額 183.2×253.5	昭和12 (1937)	山梨県立美術館 第1回大日美術院展
7	断崖の秋	菅澤幸司	紙本彩色・額 187.0×149.0	昭和22 (1947)	第3回日展
8	庭園	山本丘人	紙本彩色・額 203.0×151.5	昭和13 (1938)	目黒雅叙園 第2回新文展
9	黒い海	杉山 寧	紙本彩色・額 48.5×90.5	昭和10 (1935)	第1回瑠爽画社展
10	秋意	杉山 寧	紙本彩色 屏風4曲1隻 217.8×302.0	昭和12 (1937)	第1回新文展
11	構内	浦田正夫	紙本彩色・額 67.0×97.0	昭和8 (1933)	
12	喇嘛廟	浦田正夫	絹本彩色・額 48.0×97.0	昭和16 (1941)	第1回一采社展
13	白鷺	高山辰雄	紙本彩色 屏風6曲1双 (各)167.7×371.4	昭和14頃 (C.1939)	
14	雨	高山辰雄	紙本彩色・軸 116.5×70.3	昭和16 (1941)	第1回一采社展
II. 在野精神とモダン・スタイル					
15	岩	小林巢居	紙本彩色 屏風2曲3隻 (各)177.4×207.4	昭和15 (1940)	第3回新興美術院展
16	土機光象(上・下)	小林巢居	紙本淡彩・画巻2巻 (各)55.0×1664.9	昭和18 (1943)	第6回新興美術院展
17	南方12景	茨木杉風	紙本彩色 屏風6曲1隻 132.9×345.6	昭和18 (1943)	滋賀県立近代美術館
18	日光街道	田中案山子	紙本彩色 屏風2曲4隻 (各)169.0×177.5	昭和16 (1941)	來福寺 第4回新興美術院展
19	大仏寺	坂口一草	紙本彩色・額 269.0×194.0	昭和16 (1941)	第13回青龍社展
20	海の市日	加納三楽	紙本彩色 屏風2曲1隻 212.0×243.0	昭和7 (1932)	兵庫県立近代美術館 第4回青龍社展
21	舟耕	加納三楽	紙本彩色 屏風2曲1双 (各)227.0×258.0	昭和9 (1934)	第6回青龍社展
22	湯の精	落合朗風	絹本彩色・額 180.5×100.5	昭和7頃 (C.1932)	

23	浴室	落合朗風	紙本彩色 屏風 2 曲 1 隻 212.0×302.0	昭和 8 (1933)	東京国立近代美術館 第 5 回青龍社展
24	茶郷二題	落合朗風	絹本彩色・額 2 面 (各)157.0×55.0	昭和 9 (1934)	明朗美術創立記念試作展
25	正覚断臂	東条光高	紙本彩色 屏風 2 曲 1 双 (各)188.5×181.5	昭和 15 (1940)	串本応挙芦雪館 第 7 回明朗美術連盟展
26	くぬぎ林	小松 均	紙本彩色 屏風 2 曲 1 隻 182.5×210.0	昭和 5 (1930)	京都市美術館 第 11 回帝展
27	鯨	小松 均	紙本彩色 屏風 2 曲 1 双 (各)169.0×186.0	昭和 6 (1931)	京都国立近代美術館 第 18 回再興院展
28	金毘羅山図	小松 均	紙本墨画淡彩・軸 172.5×93.0	昭和 13 (1938)	
29	山湖遊行巻	福田豊四郎	紙本彩色・画巻 66.6×1090.0	昭和 4 (1929)	秋田県立博物館 第 1 回青龍社展
30	壽	福田豊四郎	紙本彩色 屏風 4 曲 1 隻 213.0×377.0	昭和 13 (1938)	秋田県立博物館 第 1 回新美術人協会展
31	鴉	福田豊四郎	紙本銀箔墨画 屏風 6 曲 1 双 (各)168.5×372.0	昭和 15 (1940)	第 3 回新美術人協会展
32	母子	吉岡堅二	紙本彩色・額 181.0×83.6	昭和 9 (1934)	東京国立近代美術館 第 1 回山樹社展
33	馬	吉岡堅二	紙本銀箔彩色 屏風 4 曲 1 隻 212.0×364.0	昭和 14 (1939)	東京国立近代美術館 第 5 回焔土社展
34	水原	吉岡堅二	紙本銀箔彩色 屏風 6 曲 1 隻 211.7×546.0	昭和 15 (1940)	東京国立近代美術館 第 3 回新美術人協会展
35	閑庭	藤田隆治	紙本彩色 屏風 2 曲 1 隻 194.0×197.6	昭和初年 (1925~30)	
36	めらはど	柴田安子	紙本彩色・額 72.0×99.0	昭和 11 (1936)	第 4 回春の青龍社展
37	秋の静物	藤田復生	紙本彩色・額 98.0×64.0	昭和 13 (1938)	第 1 回新美術人協会展
38	山嶺	岩崎 鐸	紙本彩色・額 211.0×300.0	昭和 13 (1938)	第 1 回新美術人協会展
39	夜	岩崎 鐸	紙本彩色・額 211.0×300.0	昭和 14 (1939)	第 2 回新美術人協会展
40	白芥子	藤田妙子	紙本彩色 屏風 2 曲 1 隻 196.0×254.0	昭和 14 (1939)	第 2 回新美術人協会展
41	ひまわり	藤田妙子	紙本彩色 屏風 2 曲 1 隻 177.0×146.0	昭和 15 (1940)	第 3 回新美術人協会展
Ⅲ. 日本画のアヴァンギャルド					
42	池	丸木位里	紙本彩色 屏風 2 曲 1 隻 145.5×204.0	昭和 11 (1936)	第 6 回青龍社展
43	らくだ	丸木位里	紙本彩色 屏風 2 曲 1 隻 171.0×183.0	昭和 12 (1937)	広島県立美術館 第 5 回春の青龍社展
44	土	岩橋英遠	紙本彩色 屏風 2 曲 1 隻 151.0×152.0	昭和 13 (1938)	第 2 回自由美術家協会展

45	歴史	岩橋英遠	紙本彩色 屏風 2 曲 1 隻 167.0×183.0	昭和15 (1940)	大毎東日奉祝日本画展
46	魁春	岩橋英遠	紙本彩色・軸 145.5×51.5	昭和15頃 (C.1940)	
47	放鳥	山岡良文	紙本彩色・額 132.0×97.0	昭和13 (1938)	第1回歷程美術協会展
48	朝鮮古廟 蒼龍図 白虎図 持送天人図	山岡良文	紙本彩色・額 3 面 (各)60.5×72.0	昭和13 (1938)	第1回歷程美術協会展
49	蒼空	山岡良文	紙本彩色・額 91.5×130.0	昭和14 (1939)	第1回歷程美術試作展
50	喫茶室	田口 壮	紙本彩色 屏風 2 曲 1 隻 160.0×179.6	昭和 9 (1934)	第15回帝展
51	鏡の前	田口 壮	紙本彩色・額 143.4×109.5	昭和12頃 (C.1937)	大分県立安心院高校
52	季節の停止	田口 壮	紙本彩色・額 112.2×78.5	昭和13 (1938)	第1回歷程美術協会展
53	風	山崎 隆	紙本彩色 屏風 2 曲 1 隻 168.0×184.6	昭和16 (1941)	第6回歷程美術協会展
54	高原	山崎 隆	紙本彩色 屏風 6 曲 1 双 (各)167.0×372.0	昭和16 (1941)	第6回歷程美術協会展
55	戦地の印象	山崎 隆	紙本彩色 屏風 4 曲 1 隻 169.0×372.0	昭和17 (1942)	第8回歷程美術協会展
56	港町寸景	玉村方久斗 (1893~1951)	紙本彩色・額 66.2×66.2	昭和 7 頃 (C.1932)	京都国立近代美術館
57	休日	玉村方久斗	紙本彩色・額 66.2×66.2	昭和 7 頃 (C.1932)	京都国立近代美術館
58	西鶴一代女	玉村方久斗	紙本彩色・まくり 絵30.0×94.6 ~ 33.0×123.0 詞30.0×38.8 ~ 33.5×43.0	昭和23 (1948)	

(5) 展評など

新聞 (報道記事をのぞく)

展評

初期作品を発掘・検証 読売新聞 (西部) / (秋山) 63・1・21(夕)

日本画—昭和前期の熱き鼓動 朝日新聞 (西部) / (源) 63・1・29

眼低手高 いま日本画 京都新聞 / (太田垣) 63・2・13

シリーズ

日本画 昭和の熱き鼓動 朝日新聞 (県内) / (①吉岡堅二「氷原」(63・1・19) ②東山魁夷「自然と形象」(1・20) ③岩橋英遠「歴史」(1・21) ④杉山寧「秋意」(1・22) ⑤柴田安子「めらはど」(1・27) ⑥玉村方久斗「港町寸景」(1・29) ⑦落合朗風「浴室」(2・5)

エッセイ

戦前昭和の新しい胎動検証 菊屋吉生 新美術新聞 / 62・12・11 (No.488)

美術雑誌

昭和前期 新日本画が生まれた 菊屋吉生 芸術新潮 / 63・2

“時代”を生きた若き画家たち 岩橋英遠・田中日佐夫 (対談)

歴史の欠落と空白 菊屋吉生 ART '88 / 63 春季号 No.122

「1920年代・日本

—都市と造形のモンタージュ—

1988(昭和63)年7月15日～8月21日

月曜日休館



主催 山口県立美術館
山口放送
朝日新聞社
会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ
常設展示室Ⅱ



(1) 趣 旨

日本の1920年代が、歴史的に他と明確に区別できる特異な時期であるという認識は、学問的に確立されているとはいいがたいかも知れない。それまでの通念としては、「大正デモクラシー」とか「昭和のモダニズム」というように、元号を仮設のタイトルに冠して呼称されることが多かったわけだが、少なくとも美術の上では、明治末期（40年代）から大正初期にかけての、具体的にいえば、文部省美術展覧会の設置（明40）や雑誌『白樺』の創刊（明43）から、二科会の設立（大3）を経て、未来派美術協会が結成（大9）されるまでの時期をひとつの段階として、アクションやマヴォなどの小団体の結成、解散が繰り返されるなかで、いわゆるプロレタリア・アートの動きが出てきて、やがてそれらが弾圧されていく一方、既存団体の方から独立美術協会（昭5）や九室会（昭8）が生まれてくるといった流れを考察してみると、1920年代に流れ込んできたものと、そこから展開していったものを象徴的に表わすことのできる時代概念として、また同時に、近代というより大きな問題をとらえる上で、この用語はかなり有効であると考えられるようになってきている。

たとえば、明治という時代は、工部美術学校や東京美術学校の設置という形で、いわば行政先行で西欧的な価値の普及がはかられた前期と、水彩画の流行や同時進行的な海外の動向の摂取などによって、個人のレベルで美術が考えられるようになった後期を考慮することができるだろう。しかもこのふたつの内容は、より大きな近代化という問題の底辺に位置づけられる性質のものとして、いかにすれば近代前期としてまとめることが可能である。

これに続く時期が本展であつかう1920年代であり、近代化のひとつの結末が第二次世界大戦に設定できるとすれば、昭和初期以降、すなわち1930年代以降が、第三章として設定されるいわゆる近代化の終章となるだろう。

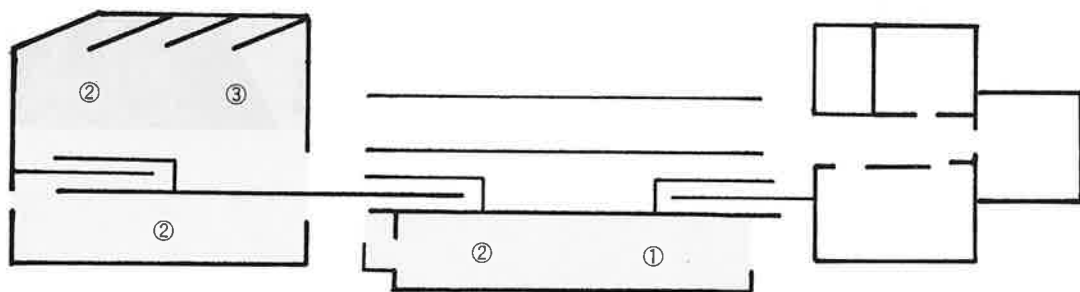
では、1920年代は、実質的にどのような内容をもつのだろうか。

本展では、このことについて三部構成という形でひとつの提案をしている。すなわち、(1)プロロ

ーグ、(2)機械・ダイナミズム・構成、(3)都市・モダニズム・大衆、である。(1)の意味については既述のとおりであり、むしろ(2)と(3)が対になっていることに特徴が示されているのである。ここでは近代化の本質を、工業化 (industrialization) と規定し、それにともなう環境変化、具体的には都市の出現とその指導原理の美術への反映がとり上げられる。一方では国際的な規模で近代化が進行し、第一次大戦後のアメリカの隆盛が深く影を落としている。反面、文化領域でのヨーロッパの影響力も引き続いて圧倒的でありながら、近代化の後進国である日本的な事情、いわば急進化の諸矛盾もそのままに大きく吹き出してきたのがこの時期の日本の特徴である。

近代化の諸問題は今日もなお引き継がれているとすれば、その原点ともいべき時代を子細に洗い出すことによってその解決の糸口を探ることが可能であり、1920年代展は、そうした意味で大きな課題を担った内容のものであると考えることができる。

(2) 会場構成



①プロローグ／1920年代への序奏

②機械・ダイナミズム・構成

③都市・モダニズム・大衆

(3) カタログ

あいさつ

[総論]1920年・日本 萬木康博

I プロローグ 1920年代への序奏

山田耕筈と美術家たち 秋山邦晴

〈自然〉の解体 飯沢耕太郎

日本の前衛の前提 鈴木博之

II 機械・ダイナミズム・構成

都市モダニズムの輝き 飯沢耕太郎

都市の新しい貌 鈴木博之

大正期の明晰なる啓蒙 網戸武夫

1920年代と物の世界 多木浩二

《朝から夜中まで》と築地小劇場 池田浩士



石井漠と20年代 市川雅
表現主義映画の衝撃 山本喜久男

Ⅲ 都市モダニズム・大衆

1920年代大阪・神戸断章 山野英嗣
中山岩太と芦屋カメラクラブ 中島徳博
〈大大阪〉の建築家たち 木下直之
〈綜合芸術〉の諸相と斎藤佳三 長田謙一
宇部のモダニズム 高田美規雄
機械時代のグラフィズムへ 柏木博

資料編

出品目録

作家略歴

ドキュメント：新興美術の動向1920—1927 野崎たみ子編

年表 野崎たみ子編

主要参考文献 野崎たみ子編

● A 4 版変形 334ページ

● 上質紙 90kg／4色オフセット97ページ，1色オフセット237ページ



会場風景

(4) 出品目録

番号	作品	作者	材質・形状・寸法(cm)	制作年	所蔵
I a 美術					
1	無題	萬鉄五郎	21.5×32.9 布・油彩	1912年	岩手県立博物館
2	風船をもつ女	〃	72.4×51.9 布・油彩	〃	〃
3	日傘の裸婦	〃	80.5×53.0 布・油彩	1913年	神奈川県立近代美術館
4	もたれて立つ人	〃	161.0×111.5 布・油彩	1917年	東京国立近代美術館
5	祖母と仔猫	木村荘八	45.6×33.3 布・油彩	1912年	東京都美術館
6	第2回フェウザン会展会場欄間装飾画	斎藤与里	74.0×187.0 厚紙・油彩	1913年	笠間日動美術館
7	第2回フェウザン会展会場欄間装飾画	岸田劉生	74.0×187.0 厚紙・油彩	1913年	笠間日動美術館
8	現代の美術社主催第1回美術展覧会(草土社第1回展)会場欄間装飾画	〃	74.0×187.0 厚紙・油彩	1915年	〃
9	築地居留地風景	〃	31.7×40.3 布・油彩	1912年	
10	築地明石町	〃	31.5×40.5 布・油彩	1912年頃	
11	自画像(1913. 2. 19)	〃	40.0×31.0 布・油彩	1913年	
12	鉄路	川上涼花	59.0×43.8 布・油彩	1912年	東京国立近代美術館
13	上高地風景	高村光太郎	79.0×59.3 布・油彩	1913年	
14	底の苦しみ	恩地孝四郎	13.5×13.6 紙・木版	1914年	
15	「抒情」五種ノ内わかかれとのぞみと5	〃	13.7×9.9 紙・木版	1915年	
16	「抒情」五種ノ内いとなみ祝福せらる	〃	12.7×9.8 紙・木版	〃	
17	「抒情」五種ノ内躍る	〃	13.3×9.8 紙・木版	〃	
18	抒情くるしみのうちに懐に入るものあり	〃	13.5×13.5 紙・木版	1915年頃	
19	失題	〃	19.0×13.7 紙・木版	1915年	
20	感覚	織田一磨	20.5×24.5 紙・石版	1920年	
21	自画像	東郷青児	32.8×23.6 板・油彩	1914年	安田火災東郷青児美術館
22	コントラバスを弾く	〃	153.0×75.4 布・油彩	1915年	〃
23	パラソルさせる女	〃	65.0×80.0 布・油彩	1916年	
24	帽子をかむった男	〃	61.0×49.7 布・油彩	1921年	
25	婦人像	〃	32.5×22.3 紙・水彩・鉛筆	〃	
26	コンポジション	〃	31.5×20.0 板・油彩	1920年頃	
27	無題	尾竹竹坡	各143.8×83.7(3幅対) 絹本・着彩	1920年頃	宮城県美術館

番号	作品	作者	材質・形状・寸法(cm)	制作年	所蔵
28	明暗	◇	123.0×42.0 絹本・着彩	1920年頃	
29	H氏像	林倭衛	53.3×45.6 布・油彩	1918年	
30	出獄の日のO氏	◇	46.0×38.0 布・油彩	1919年	
31	入獄前のO氏・自画像	大杉栄	43.4×61.8 紙本・墨	1920年	
32	反逆性	望月桂	39.4×56.1 紙・水彩	1921年	
33	遠目鏡	◇	78.6×56.0 紙・水彩・墨	1921年頃	
34	製絲工場	◇	76.4×55.5 紙・墨	1920年	
35	自画像	佐藤春夫	51.0×44.0 布・油彩	1915年	文化学院
36	藤田春吉氏の肖像	今東光	52.0×45.5 麻布・油彩	1919年	
37	トルソ試作	普門暁	h 25.5 石彫	1917年	奈良県立美術館
38	化粧	◇	h 30.5 鉄	1918年	◇
39	鹿・青春・光り・交叉	◇	64.7×80.0 布・油彩	1920年	◇
40	土岡氏の夜像	木下秀一郎	39.5×30.5 布・油彩	1922年	
41	作品(壺)	笠置季男	45.5×38.0 布・油彩	1921年	
42	化粧	尾形亀之助	85.0×84.5 布・油彩	1922年	
43	[酒をはこぶ女]	D・ブル リュック	48.5×60.5 布・油彩	1921年	ELLA FREIDUS Collec- tion, New York
44	大工	◇	41.5×53.5 布・油彩	1922年	◇
45	作品(労働者等は工場から帰る)	V・パリモ フ	64.0×67.7cm 布・油彩	1920年頃	
46	海水浴場	◇	66.2×60.0 布・油彩	◇	
47	門司	柳瀬正夢	45.0×61.0 布・油彩	1920年	
48	作品 底の復報	◇	23.7×23.7 板・油彩	1922年	
49	作品 仮睡	◇	23.7×23.7 板・油彩	◇	
50	生命の流動(シンホニー第35番)	神原泰	116.7×90.9 布・油彩	1919年頃	東京都美術館
51	ヴェルレーヌの女と仔猫	◇	115.0×90.5 布・油彩	1923年	大原美術館
52	無題	古賀春江	72.5×72.5 布・油彩	1922年頃	石橋美術館
53	曲录につく	◇	89.0×115.0 布・油彩	1923年	
54	海水浴の女	◇	89.7×115.1 布・油彩	◇	石橋美術館
55	キリスト誕生(耶蘇降誕)	中川紀元	91.0×116.0 布・油彩	1923年	

番号	作品	作者	材質・形状・寸法(cm)	制作年	所蔵
56	女	矢部友衛	52.5×45.5 布・油彩	1923年	東京都美術館
57	風景	横山潤之助	38.0×48.0 布・油彩	1922年	
58	装飾画(舞踏室用)	吉邨二郎	97.5×145.3 布・油彩	1922年	東京芸術大学芸術資料館
59	装飾図案	吉田謙吉	136.8×136.8 布・油彩	1922年	東京芸術大学芸術資料館
60	風景	O・ザッキン	36.5×51.5 紙・水彩	1920年	
61	街	川西英	25.0×16.5 紙・木版	1915-17年	神戸市立博物館
62	電車の通る街	〃	30.0×22.2 紙・木版	1920年	〃
63	銭湯A	〃	23.3×30.2 紙・木版	〃	〃
I b 写真					
64	にごれる海	野島康三	17.0×24.0 ゴム印画	1912年	野島康三遺作保存会
65	髪すく女	〃	28.5×23.0 ゴム印画	1914年	〃
66	樹下の女	〃	28.9×21.7 ゴム印画	1915年	〃
67	M氏肖像	〃	26.8×18.3 ゴム印画	1917年	〃
68	風邪の少年	〃	28.5×24.0 ゴム印画	1920年	〃
69	裸婦	〃	24.7×17.2 ゴム印画	1921年	〃
70	S氏肖像	〃	26.8×18.3 ゴム印画	1921年	〃
71	つり	福原信三	34.0×25.5	1913年	
72	博労	〃	34.5×24.0	〃	
73	広告板	〃	26.5×34.0	〃	
74	女(パリにて)	〃	26.0×34.0	〃	
75	女の肖像	中山岩太	20.9×16.5 ゴム印画	1915-18年	
76	ニューヨークの街	〃	24.5×19.8 ゼラチンシルバープリント	1921年	
77	ミス・グリーン	〃	24.2×19.5 プロムオイル印画	1920年	
78	静物	〃	24.5×19.5 ゴム印画	1925年	
79	自画像	安井仲治	37.0×25.4 プロムオイル印画	1920年頃	
80	分離派の建築と其周囲	〃	27.5×20.6 プロムオイル印画	1922年	
81	都会風景(駅頭の昼)	〃	21.0×25.2 ビグメント印画	1922年	
82	クレーンのひびき	〃	26.5×38.2 ビグメント印画	1923年	
83	夏	淵上白陽	白陽から複写	1922年	

番号	作品	作者	材質・形状・寸法(cm)	制作年	所蔵
84	越路の初冬	梅阪登里	27.3×48.0 ゴム印画	1923年	横浜市美術館開設準備室
85	煙の都	〃	30.4×40.5 ゴム印画	1924年	〃
86	木曾路の春	日高長太郎	30.4×40.8 ゴム印画	1920年	
87	白樺	〃	27.6×38.5 ゴム印画	1924年	
88	人馬絡繹	米谷紅浪	複写 (原付 25.0×38.2)	1926年	
I c 建築					
90	国際労働協会設計図(側面図1/200)	山田守	62.0×96.0 紙・墨	1920年	東京大学工学部建築学科
91	納骨堂設計図(正面図1/100)	石本喜久治	64.0×96.0 紙・墨	1920年	東京大学工学部建築学科
92	山の家 模型	滝沢真弓	76.0×58.0×43.0 石膏	1921年	東京大学生産技術研究所藤森研究室
93	帝国ホテル 平面図1/100	F・L・ライト	165.5×110.5 布・鉛筆	1922年頃	
94	帝国ホテル 模型1/100	〃	170.0×109.0×44.0 石膏	1916年頃	京都大学工学部建築学教室
95	帝国ホテル 六角背もたれ小椅子	〃	43.5×39.5×95.5 木・皮・藤	1922年	
96	帝国ホテル 棚状背もたれ小椅子	〃	46.0×40.3×95.2 木・皮	〃	
97	帝国ホテル テーブル	〃	70.5×66.0×71.7 木	〃	
98	帝国ホテル フロアーランプ	〃	61.0×61.0×176.0 木・鉄・ガラス	〃	
99	劇場計画案 模型	〃	49.7×81.5×88.0 石膏	1918年	京都大学工学部建築学教室
100	山邑邸 模型 1/100	〃	80.0×62.0×35.0 バルサ		日本大学工学部谷川研究室
101	井上子爵邸 図面No. 1 - 2	〃	56.0×76.0 紙・鉛筆・淡彩	1918年	日本大学工学部図書館
102	井上子爵邸 図面No. 1 - 3	〃	56.0×81.0 紙・鉛筆・淡彩	〃	〃
103	井上子爵邸 図面No. 1 - 6	〃	41.0×56.0 紙・鉛筆・淡彩	〃	〃
104	井上子爵邸 模型1/100	〃	105.0×75.0×30.0 バルサ		日本大学工学部谷川研究室
105	岩元禄	〃	37.3×25.6 紙・鉛筆		山田守建築事務所
106	市民会館設計図 1/100 No. 1	山口文象	58.5×50.5 布・油彩		竹村文庫
107	ユートピアの倶楽部 図面 3点	金沢庸治	67.3×97.5 紙・水彩・コンテ 64.0×94.5 紙・水彩・インク 64.0×94.5 紙・水彩・インク	1923-24年	東京芸術大学芸術資料館 〃 〃
108	工場に建つ演劇研究所 図面 3点	藤田巖	(各)66.0×100.0 紙・水彩	1926年	東京芸術大学芸術資料館
II a 美術					
109	マリアとキリスト	神原泰	115.8×90.8 麻布・油彩	1923年	東京都美術館

番号	作品	作者	材質・形状・寸法(cm)	制作年	所蔵
110	スクリアピンの「エクスタシーの詩」に題す	〃	117.0×91.0 麻布・油彩	1924年	東京国立近代美術館
111	あるユダヤの少女	村山知義	40.2×26.8 油彩・紙・木(コラージュ)	1922年	東京国立近代美術館
112	美しき乙女に捧ぐ	〃	93.5×80.0 麻布・油彩	1922年頃	
113	コンストルクチオン	〃	84.0×112.5 油彩・紙・木・皮・金属	1925年	東京国立近代美術館
114	作品	〃	12.0×15.5 紙・エッチング	1923年頃	
115	五月の朝と朝飯前の私	柳瀬正夢	44.0×44.0 麻布・油彩	1923年	
116	[MV]	〃	52.5×42.5 布・油彩	〃	
117	[MV]	〃	33.0×23.7 板・油彩	〃	
118	ヤァ失敬[R]	〃	45.5×37.8 布・油彩	〃	
119	唯物弁証法的イワノフ・スミヤヴキッチ	住谷磐根	43.5×35.0 麻布・油彩	1923年	東京都美術館
120	工場における愛の日課	〃	65.0×53.0 麻布・油彩	〃	東京国立近代美術館
121	作品	〃	80.4×65.2 麻布・油彩	1924年	東京国立近代美術館
122	作品	V・ブブノワ	45.0×35.0 紙・石版・亜鉛凸版	1925年	
123	薔薇を愛する少女に与ふるhとtを主題とせるモノグラム	原 弘	42.8×32.6 厚紙・ガッシュ	1925年	
124	予言	戸田達雄	12.4×14.2 紙・リノカット	1924年	
125	静物	坂田一男	98.6×71.9 麻布・油彩	〃	
126	キュビズム的人物像	〃	91.4×63.8 麻布・油彩	1925年	岡山県立美術館
127	女と植木鉢	〃	80.5×64.5 麻布・油彩	1926年	兵庫県立近代美術館
128	コンポジション	〃	100.4×81.2 麻布・油彩	1926年頃	福岡市美術館
129	裸婦	矢部友衛	99.0×71.0 麻布・油彩	1923-24年	富岡美術館
130	首	仲田定之助	h 40.5 石膏(東京) 白銅(名古屋、山口、兵庫)	1924年	東京国立近代美術館
131	女の首	〃	h 44.0 石膏	〃	
132	アトミック・ストラグル No. 2	中原実	53.0×33.5 麻布・油彩	1925年	
133	乾坤	〃	200.0×200.0 麻布・油彩	〃	
134	卒業制作	奥田政徳	90.8×116.2 麻布・油彩	〃	東京芸術大学芸術資料館
135	庭	横井礼以	62.0×64.0 麻布・油彩	〃	
136	三人の失業者	陽咸二	36.0×27.8 紙・鉛筆・淡彩	1923年	
137	支那人の皿廻し	〃	h 20.0 ブロンズ	1928年	

番号	作品	作者	材質・形状・寸法(cm)	制作年	所蔵
138	失題	恩地孝四郎	29.3×23.3 紙・木版	1917年	
139	女体習作(5)	〃	18.9×14.0 紙・インク	〃	東京都美術館
140	女体習作(6)	〃	18.2×14.8 紙・インク	〃	〃
141	静物Ⅱ(リング赤)	〃	45.5×37.9 麻布・油彩	1922年頃	東京都美術館
142	人体考察	〃	19.7×13.5 紙・木版	1927年	
143	海にいる人物	〃	23.5×14.0 紙・木版	1930年	
144	失題	〃	31.5×24.0 紙・木版	1931年	
145	発電所	山口進	24.0×33.0 紙・木版	1920年	町田市国際版画美術館
146	静物	〃	23.7×16.3 紙・木版	1930年	〃
147	飛鳥哲男との連作「ロココに想う」より	梨本正太郎	73.0×91.5 麻布・油彩	1926年頃	
Ⅱb 写真					
148	構成 1926-27年	中山岩太	24.7×21.7 ゼラチンシルバープリント		
149	パイプとマッチ	〃	29.9×23.9 ゼラチンシルバープリント	1927年	
150	螺旋	〃	30.3×25.2 ゼラチンシルバープリント	1927年	
151	……[定規と鍵]	〃	20.3×14.8 ゼラチンシルバープリント	1932年	
152	時計と歯車	〃	13.2×11.4 ゼラチンシルバープリント	1933年	
153	般A	ハナヤ勘兵衛	24.8×19.1 ゼラチンシルバープリント	1930年	
154	光	〃	23.4×16.9 ゼラチンシルバープリント	〃	
155	静物	高山正隆	18.5×17.3 ゼラチンシルバープリント	1925年	
156	冬	渡辺淳	17.4×17.8 ゼラチンシルバープリント	1927年	
157	光の放射と二つのシルエット	有馬光城	22.0×26.0 ゼラチンシルバープリント	1927年	
158	……[びんの山]	花和録吾	『光画』から複写	1932年	
159	……[切妻外壁]	〃	〃	1933年	
160	工作場にて	安井仲治	49.3×31.0 ゼラチンシルバープリント	1931年	
161	斧と鎌	〃	36.0×29.0 ゼラチンシルバープリント	〃	
162	建築物逆光線	〃	42.8×26.8 ゼラチンシルバープリント	1932年	
163	スピード	〃	26.5×40.6 ゼラチンシルバープリント	1932～39年	
164	飛沫	〃	41.6×54.6 ゼラチンシルバープリント	1931年	
165	初夏神経	小石清	37.6×30.0	1933年	ZEIT-FOTO
166	ピストン狂躁	〃	複写プリント	1934年	
167	輝ける構成	西亀久二	『白陽』から複写	1926年	

番号	作品	作者	材質・形状・寸法(cm)	制作年	所蔵
168	どよめく空気	〃	『白陽』から複写	〃	
169	御茶ノ水駅	渡辺義雄	複写プリント	1933年	
170	コンストラクション	淵上白陽	『白陽』から複写	1925年	
171	円と人体の構成	〃	『白陽』から複写	1926年	
172	大東京の性格	堀野正雄	『中央公論』1931年10月号から複写	1931年	
173	カメラ・眼×鉄・構成	〃	26.5×19.3	1932年	
174	「飛行官能」	恩地孝四郎	26.7×19.4	1934年	
II c 建築・都市計画					
175	東洋キネマ	小湊健二/ 中根寅男	模型1/10 (制作1988年)		
176	第1回創宇社建築制作展覧会ポスター	岡村蚊象	54.5×39.8	1923年	竹村文庫
177	創宇社第3回建築制作展覧会ポスター	山口文象	59.8×43.3 リノカット・コラージュ	1925年	竹村文庫
178	第4回創宇社制作展ポスター	山口栄一	69.4×30.7	1926年	竹村文庫
179	無選共同建築展ポスター	梅田稜	71.1×51.3	1927年	竹村文庫
180	創宇社第6回展覧会ポスター	竹村新太郎	76.1×52.9	1929年	竹村文庫
181	創宇社第7回展覧会ポスター	野口巖	54.5×38.4	1929年	竹村文庫
182	新建築思潮講演会ポスター	梅田稜	71.2×53.2 紙・水彩	1929年	竹村文庫
183	創宇社第8回展, 第2回 新建築思潮講演会併記ポスター	河裾逸美	79.8×55.0 紙・石版・彩色	1930年	竹村文庫
184	朝日新聞東京本社社屋	竹中工務店 (石本喜久 治/山口文 象)	模型1/75(制作1988)	1928年	
185	白木屋パース	石本喜久治 /山口文象	90.0×109.0 紙・木炭		石本建築事務所
186	白木屋図面No. II, No. X III, No. 11, No. 26 4点	〃	79.0×107.5(各) 紙・鉛筆	1927年	〃
187	博多株式取引所パース (Feb.)	石本建築事 務所 (石本喜久 治/海老原 一郎)	50.0×77.1 紙・鉛筆	1933年	石本建築事務所
188	博多株式取引所パース (April)	〃	56.1×85.4 紙・鉛筆	〃	〃
189	博多株式取引所 図面 No. 2, 3, 5 3点	石本建築事 務所 (石本喜久 治/海老原 一郎)	54.0×78.5(各) 紙・鉛筆	1933年	〃
190	黒部水力発電所パース	山口文象/ 山口栄一	39.4×50.8 紙・水彩	1936年	竹村文庫
191	黒部水力発電所パース	〃	32.8×46.1 紙・水彩	〃	〃
192	京都中央電話局新上分局	逓信省経理 局當繕課		1922年	電気通信技術史料館
193	北側立面図, 東側立面図, 詳細図 3 点	(吉田鉄郎)			
194	大阪朝日ビルディング図面1/100	竹中工務店 (石川純一 郎)			竹中工務店大阪本店
195	西立面図, 南立面図 2点				

番号	作品	作者	材質・形状・寸法(cm)	制作年	所蔵
196	大阪ガスビル(スケッチ)4点	安井武雄	21.3×28.9 紙・鉛筆 22.0×28.5 紙・ペン・鉛筆 22.0×28.4 紙・ペン・鉛筆 22.0×28.2 紙・ペン・鉛筆・色鉛筆	1933	安井建築設計事務所
197	そごう呉服店 正面立面図1/100	村野藤吾	60.0×100.0 紙・鉛筆		村野・森建築事務所
198	東京復興計画	中村順平	115.0×79.0 紙(地図)・水彩	1924年	中村順平生誕百年記念 回顧展委員会
199	生駒山嶺小都市計画 墨画遠望図	B・タウト	58.0×107.6 紙・墨	1933年	大和文華館
200	生駒山嶺小都市計画 彩色鳥瞰図	〃	76.3×117.9 紙・水彩	〃	大和文華館
201	生駒山嶺小都市計画 彩色配置図	〃	58.4×101.5 紙・水彩	〃	大和文華館
II d 工業デザイン					
202	18900型蒸気機関車 組立図面3面			1919年	JR 東日本本社
203	LA-0006(1/15)		68.5×103.7 布・インク		
204	LA-0007(1/15)		67.8×104.2 布・インク		
205	LA-0008(1/15)		67.5×104.3 布・インク		
206	C55蒸気機関車 組立図面2面			1928年	JR 東日本本社
207	LA-0031(1/15)		85.0×119.0 布・インク		
208	LB-0105(1/20)		60.2×84.0 布・インク		
209	C55蒸気機関車模型(1/10)		205.0×47.0		交通博物館
210	ブガッティ TYPE 35B				
211	2262スーパーチャージャー付			1927年	
212	三菱ヒ式450馬力二型エンジン ISPANO-SUIZA V12 450ch		209.0×115.0×120.0	1931年	武蔵野美術大学美術資料図書館
213	ダットサン1号車		275.0×117.5×155.0	1932年	日産自動車株式会社
II e 演劇・舞踊・映画					
214	舞台スケッチ(黒幕に白模様)	柳瀬正夢		1923年頃	
215	土蔵劇場試演舞台スケッチ[カリガ リ風の室内]	〃	19.2×28.3 紙・鉛筆・水彩	〃	
216	舞台スケッチ[電光・火花・星]	〃	19.2×27.0 紙・鉛筆・水彩	〃	
217	「朝から夜中まで」道具帖7枚	村山知義		1924年	
218	「朝から夜中まで」舞台装置 模型 (制作1960年)			〃	
219	「朝から夜中まで」舞台装置(原寸 再現1988年)			〃	
220	「海戦」舞台装置 模型	吉田謙吉	31.6×45.9×36.0 木		
221	「ヴェニス商人」模型	〃	30.0×61.0×46.0		日本近代文学館
222	「社会の敵」舞台装置模型	〃	28.2×45.5×30.4 木		
223	「囚われたる人 曲ラフマニノフ」メ ランコリィ	石井漢	映像	1923年	

番号	作品	作者	材質・形状・寸法(cm)	制作年	所蔵
224	狂った一頁	衣笠貞之助	映像	1926年	
225	十字路	〃	〃	1928年	
Ⅲ a 美術					
226	ヴィナスの誕生	中原実	116.0×91.0 麻布・油彩	1924年	
227	メカニズム	河辺昌久	65.2×53.0 布・油彩・コラージュ	1924年	板橋区立美術館
228	CAPITALISMUS	柳瀬正夢	24.3×18.0 紙・墨	1924年	
229	彼等が生活は緑の夏,彼の生活には 赤夏あるのみ	〃	25.8×16.7 紙・黒インク・鉛筆	1925年	
230	真夜中から7時までNo.97	〃	21.8×31.1 紙・コラージュ	1932年	
231	真夜中から7時までNo.100	〃	20.3×25.9 紙・コラージュ・水彩	〃	
232	真夜中から7時までNo.101	〃	20.3×25.9 紙・コラージュ・水彩	〃	
233	真夜中から7時までNo.102	〃	20.3×25.9 紙・コラージュ・水彩	〃	
234	卵形の顔	浅野孟府	h27.5石膏	1926-27年 頃	
235	丘の上の二人の女	岡本唐貴	234.0×162.0 布・油彩	1926年	東京都美術館
236	おかつぱの女	〃	90.0×72.7 麻布・油彩	1927年	宮城県美術館
237	尖端にたつ女 三態	〃	26.0×19.6 紙・水彩	1930年	目黒区美術館
238	壁掛凶案	須藤雅路	146.5×199.0 絹・彩色	1925年	東京芸術大学芸術資料館
239	銀座(新東京百景)	川上澄生	18.2×24.2 紙・木版	1929年	東京都美術館
240	浅草カジノ・フォーリー(新東京百景)	〃	17.9×24.0 紙・木版	1930年	〃
241	工場地帯本所(新東京百景)	前川干帆	18.3×24.3 紙・木版	1929年	東京都美術館
242	新宿夜景(新東京百景)	〃	18.2×24.2 紙・木版	1931年	〃
243	深川塵埃焼却場(新東京百景)	諏訪兼紀	17.1×24.4 紙・木版	1930年	東京都美術館
244	浅草六区(新東京百景)	〃	25.3×17.6 紙・木版	〃	〃
245	新宿カフェ街(新東京百景)	深沢索一	24.1×18.3 紙・木版	1930年	東京都美術館
246	神宮球場早慶戦(新東京百景)	〃	18.3×24.4 紙・木版	1931年	〃
247	御徒町駅	藤牧義夫	7.0×15.5 紙・木版	1932年	東京国立近代美術館
248	ごみ	〃	24.0×33.5 紙・木版	〃	
249	都会風景	〃	37.6×43.0 紙・木版	1933年	
250	赤陽	〃	48.0×26.0 紙・木版	1934年	東京都国立近代美術館
251	出をまつ	〃	21.7×15.5 紙・木版	〃	〃

番号	作品	作者	材質・形状・寸法(cm)	制作年	所蔵
252	夜の浅草六区	〃	22.5×25.9 紙・木版	〃	
253	隅田川両岸画卷No.2	〃	28.0×1624.0 紙・墨	〃	東京都美術館
254	隅田川両岸画卷No.3	〃	28.0×1606.0 紙・墨	〃	〃
255	工場	小野忠重	32.1×41.2 紙・木版	1932年頃	
256	三代の死(11点組)	〃	12.5×18.7 紙・木版	1931年	東京国立近代美術館
257	時計	前田藤四郎	26.4×34.0 木版・亜鉛凸版	1932年	東京都美術館
258	帽子を冠れる自画像	小出橋重	125.0×89.5 麻布・油彩	1924年	ブリヂストン美術館
259	裸婦A, B (スタンドグラス下絵)	〃	(各)35.0×12.0 紙・水彩	1929年	東京都美術館
260	裸婦	林武	116.0×91.1 麻布・油彩	1930年	兵庫県立近代美術館
261	素朴な月夜	古賀春江	116.5×91.0 麻布・油彩	1929年	石橋美術館
262	海	〃	130.0×162.5 麻布・油彩	〃	東京国立近代美術館
263	窓外の化粧	〃	161.0×129.0 麻布・油彩	1930年	神奈川県立近代美術館
264	涯しなき逃避	〃	116.2×90.8 麻布・油彩	〃	石橋美術館
265	面の男(マスクをつけた道化)	三岸好太郎	73.3×54.8 麻布・油彩	1929年	北海道立三岸好太郎美術館
266	黄服少女(黄衣少女)	〃	91.1×61.1 麻布・油彩	1930年	〃
267	のんびり貝	〃	50.9×107.4 麻布・油彩	1934年	〃
268	海と射光	〃	163.0×131.0 麻布・油彩	〃	福岡市美術館
269	棟梁の家族	前田寛治	131.0×162.5 麻布・油彩	1928年	鳥取県立博物館
270	姉妹	〃	145.5×97.0 麻布・油彩	1927年	群馬県立近代美術館
271	告別(山宣葬)	大月源二	130.2×162.1 麻布・油彩	1929年	
272	先生と生徒	池部鈞	117.0×81.0 麻布・油彩	1924年	東京都美術館
273	スポーツマン	〃	117.0×80.0 麻布・油彩	1926年	〃
274	カフェの女	太田三郎	21.0×11.1 紙・木版	1912-15年	東京都美術館
275	農民大会に代表を送る	黒田雄二	116.0×165.0 布・油彩	1929年	エルミタージュ美術館, レニングラード
276	馬上の男	石垣栄太郎	146.0×106.0 布・油彩	1932年	〃
277	アメリカのコザック	〃	89.0×106.0 布・油彩	〃	〃
Ⅲ b 写真					
278	マヴォイストの肖像	淵上白陽	『白陽』から複写	1925年	
279	印刷機械に倚れる男	〃	〃	〃	
280	藤田嗣治	中山岩太	16.5×11.2 ゼラチンシルバープリント	1926-27年	

番号	作品	作者	材質・形状・寸法(cm)	制作年	所蔵
281	パイプとグラスと舞台	〃	21.3×27.0 ゼラチンシルバープリント	1932年	
282	……[ダンサー]	〃	29.0×21.4 ゼラチンシルバープリント	〃	
283	キャピトル	〃	28.9×21.4 ゼラチンシルバープリント	1933年	
284	夜・酒・女	〃	28.5×20.5 ゼラチンシルバープリント	〃	
285	第1回神戸みなの祭	〃	30.4×24.4 ゼラチンシルバープリント	〃	
286	自動車と人物	安井仲治	33.6×26.4 ゼラチンシルバープリント	1929年	
287	港	〃	12.1×19.8 コロタイプ	1930年 (1942年印刷)	
288	凝視	〃	19.1×14.1 コロタイプ	〃	
289	メーデー	〃	25.9×35.5 ゼラチンシルバープリント	1931年	
290	溶接工	〃	30.0×45.3 ゼラチンシルバープリント	1931年頃	
291	晩秋風景	〃	39.0×45.4 ゼラチンシルバープリント	1932年頃	
292	看板風景	飯田幸次郎	『光画』から複写	1932年	
293	無題[下町の人々]	〃	〃	1933年	
294	……[くず屋の少年]	〃	〃	〃	
295	窓	木村伊兵衛	『光画』から複写	1932年	
296	……	〃	〃	〃	
297	詰将棋	〃	〃	1933年	
298	下町の子供	〃	〃	〃	
299	ライカによる文芸家の肖像(佐藤春夫)	〃	〃	〃	
300	女	野島康三	41.0×27.0 ブロムオイル印画	1931年	野島康三遺作保存会
301	女	〃	39.2×32.2 ブロムオイル印画	〃	〃
302	女	〃	29.2×41.3 ブロムオイル印画	〃	〃
303	女	〃	41.2×33.3 ブロムオイル印画	1933年	〃
304	細川ちか子	〃	41.0×27.5 ブロムオイル印画	1932年	〃
305	千田是也	〃	40.2×31.5 ブロムオイル印画	〃	〃
306	女の顔	〃	55.4×44.0 ゼラチンシルバープリント	1931-32年	〃
307	女の顔	〃	55.8×45.2 ゼラチンシルバープリント	〃	〃
308	首都貫流	堀野正雄/ 村山知義	犯罪科学から複写	1931年	
309	新宿	大久保好六	アサヒグラフから複写	1931年	
III c 建築					
310	本野邸 平面・立面図, 基礎及軸割図各2点1/100	本野精吾	35.8×63.7 紙・インク 36.0×53.0 紙・ペン・鉛筆	1923年	

番号	作品	作者	材質・形状・寸法(cm)	制作年	所蔵
311	三宅やす子邸 図面(Ⅲ,Ⅳ)1/50 2点	片岡・石本 建築事務所 (石本喜久 治/岡村蚊 象)	53.5×77.5(各) 紙・鉛筆		石本建築事務所
312	安井邸 スケッチ SOUTH EAST SIDE VIEW	安井武雄	21.0×27.5 紙・ペン・鉛筆		安井建築設計事務所
313	大阪パンション 南立面図1/50, 1階平面図1/100 2点	村野藤吾	53.0×75.0 紙・鉛筆 53.5×74.3 紙・鉛筆	1932年	村野・森建築事務所
314	小西邸 食器類模様着色図	海老原一郎	38.5×55.2 紙・鉛筆・淡彩	1935年	石本建築事務所
315	朝日住宅展覧会二号型住宅		模型1/20	制作1988 年	日本大学生産工学部建 築工学科
316	朝日住宅展覧会住宅		模型10棟1/50	〃	〃
317	折畳肘掛椅子, 折畳卓子セット (1986年補修)	日本楽器ヤ マハ量産家 具	椅子 48.5×49.0×78.6 木・布 卓子 60.0×75.5×62.0 木・布	1928年	
318	肘掛椅子構成の研究試作から(復 元)	型而工房	64.5×56.3×76.7 木・布	1934年	武蔵野美術大学美術資 料図書館
319	小椅子構成の研究試作から(復元)	〃	55.0×42.5×84.5 木・布	〃	〃
320	婦人服飾 考案 3 AFTERNOON DRESS	松井汲夫	179.0×117.0 紙・水彩	1933年	東京芸術大学芸術資料 館
321	婦人服装 考案 6 AFTERNOON DRESS	〃	179.0×117.0 紙・水彩	〃	〃
322	「食後のお茶の部屋」のためのエ キース 2 図	斎藤佳三	13.8×40.0 26.4×55.6 紙・鉛筆	1928年	東京芸術大学芸術資料 館
323	「日本間の寝所」のための乱箱	〃	48.5×48.5×23.0 木	1930年	
324	紫市松地紋色糸刺繍帯	〃		1930年頃	
325	渋茶色和服アンサンブル色糸刺 繍付	〃		〃	
326	半襟下絵 8 点	〃	(各)39.0×15.0 紙・鉛筆	〃	
327	色糸刺繍半襟 3 点	〃		〃	
328	東京府美術館模型	岡田信一郎	84.8×67.0×30.6	1926年	東京都美術館
329	東京府美術館便物殿肘掛椅子	梶田恵	84.5×68.0×80.0	1926年	東京都美術館
330	東京府美術館便殿角卓子	〃	60.5×91.0×69.3	〃	〃
331	東京府美術館便殿帽子台	〃	φ45.0×h90.7	〃	〃
332	東京府美術館便殿小椅子	〃	57.0×43.5×86.8	〃	〃
333	插花のための構成	高村豊周	16.8×12.2×29.2 真鍮	〃	
334	壁面への時計	内藤春治	w44.0, h73.5 青銅	1927年	東京国立近代美術館工 芸館
335	燭台(1対)	丸岡芳男	各h50.0 青銅	1928年	東京芸術大学芸術資料 館
336	電気ストーブ	黒田清純	25.8×56.5×65.0 青銅・大理石	1928年	東京芸術大学芸術資料 館
337	談話室用の喫煙具	小泉清一	φ37.0, h41.5 青銅・真鍮・ガラス	1930年	東京芸術大学芸術資料 館

番号	作品	作者	材質・形状・寸法(cm)	制作年	所蔵
338	用途を指示せぬ美の創案 完成期・原始期・過度期	杉田禾堂	右9.1×27.3×14.5 中10.6×12.1×28.7 左9.1×27.3×13.8	1930年	東京国立近代美術館工芸館
339	クリスタル人物模様花瓶	各務鑑三	φ8.5, h20.5 ガラス	1930年	サントリー美術館
340	財部邸 壁面レリーフ			1930年頃	日本大学生産工学部建築工学科
341	小笠原伯爵邸 図面(2, 3, 11) 3点	曽根・中條建築事務所 (中條精一郎)	77.0×53.5(2, 3) 布・インク 53.0×77.0(11) 紙・鉛筆	1925年	東京大学生産技術研究所藤森研究室
342	岩崎小彌太郎 室内(協力:松田権六)食堂飾棚着彩立図面	中村順平		1927年	中村順平生誕百年記念回顧展委員会
343	宇部市渡辺翁記念会館 パース	村野藤吾	55.5×78.0 紙・鉛筆		村野・森建築事務所
344	宇部市渡辺翁記念会館 2階平面図, 正面, 側面立面図1/200 2点	〃	54.2×75.8 52.1×72.0 紙	1935年	〃
345	宇部市渡辺翁記念会館 ロビーの長椅子	杉浦巴	82.0×197.7×72.5 木・合板	1937年	宇部市渡辺翁記念会館
Ⅲ d グラフィックデザイン					
346	未来派美術協会習作展覧会		60.3×25.8	1923年	
347	マヴォ第1回展覧会		76.0×25.7	〃	
348	三科会員展覧会 劇場の三科	村山知義	51.6×39.9	1925年	
349	三科第2回, 第3回展覧会	横井弘三	60.6×45.4	〃	
350	新ロシア美術展覧会	岡本唐貴	77.6×53.9	1927年	
351	第4回プロレタリア美術大展覧会	寺島貞志	79.2×54.2	1931年	
352	第1回建築展覧会		53.7×37.8		
353	スルヤ第1回演奏会		65.1×30.3		
354	こども博覧会 東京日日新聞社		77.8×26.8		
355	The GREATER JAPAN EXPOSITION		106.8×76.6	1936年	
356	文芸戦線	柳瀬正夢	44.9×30.4	1924年	
357	〃	〃	63.2×23.6	1924年頃	
358	小川末明選集	〃	77.3×40.5	1925年	
359	号外創刊号	〃	54.0×191.1	1927年	
360	大衆 無産階級評論雑誌	〃	45.4×30.1	1929年	
361	戦旗□月号!	〃	76.3×25.8	1929年頃	
362	プロレタリアエスペラント講座		76.6×35.0	1930年	
363	デオルゲ・グロス	柳瀬正夢	77.8×25.7	1929年	
364	尖端をゆくもの	〃	76.0×37.1	1930年	
365	新しい美術雑誌 造型	〃	31.7×39.1	1925年	
366	先駆座第3回試演	〃	78.8×35.3	1924年	
367	前衛座・第2回公演「手」 〃 「プリンス・ハアゲン」	〃	76.1×53.4	1927年	
368	邦楽座開館一周年記念ムッソリーニ(原画)	〃	60.6×34.0		
369	演芸の夕 商船テナシチー	〃	79.3×53.2	1935年	
370	心座第5回公演 スカートをはいたネロ	村山知義	54.3×31.5		
371	本郷座瓦斯マスク		62.4×44.9	1930年	

番号	作品	作者	材質・形状・寸法(cm)	制作年	所蔵
372	築地小劇場 MICHEL AUCLAIR		52.1×37.8		
	築地小劇場 彼女(「何が彼女をそうさせたか」改題)		53.1×37.9		
373	築地小劇場 朝から夜中まで(再演)		52.7×37.5		
374	築地小劇場第69回公演 空気饅頭		51.1×36.8		
375	左翼劇場公演 父 白蟻		55.1×39.4		
376	人形劇団 Juna Pupo 第1回試演会		52.7×37.9		
377	築地小劇場 帝劇公演		62.1×44.7		
378	Ra 講演と詩の夕 ロシア革命十周年記念		54.9×39.7	1927年	
379	日本協同組合学校	柳瀬正夢	54.8×39.4		
380	関東電気労働組合第2回大会	〃	39.1×27.3	1927年	
381	全農第16回全国大会	〃	56.2×41.7	1936年	
382	首切賃金値下労働強化絶対反対! 東京市従業員組合	〃	47.3×32.0		
383	五万の読者と手を握れ 全民衆の味方無産者新聞を読め!!	〃	54.5×39.5		
384	五万の読者と手を握れ 全民衆の味方無産者新聞を読め!! (原画)	〃	37.5×28.8 紙・水彩		
385	読メ! 無産者新聞	〃	79.0×54.5		
386	読メ! 無産者新聞(原画)	〃	53.5×40.0 紙・水彩		
387	無産者新聞をよめ! (原画)	〃	79.0×54.5 紙・墨		
388	松竹座 ネロ	山田伸吉	53.7×24.5		京都工芸繊維大学
389	松竹座 罪と罰	〃	53.8×25.0	1925年	〃
390	松竹座 狂った一頁	〃	60.5×30.0	1926年	〃
391	松竹座 盲嬌 彌次喜多従軍記	〃	63.0×30.0		〃
392	松竹座 石井漢・小浪舞踊公演	〃	57.8×30.0	1929年頃	〃
393	朝日会館 映画と舞踊の会		53.5×37.5	〃	〃
394	松竹座 ロイドの人気者	山田伸吉	53.5×18.5		〃
395	松竹座 キートン 栃面棒		61.5×30.0		〃
396	松竹座 コブラ		61.0×30.0		〃
397	中央公会堂 民謡の夕		63.5×29.5		〃
398	敷島倶楽部 嵐の孤児		79.0×35.5		〃
399	東洋唯一の地下鉄道(原画)	杉浦非水	106.0×77.0	1927年	帝都高速度交通営団
400	東洋唯一の地下鉄道(ポスター)	〃	91.5×62.0	〃	京都工芸繊維大学
401	東京菓子株式会社		93.3×64.5		〃
402	赤玉ポートワイン	井上木宅/ 片岡敏郎	84.0×61.3	1922年	京都工芸繊維大学
403	いとう呉服店	町田隆要	105.3×76.8	1921年	〃
404	ユニオンビール	〃	93.7×64.0	1924-25年	武蔵野美術大学美術資料図書館
405	カプトビール	〃	90.7×61.8	〃	〃
406	蜂葡萄酒	多田北鳥	77.1×53.5	1923年	武蔵野美術大学美術資料図書館
407	白木屋	〃	93.6×63.9	1933年	〃
408	キリンスタウト	〃	77.0×53.5	1936年	〃
409	丸菱呉服店	サンスタジオ	76.8×52.8	1925-26年	〃
		オ			
410	宝塚少女歌劇 花詩集		76.5×52.8	1933年	阪急学園池田文庫
411	宝塚少女歌劇 シャッポー・イタリアン		75.0×52.5	〃	〃

番号	作品	作者	材質・形状・寸法(cm)	制作年	所蔵
412	宝塚少女歌劇 たからじえんぬ		77.0×58.6	1937年	◇
413	郷土的清弄作画竹久夢生展覧会	竹久夢二	57.3×39.4	1931年	
414	竹久夢二抒情画展覧会	◇	61.4×27.8	1918年	
415	竹久夢二氏の画・吉井勇氏の歌 小品展観	◇	41.5×19.2		
416	彩文堂表装展覧会	◇	54.5×28.5	1919-20年 頃	
417	毛糸 毛糸 毛糸	◇	60.0×29.8		
418	雛による展覧会	◇	57.0×39.6 (木版色刷)	1930年	
419	竹久夢生告别作品展覧会	◇	57.7×40.7	1931年	
420	竹久夢二抒情画展覧会	◇	50.7×30.0	1918年	
421	春の雨 新小唄第二編	◇	62.0×23.5	1916年	
422	夢二抒情画選集	◇	92.5×37.9	1927年	
423	ポリドール・レコード2月新譜	◇	54.4×19.5	1929年	
424	ポリドール・レコード2月新譜	◇	54.3×19.5	◇	花王広報部資料室
425	花王シャンプー	奥田政徳	54.0×37.3	1932年	◇
426	ニッケ純毛水泳着	奥山儀八郎	74.6×51.2		
427	第3回スナップ写真懸賞募集	原弘	52.3×37.9	1929年	
428	第4回スナップ写真懸賞募集	◇	51.9×38.2	1930年	
429	島津マネキン新作品展覧会	◇	46.4×38.9	1935年	
430	島津マネキン新作展		62.8×47.3		
431	花王石鹼包装紙のための原画	上野正之助	18.0×14.5 紙・鉛筆・水彩	1930年	花王広報部資料室
432	花王石鹼包装紙のための原画	◇	18.0×14.5 紙・水彩	◇	◇
433	花王石鹼包装紙のための原画	◇	13.5×18.5 紙・水彩	◇	◇
434	花王石鹼包装紙のための原画	奥田政徳	19.5×14.0 紙・鉛筆・水彩	1930年	花王広報部資料室
435	花王石鹼包装紙のための原画	◇	19.5×14.0 紙・鉛筆・水彩	◇	◇
436	花王石鹼包装紙のための原画	杉浦非水	19.0×12.5 紙・水彩	1930年	花王広報部資料室
437	花王石鹼包装紙のための原画	◇	14.5×19.0 紙・水彩	◇	◇
438	花王石鹼包装紙のための原画	◇	7.5×17.0 紙・水彩	◇	◇
439	花王石鹼包装紙のための原画	関敬信	19.0×14.5 紙・水彩	1930年	花王広報部資料室
440	花王石鹼包装紙のための原画	◇	19.5×14.5 紙・水彩	◇	◇
441	花王石鹼包装紙のための原画	原弘	7.0×16.0 紙・水彩	1930年	花王広報部資料室
442	花王石鹼包装紙のための原画	◇	19.0×14.5 紙・鉛筆・水彩	◇	◇
443	花王石鹼包装紙のための原画	◇	19.5×14.5 紙・水彩	◇	◇
444	花王石鹼包装紙のための原画	◇	7.5×16.5 紙・水彩	◇	◇
445	花王石鹼包装紙のための原画	広川松五郎	18.5×12.5 紙・水彩	1930年	花王広報部資料室
446	花王石鹼包装紙のための原画	◇	18.5×12.5 紙・水彩	◇	◇

番号	作品	作者	材質・形状・寸法(cm)	制作年	所蔵
447	花王石鹼包装紙のための原画	〃	18.5×13.0 紙・水彩	〃	〃
448	花王石鹼包装紙のための原画	〃	12.5×18.5 紙・水彩	〃	〃
449	花王石鹼包装紙のための原画	村山知義	19.0×15.0 紙・水彩	1930年	花王広報部資料室
450	花王石鹼包装紙のための原画	〃	18.0×15.0 紙・水彩	〃	〃
451	花王石鹼包装紙のための原画	〃	8.5×19.0 紙・水彩	〃	〃
452	花王石鹼包装紙のための原画	吉田謙吉	17.5×12.0 紙・水彩	1930年	花王広報部資料室
453	花王石鹼包装紙のための原画	〃	18.0×11.5 紙・水彩	〃	〃
454	花王石鹼包装紙のための原画	〃	9.5×23.5 紙・水彩	〃	〃
455	カルピス		77.5×52.7	1922年頃	
資料					
1	オ1回「ヒュウザン」展覧会目録			1912年	
2	「DER STURM」木版画展覧会出品目録			1914年	
3	「日本に於ける最初のロシア画展覧会出品目録」			1920年	
4	『未来とは？ 答へる』	D・ブリュック/ 木下秀一郎		1923年	
5	『写真芸術』創刊号			1921年	
6	「分離派建築会宣言と作品」	分離派建築会	26.0×19.0	1920年	竹村文庫
7	『マヴォ』1号—7号			1924-25年	
8	『死刑宣告』(長隆社刊)	藤原恭次郎 〔表紙：岡田龍夫〕		1925年	
9	『光画』創刊号			1932年	
10	『浅草紅団』(先進社刊)	川端康成/ 吉田謙吉 (装幀)/太田三郎(挿画)		1930年	
11	インターナショナル建築 創刊号	インターナショナル美術専門学校		1929年	
12	斎藤佳三原案半襟下絵による色糸刺繍半襟	監修：宇城力子, 色出し：斎藤式子, 刺繍：福谷多佳子		(復元試作 1988年)	
13	佛蘭西装飾美術家協会展覧会目録			1928年	
14	資生堂化粧品デー	前田 貢	107.5×39.0	1930年頃	資生堂
15	資生堂クレモリン	〃	107.5×39.0	1932年	〃
16	資生堂化粧品デー	〃	107.5×39.0	1934年	〃
17	『アフイッシュ』創刊号	主幹：杉浦非水		1927年	武蔵野美術大学美術資料図書館
18	『歌劇』				阪急学園池田文庫
19	『新人』	太田英茂/ 飛鳥哲雄		1925年	

番号	作品	作者	材質・形状・寸法(cm)	制作年	所蔵
写真パネル					
1	平和記念東京博覧会 動力館内部	堀口捨己		1922年	
2	帝国ホテル(外観および内部) 3点	F. L. ライト		1923年	
3	山邑邸(玄関まわり外観および内部) 2点	F. L. ライト(撮影: 増田彰久)		1924年	
4	自由学園名月館食堂(内部)	〃 (〃)		1922年	
5	西陣電話局(外壁)	岩元禄(〃)		〃	
6	青山電話局	〃		1922年	
7	楽友会館	森田慶一		1925年	
8	公館正面図「分離派建築会作品オ三」より	〃		1924年	
9	申子園ホテル	遠藤新(撮影: 増田彰久)		1930年	
10	「バラック建築図集」から				
11	「カフェ外観集」から				
12	吉行あぐりサロン	村山知義		1926年	
13	マヴォ理髪店	〃		1925年	
14	「復興の市街に現われたる未来派風の建物」			1923年頃	
15	丸善インキ広告塔	大浦周蔵		1924年	
16	東洋キネマ正面立面図1, 2, 3	小湊健二/ 中根寅男		1928年	
17	アルト会館	土岡秀太郎		1930年	
18	創宇社の同人たちおよび同人の作品 3点				
19	東京中央電信局	山田守		1925年	
20	東京中央電信局 復元図面 3点	〃			
21	旧千住郵便局(竣工時)	〃			
22	旧千住郵便局(現状: 外壁面, 階段室)	〃			
23	聖橋(現状)	〃		1929年	
24	朝日新聞東京本社社屋(外観)	竹中工務店 (石本喜久治/山口文象)		1926年	
25	〃(内部, デイテール) 7図	〃		〃	
26	博多株式取引所(竣工時)	石本建築事務所(石本喜久治/海老原一郎)		1935年	
27	大阪ビルヂング(外観)	渡辺節		1925年	
28	大阪ビルヂング(デイテール, 現状)	〃 撮影: 東出清彦			
29	住友ビル	住友営繕 撮影: 東出清彦		1926年	
30	三信ビル(外観, 内部 [アーケード])	横河工務所 (松井貫太郎) 撮影: 増田彰久		1929年	

番号	作品	作者	材質・形状・寸法(cm)	制作年	所蔵
31	小菅刑務所 配置図 および模型(『国際建築』v o l . 5 No.11)	司法省営繕 課(蒲原重 雄)		1930年	
32	小菅刑務所(正面外観,現状)	司法省営繕 課(蒲原重 雄) 撮影,増田 彰久		1933年	
33	京都中央電話局新上分局(外観,現 状)	通信省經理 局 営繕課 (吉田鉄郎)		1924年	
34	大阪朝日ビルディング	竹中工務店 (石川純一 郎)		1931年	
35	大阪ガスビル(竣工時の外観とディ テール)3点	安井武雄		1933年	
36	大阪ガスビル(外観,現状)	〃 撮影 : 東出清彦			
37	そごう呉服店(竣工時の外観)	村野藤吾		1935年	
38	そごう百貨店(ディテール,現状)	〃 撮影 : 東出清彦			
39	東京復興計画 鳥瞰図,立体道路断 面図	中村順平			
40	渋谷アパートメントハウス	同潤会		1925年	
41	猿江町アパート(外観,階段室)	〃 撮影 : 東出清彦		1930年	
42	大工町アパート	〃 撮影 : 東出清彦		1925年	
43	江戸川アパート	〃 〃		1932年	
44	東京府 九段小学校(外観)	〃 〃		1926年	
45	浅草改造案(『建築新潮』v o l . 9 No.11)	川喜田煉七 郎		1928年	
46	下寺町三丁目集合住宅(大阪)	大阪市建設 課		1930年	
47	多摩住宅地計画図及調布停車場 (『建築新潮』Vol. 5 No.12)	田園都市株 式会社		1924年	
48	18900型蒸気機関車(18910)			1919年	
49	18900型蒸気型機関車(38967)				
50	C51蒸気機関車(C51239)				
51	C53蒸気機関車(C5374)			1928年	
52	C53蒸気機関車(C5343)流線型タ イプ				
53	C55蒸気機関車(C558)			1930年	
54	C55蒸気機関車(C5521)流線型タ イプ				
55	EF55電気機関車			1935年	
56	モハ52電車(大阪)			〃	
57	八幡製鉄第二厚板工場の原動機			1922年	
58	八幡製鉄ブリキ工場フライホイー ル			1926年	
59	八幡製鉄第二薄板工場			〃	
60	三菱重工長崎造船所			1924年	
61	朝日新聞社超高速輪転機			1927年	
62	隅田川精鉄所(久保田鉄工隅田川工 場)			1936年	

番号	作品	作者	材質・形状・寸法(cm)	制作年	所蔵
63	土蔵劇場試演舞台写真 2枚	柳瀬正夢		1923年頃	
64	「朝から夜中まで」舞台装置(全景写真)	村山知義		1924年	
65	「朝から夜中まで」舞台写真 2枚	土方与志(演出)/村山知義(装置)		〃	
66	「朝から夜中まで」演出ノート	土方与志	26.5×21.0	〃	
67	「海戦」舞台写真	土方与志(演出)/吉田謙吉(装置)		〃	
68	「ヴェニスの商人」舞台写真	〃		1926年	
69	「社会の敵」舞台写真	〃		1924年	
70	「爛酔」舞台全景	土方与志(演出)/村山知義(装置)		1925年	
71	「爛酔」舞台写真 2枚	村山知義(装置)			
72	「大東京の性格」より	築地小劇場と俳優たち堀野正雄		1931年	
73	「人造人間」舞台全景	土方与志(演出)/吉田謙吉(装置)		1924年	
74	「夜の宿」舞台写真	小山内薫(演出)/溝口三郎(装置)		1924年	
75	「人間」舞台写真	小山内薫(演出)/吉田謙吉(装置)		1925年	
76	「法成寺物語」舞台写真	青山杉作(演出)/松永志津馬(装置)		1927年	
77	「猿からもらった柿の種」舞台写真	青山杉作(演出)/吉田謙吉(装置)		1927年	
78	「空気饅頭」舞台写真	土方与志(演出)/吉田謙吉(装置)		〃	
79	石井漠 明闇 曲：山田耕作			1916年初演	
80	石井漠 食欲をそそる 曲：小松平五郎			1927年	
81	石井漠 生命の叫び 曲：斎藤佳三			1930年 ('円光は人に見えず'1922年の改作)	
82	石井漠 ポートレイト				
83	マヴォイスト3人によるパフォーマンス(村山アトリエにて)				

番号	作品	作者	材質・形状・寸法(cm)	制作年	所蔵
84	フムメルワルツァを踊る村山知義				
85	「蒼穹の尺度」	中原実			
86	劇場の三科「ファリフォトン」				
87	本野邸	本野精吾		1924年	
88	三宅やす子邸	片岡・石本建築事務所(石本喜久治/岡村蚊象)		1927年	
89	鳥津邸(全景,テラス部分)2点	上野伊三郎		1930年	
90	安井邸	安井武雄		1931年	
91	◇	◇ スケッチ		1930年	
92	土浦邸	土浦亀城		1931年	
93	野々宮アパート	◇			
94	大阪パシオン(模型と1,2階部分)	村野藤吾		1931年	
95	銀座パレス(外観夜景,内部)2点	石本建築事務所(石本喜久治/海老原一郎)		1932年	
96	小西邸(玄関ポーチ,内部)2点	石本建築事務所(石本喜久治/海老原一郎)		1933年	
99	朝日住宅展覧会(出品目録)			1929年	
98	朝日住宅展覧会 二号型住宅 十三号型住宅				
99	食後のお茶の部屋	斎藤佳三	(270.0×270.0×245.0)	1928年	
100	日本間の寝所	◇		1930年	
101	佛蘭西裝飾美術家協会展覧会 会場配置図			1928年	
102	小笠原伯爵邸(喫煙室外壁)(玄関とその庇)2点	曾根・中條建築事務所(中條精一郎) 撮影:増田影久		1927年	
103	コティエ邸室内裝飾計画面	中村順平		1930年	中村順平生誕百年記念 回顧展委員会
104	船内設計 長城丸, りおでじゃね いろ丸	◇		1926年, 1929年	
105	船内設計 あるぜんちな丸 ラウンジほか	◇		1930年	中村順平生誕百年記念 回顧展委員会
106	船内設計 高千穂丸 喫茶室パ ースほか	◇		1934年	◇
107	宇部市渡辺翁記念会館(外観および 内部,現状)	村野藤吾 撮影:東出清彦			
108	新装花王!	AD:太田英茂/D:飛鳥哲雄/P:木村伊兵衛		1931年	
109	NIPPON	山名文夫		1934年	
110	淑女と髯	河野鷹思		1931年	

番号	作品	作者	材質・形状・寸法(cm)	制作年	所蔵
111	資生堂包装紙	矢部季(連 兆)		1924年	資生堂
112	資生堂包装紙(改訂)	沢令花		1927年	々

(5) 展評など

新聞 (報道記事をのぞく)

展評

多彩なモダニズム—1920年代・日本展 読売新聞 (西部) / (秋山) 63・7・21(夕)

工業都市・国際化…1920年代・日本展 朝日新聞 (西部) / (源) 63・7・22(夕)

Yamaguchi Pref. Hosting Exhibit on 1920s Japan ASAHI EVENING NEWS JULY 28. 1988

シリーズ

1920年代日本展の舞台 高田美規雄 朝日新聞(県版) / ①尾形亀之助「化粧」(8・3) ②杉浦非水「東京地下鉄ポスター」(8・7) ③村山知義「舞台」(8・10) ④石本喜久治設計「朝日新聞東京本社社屋」(8・12) ⑤小石清「自己凝視」(8・14)

11人の1965～75

—日本の写真は変えられたか—

1989(昭和64)年1月6日～2月12日



主催 山口県立美術館
会場 企画展示室 I・II



(1) 趣旨

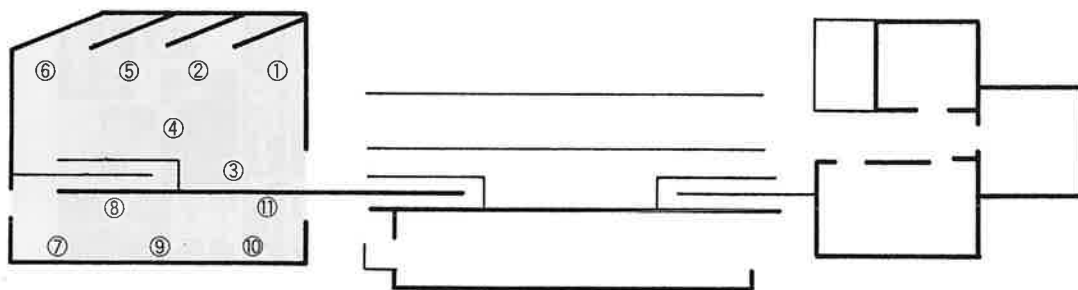
1965～75(昭和40年代)は、日本において写真表現がラジカルに問われた時期であった。それは社会的な状況とも密接にかかわったものでもあった。その動きは、既製の写真に対する概念を大きくゆるがせ、写真というジャンルにかかわった者すべてに、自己の内なる写真観に再検討をせまるものであった。

本展は、この時期にめざましい活動をした11人の写真作家をとりあげ、原則として、ひとり1シリーズとし、そのシリーズの中から20点を出品するという方法によって、あの時期のある断面を切りとることを試みた。

具体的には、VIVO解散後、次の世代への橋渡しの役割をになった東松照明にはじまり、PROVOKEにあつまった高梨豊、中平卓馬、森山大道をはじめとして、深瀬昌久、荒木経惟、内藤正敏、柳沢信、須田一政、田村彰英、牛腸茂雄の作家で構成された。これらの作家を、ある言葉でくくって表現することは不可能だろう。それほど方法もコンセプトも多様なのだ。それをあえて言うとするれば、写す対象へのよりかかりや思い入れを排し、自己の視座を模索しつつ、個の確立、都市とは日本人とは何かなどへの問いかけなどを試みつつ、写真表現の確立を目指した人たちといえようか。くりかえしになるが、あるいは激しく、あるいは静かに、あるいは熱く、あるいはさめて、各作家各様に、さまざまな展開を示した時期なのである。

本展は、当館の戦後日本写真史調査の最初の企画展であるが、戦後日本写真史Ⅲに位置づけられる。今後、IおよびIIの企画も検討されることになるだろう。

(2) 会場構成



- ①東松照明 ②高梨豊 ③森山大道 ④中平卓馬 ⑤深瀬昌久
 ⑥荒木経惟 ⑦柳沢信 ⑧内藤正敏 ⑨須田一政 ⑩牛腸茂雄
 ⑪田村彰英

(3) カタログ

責任編集 榎本徹

内容

ごあいさつ

図版 (モノクローム)

VIVO以後 金子隆一 (評論家)

さびしさの思想化 飯沢耕太郎 (評論家)

「PROVOKE」の疾走 飯沢耕太郎 (評論家)

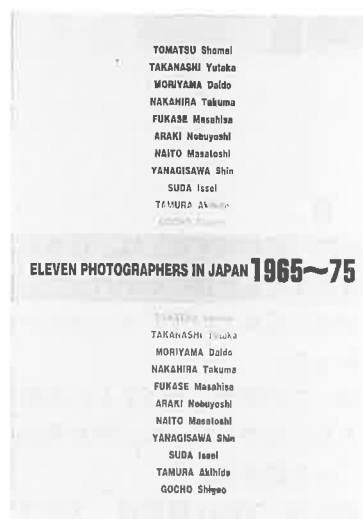
“私”と“他者”への眼差し 飯沢耕太郎 (評論家)

展覧会ノート 榎本徹

年表・1965~75

作家紹介

- A 4版 208ページ ● アート紙 110kg / 2色オフセット
- 136ページ 上質紙 90kg / オフセット72ページ



(4) 出品目録

シリーズ名	作家名	制作年	作品数
太陽の鉛筆	東松照明	1969~73	23
東京人	高梨 豊	1964~65	25
狩人	森山大道	1968~71	21
来たるべき言葉のために	中平卓馬	1968~70	20
洋子	深瀬昌久	1964~76	23
セチメンタルな旅	荒木経惟	1971	20
都市の軌跡	内藤正敏	1968~70	20
婆バクハツ	柳沢 信	1964~70	20
風姿花伝	須田一政	1971~77	20
家	田村彰英	1967~68	12

道	田村彰英	1976~81	12
SELF AND OTHERS	牛腸茂雄	1968~77	60

(5) 展評など

新聞(報道記事をのぞく)

展評

問われる「自己のまなざし」毎日新聞(西部)／(重里徹也) 元. 1. 19

昭和40年代の『写真史』朝日新聞(西部)／(源) 元. 1. 27

『写真とは何か』読売新聞(西部)／(秋)元. 1. 30

激動の時代 コラージュに社会新報／元. 2. 3

高まる写真史への関心 赤旗／(飯沢耕太郎)元. 1. 28

シリーズ

11人の1965—75 日本の写真は変えられたか 山口新聞／1. 東松照明(64. 1. 4) 2. 高梨豊(1. 5) 3. 森山大道(1. 6) 4. 森山大道(1. 7) 5. 荒木経惟(元. 1. 9) 6. 深瀬昌久(1. 10) 7. 内藤正敏(1. 11) 8. 柳沢信(1. 12) 9. 須田一政(1. 13) 10. 田村彰英(1, 20) 11. 牛腸茂雄(1. 21)

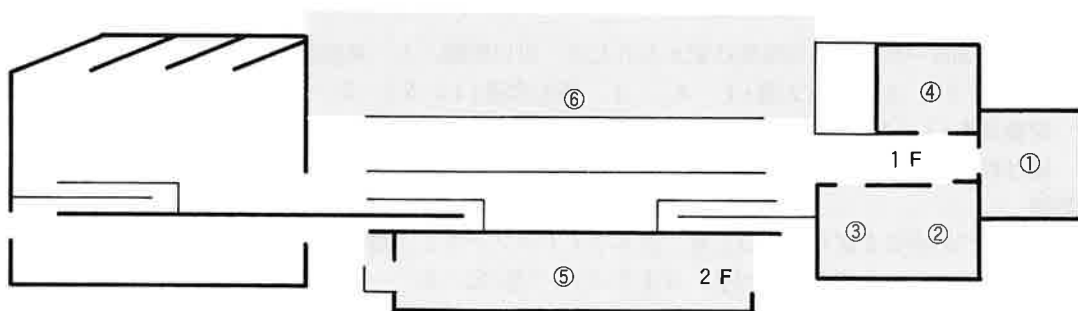
雑誌

“同時代”の活気を蘇らせた11人展 日本フォトコンテスト／(飯沢耕太郎)元. 3

“無謀”ともいえる写真展に拍手 日本カメラ／(米)元. 3

(2)常設展

館藏品（借用品をふくむ場合もある）の常時公開の場として常設展示室を設け、年4回ていどの展示替えでテーマを設定して館藏品を紹介している。常設展示のエリアは、図に示されるように5つの室からなっており、このうち4室が1階フロア、1室が2階フロアに設置されている。前4室を常設展示室Ⅰと総称し、それぞれの室は特定の展示内容にかぎられている。すなわち、①絵画展示室Ⅰが香月泰男、②同Ⅱが小林和作、③資料展示室が版画・素描・画稿などの第2次資料、④郷土工芸室が萩焼および赤間硯の展観にそれぞれ利用されている。一方、2階フロアは⑤常設展示室Ⅱと称し、館藏品全般から選ばれた作品紹介の場として利用されており、常設ⅠとⅡは相互補完的に機能し全体として偏りのない展示となるよう配慮されている。この他に戸外には⑥野外展示場が設けられている。ここは、館内展示が不可能な立体造形の紹介・展観の場として現代彫刻数点が設置されているが、鑑賞の合間の休憩の場としても利用されている。



常設展示室(①～④)	462.309㎡ (延べ面積)
常設展示室Ⅱ(⑤)	471.825㎡ (〳)
野外展示場(⑥)	1,370㎡ (〳)

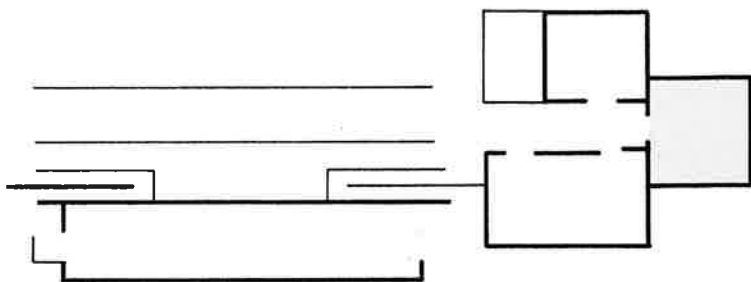
※ 凡例 常設展示記録は、各展示室に即して整理し、また、個々については、名称・会期・出品目録の順に編集されている。

(2)常設展

常設展示室 I

絵画展示室 I

(香月泰男)



1. シベリア・シリーズ(Ⅲ)

1987(昭和62)年3月16日～6月21日

出品作品 (すべて油彩・キャンバス)

番号	作品	制作年
1	餓	1964
2	1945	1959
3	穴堀人	1960
4	ナホトカ	1961
5	窓<雪>	1963
6	列	1961
7	凍土	1965
8	伐	1964
9	凍河<エニセイ>	1966
10	煙	1969
11	奉天(右)	1970
12	奉天(左)	1970
13	雨	1974
14	バイカル	1971

2. シベリア・シリーズ(Ⅳ)

1987(昭和62)年6月23日～9月13日

出品作品 (すべて油彩・キャンバス)

番号	作品	制作年
1	雨<牛>	1947
2	乗客	1957
3	ダモイ	1959
4	ホロンバイル	1960
5	アムール	1962
6	雪	1963
7	神農	1964
8	囚	1965
9	私<マホルカ>	1966

10	復員〈タラップ〉	1966
11	別	1967
12	デモ	1973
13	渚〈ナホトカ〉	1974

3. 香月泰男の世界

1987(昭和62)年9月15～12月13日

出品作品 (すべて油彩・キャンバス)

番号	作品	制作年	
1	雪降りの山陰風景	1934	
2	二人座像	1936	
3	犬	1938	
4	兔	1938	
5	棚と壺	1939	
6	門・石垣	1940	
7	石と壺	1940	
8	釣り床	1941	
9	波紋	1943	
10	雨〈牛〉	1947	
11	風	1948	
12	夏	1951	
13	籠の中のとうもろこし	1952	下関市立美術館
14	パン	1950	下関市立美術館
15	貝殻	1950	下関市立美術館
16	二匹のいか	1953	下関市立美術館
17	鳩と青年	1954	
18	牡牛	1954	
19	山羊	1955	
20	うなぎ	1957頃	下関市立美術館
21	ダモイ	1959	
22	北へ西へ	1959	
23	涅槃	1960	
24	洗濯帰り	1960頃	下関市立美術館
25	黒い太陽	1961	
26	鋸	1964	
27	伐	1964	
28	復員〈タラップ〉	1966	
29	凍河〈エニセイ〉	1966	
30	朕	1971	
31	業火	1971	
32	デモ	1973	
33	渚〈ナホトカ〉	1974	

4. シベリア・シリーズ(V)

1987(昭和62)年12月15日～1988(昭和63)年3月13日

出品作品 (すべて油彩・キャンバス)

番号	作品	制作年
1	埋葬	1948
2	左官	1956
3	避難民	1960
4	運ぶ人	1960
5	伐	1963
6	荆	1965
7	私くマホルカ	1966
8	凍河くエニセイ	1966
9	別	1967
10	護	1969
11	煙	1973
12	月の出	1974
13	日の出	1974

5. シベリア・シリーズとエスキース

1988(昭和63)年3月15日～6月12日

出品作品 (すべて油彩・キャンバス)

番号	作品	制作年	素材・技法
1	絵の具箱	1972	油彩・キャンバス(シベリア・シリーズ)
2	絵の具箱		オブジェ
3	雨	1968	油彩・キャンバス(シベリア・シリーズ)
4	朝陽	1965	油彩・キャンバス(シベリア・シリーズ)
5	海拉爾	1973	油彩・キャンバス(シベリア・シリーズ)
6	ホロンバイル	1960	油彩・キャンバス(シベリア・シリーズ)
7	ホロンバイル		オブジェ
8	避難民	1960	油彩・キャンバス(シベリア・シリーズ)
9	避難民		オブジェ
10	業火	1972	油彩・キャンバス(シベリア・シリーズ)
11	業火1	1972頃	油彩・キャンバス
12	業火2	1972頃	油彩・キャンバス
13	業火3	1972頃	油彩・キャンバス
14	収容所	1972頃	オブジェ
15	運ぶ人	1960	油彩・キャンバス(シベリア・シリーズ)
16	荷を担う		オブジェ
17	鋸	1964	油彩・キャンバス(シベリア・シリーズ)
18	鋸を引く1		オブジェ
19	鋸を引く2		オブジェ
20	荆	1965	油彩・キャンバス(シベリア・シリーズ)
21	十字架		オブジェ
22	荆冠		オブジェ

23	穴掘人	1960	油彩・キャンバス(シベリア・シリーズ)
24	私<マホルカ>	1966	油彩・キャンバス(シベリア・シリーズ)
25	自画像	1966頃	油彩・キャンバス
26	<私の>地球	1968	油彩・キャンバス(シベリア・シリーズ)
27	私の地球	1967	油彩・キャンバス

原資料

- 1 ハイラル通信(シベリア作品のエスキス=3枚)
- 2 ハイラル通信(①ハイラルの町と周辺=15枚/②軍隊生活=30枚/③家族を想う=15枚)
- 3 飯ごう
- 4 絵の具箱(付、スプーン3/画筆入れ筒1)

6. シベリア・シリーズと中期作品

1988(昭和63)年6月14日～9月11日

出品作品(すべて油彩・キャンバス)

番号	作品	制作年
1	波紋	1943
2	朝	1949
3	休憩	1952
4	仕事場	1952
5	ペンキ職人	1953
6	鳩と青年	1954
7	二人	1955
8	1945	1964
9	ダモイ	1959
10	涅槃	1960
11	海<ペーチカ>冬	1970
12	青の太陽	1969
13	日本海	1972

7. シベリア・シリーズ(I)(出征～ハイラル駐屯)

1988(昭和63)年9月13日～12月18日

出品作品(すべて油彩・キャンバス)

番号	作品	制作年
1	雲	1968
2	別	1967
3	雨<牛>	1947
4	ホロンバイル	1961
5	黒い太陽	1961
6	朝陽	1965
7	雨	1968
8	煙	1969
9	護	1969

10	朕	1970
11	海拉爾	1973
12	道	1973

8. シベリア・シリーズ(Ⅱ) (敗戦～シベリア輸送)

1988(昭和63)年12月14日～1989(平成元)年3月12日

出品作品 (すべて油彩・キャンバス)

番号	作品	制作年
1	北へ西へ	1959
2	避難民	1960
3	奉天(右)	1970
4	奉天(左)	1970
5	1945	1959
6	業火	1970
7	湿地	1961
8	凍土	1965
9	アムール	1962
10	運ぶ人	1960
11	乗客	1957

9. シベリア・シリーズ(Ⅲ) (シベリア抑留一餓、死、望郷一)

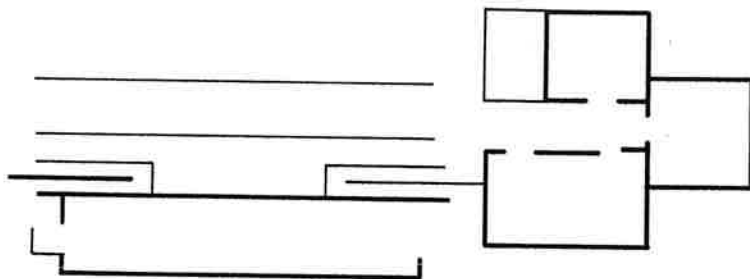
1989(平成元)年3月14日～5月21日

出品作品 (すべて油彩・キャンバス)

番号	作品	制作年
1	餓	1964
2	伐	1964
3	鋸	1964
4	神農	1964
5	雪	1963
6	涅槃	1960
7	海<ペーチカ>冬	1966
8	星<有刺鉄線>夏	1966
9	穴掘人	1960
10	凍河<エニセイ>	1966
11	雪<窓>	1963
12	-35℃	1971

絵画展示室Ⅱ

(小林和作)



1. 小林和作のコレクション

1987(昭和62)年3月17日～6月21日

出品作品

番号	作品	作者	材質・形状
1	椿	中川一政	紙本彩色・額
2	女と龍	梅原龍三郎	水彩・紙・扇面額
3	ノートルダム	林 武	水彩・紙
4	婦人の顔	青山熊治	〃
5	上高地	小林和作	〃
6	山湖	〃	〃
7	春	〃	〃
8	残雪の妙高高原	〃	〃
9	伊太利カプリ島風景	山脇信徳	〃
10	フローレンスタ映	西山英雄	紙本彩色・額
11	伊太利カプリ島風景	山脇信徳	油彩・キャンバス
12	女	里見勝蔵	〃
13	濃彩人物像	福沢一郎	油彩・板
14	美人画双福	月岡雪鼎	絹本彩色・軸
15	富士	竹内栖鳳	〃
16	紺糸を干す	小野竹喬	〃
17	洛北春風	堂本印象	〃

2. 小林和作の世界

1987(昭和62)年6月23日～9月13日

出品作品

番号	作品	作者	材質・形状
1	風景(海)	小林和作	油彩・キャンバス
2	風景(海)	〃	〃
3	佐渡の海	〃	〃
4	海	〃	〃
5	春の海	〃	〃
6	山湖の秋	〃	〃
7	春	〃	〃
8	紀州の海	〃	水彩・紙・額
9	桃鳩	〃	紙本淡彩・軸

10	檜鳥	〃	〃
11	山茶花と青鳩	〃	絹本彩色・軸
12	南画風山水	〃	〃
13	隠岐白鳥	〃	版画・額
14	霧島山中六観音池	〃	水彩・額
15	唐津立神岩	〃	〃
16	紀州の海	〃	〃
17	紀州太地	〃	〃

3. 香月泰男の世界

1987(昭和62)年9月15日～12月13日 ※香月泰男室と併用 (→P.82)

4. 山口の水彩画家たち

I. 河上大二

1987(昭和62)年12月15日～1988(昭和63)年3月13日

出品作品

番号	作品	作者	制作年	材質・形状
1	田植	河上大二	1927	水彩・紙
2	田植	〃	1928	〃
3	自画像	〃	1928	〃
4	台所	〃	1929	〃
5	海水浴	〃	1932	〃
6	ピアノ	〃	1933	〃
7	農耕	〃	1934	〃
8	風景(徳山舞車)	〃	1934	〃
9	農耕	〃	1936	〃
10	農耕	〃	1936	〃
11	風景(富田川観音)	〃	1937	〃
12	田植	〃	1938	〃
13	屋内	〃	1938	〃
14	農耕	〃	1940	〃
15	夜の海辺	〃	不詳	〃
16	映写会	〃	〃	〃
17	踊りの夜	〃	〃	〃
18	家族	〃	〃	〃
19	婦人像	〃	〃	〃
20	夜桜	〃	〃	〃
21	自宅の畠	〃	1933	〃

資料

- 1 徳山市内スケッチ
- 2 初期習作
- 3 スケッチ帖

- 4 葉書など記録
- 5 中央美術など雑誌類

5. 小林和作の世界

1988(昭和63)年3月15日～6月12日

出品作品

番号	作品	作者	材質・形状
1	風景(海)	小林和作	油彩・キャンバス
2	風景(海)	〃	〃
3	佐渡の海	〃	〃
4	海	〃	〃
5	春の海	〃	〃
6	山湖の秋	〃	〃
7	春	〃	〃
8	紀州の海	〃	水彩・額
9	桃鳩	〃	紙本淡彩・軸
10	檜鳥	〃	〃
11	山茶花と青鳩	〃	絹本彩色・軸
12	南画風山水	〃	〃
13	隠岐白鳥	〃	版画・額
14	霧島山中六観音池	〃	水彩・額
15	唐津立神岩	〃	〃
16	紀州の海	〃	〃
17	紀州太地	〃	水彩・額

6. 藤田隆治展

1988(昭和63)年6月14日～9月11日

出品作品

番号	作品	作者	制作年	材質・形状
1	裸婦	藤田隆治	不詳	紙本彩色
2	蟹とくらげ	〃	不詳	絹本彩色
3	三眠	〃	1963	紙本彩色・額
4	原始太陽	〃	1960	〃
5	ひらめ	〃	不詳	紙本彩色
6	魚貝石	〃	不詳	絹本彩色・額
7	格子魚	〃	不詳	紙本彩色・額
8	海老と魚	〃	1963	〃
9	動的な群像	〃	1964	キャンバス彩色
10	有明海	〃	不詳	紙本彩色・額
11	魚のいる風景	〃	不詳	キャンバス彩色・額
12	鷺のいる風景	〃	不詳	紙本彩色・屏風2曲1双

13	初夏	◇	1925-30	紙本彩色
14	とり	◇	1925	鉛筆・彩色・紙
15	すずき	◇	1947	紙本彩色
16	裸婦	◇	1953	鉛筆・紙
17	鳥	◇	1955	水彩・紙
18	自画像	◇	1947	◇
19	サカナ	◇	1947	クレヨン・彩色・紙
20	矢玉港風景	◇	1947	水彩・鉛筆・紙
21	草花	◇	1953	◇
資料				
1	如来形立像	◇	1925	木
2	菩薩形立像	◇	不詳	石
3	ひらめ絵付皿	◇	不詳	陶
4	魚絵付壺	◇	不詳	陶
5	素描類	◇		
6	手帳	◇		

7. 小林和作の風景画

1988(昭和63)年9月13日～12月18日

出品作品

番号	作品	作者	制作年	材質・形状
1	上高地(其の三)	小林和作	1925	油彩・キャンバス
2	カブリ島	◇	1928	◇
3	エクス風景	◇	1929	◇
4	春の山	◇	1951	◇
5	山湖	◇	1955	◇
6	海	◇	1964	◇
7	海	◇		◇
8	秋山	◇		◇
9	秋山	◇		◇
10	春	◇		◇
11	秋晴	◇		◇
12	佐渡の海	◇		◇
13	山湖の秋	◇		◇
14	春の海	◇	1974	◇

以上の他、水彩軸装「紀州の海」ほか風景水彩画を5～6点展示

8. 小林和作とそのコレクション

1988(昭和63)年12月20日～4月2日

出品作品

番号	作品	作者	制作年	材質・形状
----	----	----	-----	-------

〈小林和作作品〉

1	エクス風景	小林和作	1929	油彩・キャンバス
2	海	〃		〃
3	婦人像	〃		〃
4	秋山	〃		〃
5	春	〃		〃
6	秋果	〃		〃
7	春の海	〃	1974	〃
8	春の山	〃		〃
9	山湖	〃		〃

〈小林コレクションー洋画〉

10	フローレンスタ映	西山英雄		紙本彩色・額
11	カプリ島風景	山脇信徳		油彩・キャンバス
12	婦人の顔	青山熊治		〃
13	ノートルダム	林 武		水彩・紙
14	椿	中川一政		紙本彩色・額
15	濃彩人物像	福沢一郎		油彩・キャンバス

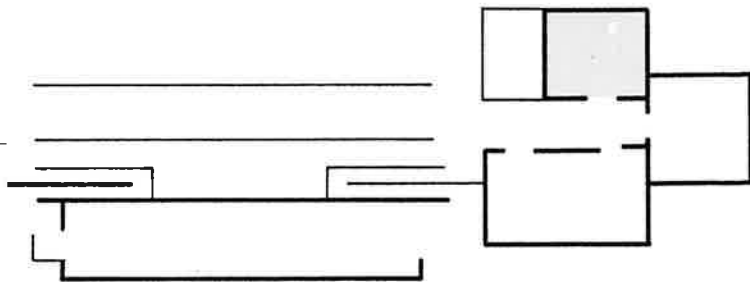
〈小林コレクションー日本画〉

16	慶長時代風俗遊楽図	不詳		紙本彩色・軸
17	寛永時代風俗人物図	〃		〃
18	立ひざ美人	奥村政信		絹本彩色・軸
19	美人図	山口素絢		〃
20	涼美人	歌川豊広		〃
21	豊国風立美人	不詳		紙本彩色・軸
22	歌麿風肉筆浮世絵美人	不詳		〃

郷土工芸室

1. 郷土の陶芸Ⅱ —防府の陶芸—

1987(昭和62)年1月20日～4月19日



出品作品

番号	作品	所蔵
1	佐野土鼎	玉祖神社
2	佐野 盃	〃
3	佐野大盃	〃
4	佐野大鼎	〃
5	佐野 盃	〃
6	佐野大盃	〃
7	佐野土鼎(明治銘)	〃
8	佐野土鼎(昭和銘)	〃
9	西浦赤絵大鉢	個人
10	佐野火鉢	〃
11	佐野蒸籠	〃
12	手回しロクロ	〃
13	西浦素焼香炉	山口県立山口博物館
14	西浦赤絵鉢蓋付鉢	〃
15	西浦赤絵大鉢	〃
16	鶏血水注	〃
17	堀越手付甕	〃
18	堀越雲助	〃
19	佐野火消壺	〃
20	堀越蓋付壺	〃

2. 山口の工芸 —萩焼と赤間硯—

1987(昭和62)年4月21日～7月19日

出品作品

番号	作品	作者	制作年
1	萩茶碗	三輪休和	1975
2	萩水指	〃	1973
3	萩茶碗	三輪休雪(11代)	1979
4	萩水指	〃	1981
5	萩茶碗	田原陶兵衛(12代)	1978
6	萩割高台茶碗	〃	1979

7	萩茶碗	坂倉新兵衛(12代)	
8	萩水指	々	
9	萩茶碗	坂倉新兵衛(14代)	1974
10	麦文壺	古賀大眉	1946
11	萩井戸茶碗	々	
12	白釉壺(花器)	々	1962
13	萩水指	坂田泥華	1978
14	萩茶碗	々	1979
15	萩魚文壺	坂高麗左衛門	1975
16	萩茶碗	々	1975
17	赤間硯「双体」	堀尾卓司	
18	赤間硯「豊麗」	々	1959
19	赤間硯「すみすり」	々	1979
20	赤間硯「蘭花研」	々	1956
21	赤間硯「ビルディング」	々	1970
22	赤間硯「墨柿研」	々	1950

3. 郷土の陶芸Ⅵ 一下関の陶芸一

1987(昭和62)年7月21日～10月18日

出品作品

番号	作品	窯	所蔵
1	辰砂壺	小月窯	山口県立山口博物館
2	辰砂花瓶	々	々
3	染付鳥文蓋付壺	鷹山窯	下関市立長府博物館
4	染付山水文皿	々	々
5	染付山水文燭台	々	々
6	青磁双魚文皿	々	々
7	褐釉染付山水文鉢	々	々
8	染付山水文水注	々	々
9	染付鳳凰文水注	々	々
10	染付欧風楼閣文皿	々	々
11	染付山水文碗	々	山口県立山口博物館
12	窯跡採集陶片	々	下関市立長府博物館
13	青磁燭台	松風山窯	々
14	黒釉茶碗	々	々
15	黒釉香炉	々	々
16	呉須唐草文水指	々	々
17	窯跡採集陶片	々	々
18	素焼手あぶり	功山寺窯	々
19	素焼山水文手あぶり	野久留米窯	々
20	素焼涼炉	々	々
21	褐釉稲穂文花瓶	星里窯	々
22	結晶釉大花瓶	々	々

23	色絵梅樹文蓋付碗	〃	〃
24	呉須人物瓶	硯海窯	〃
25	褐釉呉須松文甕	〃	〃

4. 萩焼 ―古萩と現代―

1987(昭和62)年10月20日～1988(昭和63)年1月17日

出品作品

番号	作品	作者	制作年
1	萩檜垣文筆洗形割高台茶碗	不詳	江戸前期
2	萩馬上盃形茶碗	〃	〃
3	萩茶碗	〃	〃
4	萩花文割高台形鉢	〃	〃
5	萩飛獅子置物	〃	〃
6	萩茶碗	〃	〃
7	萩茶碗	〃	江戸中期
8	萩牡丹唐草文手洗	〃	文政7年銘 (1824)
9	金線文角皿	加藤重美	1986
10	萩茶碗	三輪休雪(11代)	1978
11	萩茶碗	〃	1987
12	萩壺	三輪休和	1955頃
13	萩筆洗切茶碗	〃	1975
14	萩編笠水指	〃	1973
15	萩茶碗	坂高麗左衛門	1970
16	萩茶碗	坂倉新兵衛(12代)	
17	萩刷毛目茶碗	〃	
18	萩御本手茶碗	坂倉新兵衛(14代)	1974
19	萩茶碗	〃	1974
20	萩小井戸茶碗	坂田泥華(13代)	1979
21	萩割高台茶碗	田原陶兵衛(12代)	1979
22	萩炎箔文陶笛	大和保男	1979
23	花器「暁雲」	吉賀大眉	1973
24	萩斗々屋写茶碗	〃	1974

5. 現代の陶芸

1988(昭和63)年1月19日～4月17日

出品作品

番号	作品	作者	制作年	材質・形状
1	伝道の書Ⅱ -白熱の中の崩壊-	西村陽平	1975	土・ヤカン・王冠・カン
2	カップを崩壊する石	〃	1982	カップ・石

3	ベンチを侵食するアルミ	〃	1980	アルミ・ベンチ
4	独逸浪漫主義	〃	1982	土・亜鉛板・木
5	世紀末の風景	中村康平	1985	土
6	流沙の人	三輪龍作	1979	陶
7	ラブ	〃	1969	〃
8	女	〃	1976	〃
9	花I	〃	1977	〃
10	花器	〃	1982	〃
11	コピー'82	三島喜美代	1982	〃
12	モナリザ	佐藤 敏	1976	土(黒陶)
13	陶酔記	〃	1984	木・土・スクラップ
14	スパーク・スパーク・アーム	鯉江良二	1982	陶
15	証言	〃	1973	〃
16	砂の聖書	荒木高子	1980	〃
17	赤ちゃんの帽子	〃	1973	〃
18	KOK85E-2	井上雅之	1985	〃
19	KCJ8643	〃	1986	〃
20	Appearance・Substance	星野 暁	1982	陶
21	アイスバケット	P.ヴォーコス	1982	土
22	プレート	〃	1982	〃

6. 郷土の陶芸Ⅶ —山口市の陶芸—

1988(昭和63)年4月19日～7月17日

出品作品

番号	作品	作者	所蔵
1	紅釉水指	大和松緑	個人
2	萩くみだし茶碗	〃	〃
3	萩割高台茶碗	〃	〃
4	萩割高台茶碗	〃	〃
5	色絵人物文鉢	〃	〃
6	萩割高台茶碗	〃	〃
7	萩梅花文透かし鉢	〃	〃
8	萩楓形鉢	〃	〃
9	萩筆洗切鉢	〃	〃
10	萩幸茸耳付花瓶	〃	〃
11	萩割高台茶碗	〃	〃
12	萩割高台鉢	〃	〃
13	萩蓋付鉢	〃	〃
14	萩建水	〃	〃
15	萩片口(3点)	〃	〃
16	萩梅花文透かし鉢	〃	〃
17	萩水指	〃	〃
18	萩割高台茶碗	〃	〃
19	色絵山水文耳付花瓶	山口焼	山口県立山口博物館

20	呉須花鳥文皿	常堂焼	〃
21	黒釉耳付火鉢	陶焼	〃
22	黒釉徳利	〃	〃
23	褐釉徳利	〃	〃
24	染付花鳥文杯	〃	〃
25	色絵山水文大鉢	〃	個人
26	色絵雲龍文瓶	〃	〃
27	灰釉瓶	〃	〃
28	染付花鳥文徳利	仁保焼	山口市歴史民俗資料館
29	染付虎図徳利	〃	〃

7. 萩焼 —茶碗・水指・花入れ—

1988(昭和63)年7月19日～10月16日

出品作品

番号	作品	作者	制作年
1	萩茶入	坂倉新兵衛(12代)	1974
2	萩水指	〃	
3	萩とじめ水指	〃	
4	萩茶碗	三輪休和(10代休雪)	1975
5	萩筆洗切茶碗	〃	1975
6	萩編笠水指	〃	1973
7	萩茶碗	三輪休雪(11代)	1978
8	萩茶碗	〃	1978
9	萩水指	〃	1981
10	萩茶碗	坂高麗左衛門(11代)	1980
11	萩茶入	〃	1980
12	萩水指	〃	1975
13	萩ちりめん釉花入	々	1979
14	萩茶碗	坂田泥華(13代)	1977
15	萩小井戸茶碗	〃	1979
16	萩水指	〃	1978
17	萩井戸茶碗	吉賀大眉	
18	斗々屋写茶碗	〃	1974
19	萩花入	坂倉新兵衛(14代)	1974
20	萩刷毛目茶碗	田原陶兵衛(12代)	
21	萩茶碗	〃	1978
22	萩水指	〃	1978
23	萩被耳付花入	〃	1979

8. 古萩と現代

1988(昭和63)年10月18日～1984(昭和64)年1月22日

出品作品

番号	作品	作者	制作年
〈古萩〉			
1	萩檜垣文筆洗形割高台茶碗	不詳	江戸時代
2	萩馬上盃形茶碗	〃	〃
3	萩茶碗	〃	〃
4	萩花文割高台形鉢	〃	〃
5	萩飛獅子置物	〃	〃
6	萩茶碗	〃	〃
7	萩茶碗	〃	〃
8	萩牡丹唐草文手洗	〃	文政7年 (1824)
〈現代〉			
10	萩茶碗	三輪休雪(11代)	1978
11	萩茶碗	〃	1987
12	萩壺	三輪休和	1955頃
13	萩編笠水指	〃	1973
14	萩茶碗	坂高麗左衛門	1970
15	萩茶碗	〃	1975
16	萩刷毛目茶碗	坂倉新兵衛(12代)	不詳
17	萩御本手茶碗	坂倉新兵衛(14代)	1974
18	花器「暁雲」	吉賀大眉	1973
19	萩斗々屋写茶碗	〃	1974
20	萩小井戸茶碗	坂田泥華(13代)	1979
21	萩割高台茶碗	田原陶兵衛(12代)	1979
22	萩炎箔文陶筥	大和保男	1979
23	金線文陶筥	加藤重美	1986

9. 萩焼と赤間硯

1989(昭和64)年1月24日～(平成元)年4月23日

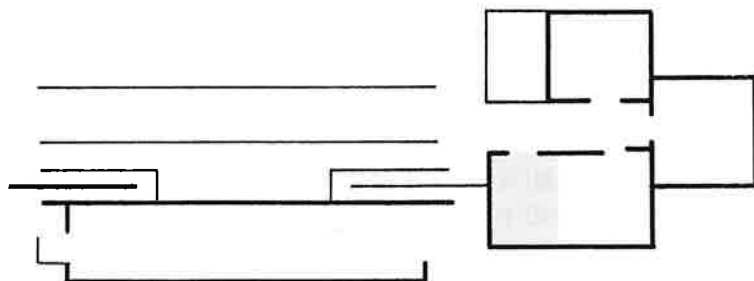
出品作品

番号	作品	作者	制作年
1	萩編笠水指	三輪休和	1973
2	萩筆洗切茶碗	〃	1975
3	萩水指	三輪休雪	1981
4	萩茶碗	〃	1978
5	萩麦文壺	吉賀大眉	1946
6	花器「暁雲」	〃	1973
7	萩井戸茶碗	〃	
8	萩水指	坂倉新兵衛(12代)	
9	萩刷毛目茶碗	〃	
10	萩花入	坂倉新兵衛(14代)	1974
11	萩茶碗	〃	1974
12	萩ちりめん釉花入	坂高麗左衛門(11代)	1979

13	菖水指	坂田泥華	1978
14	菖茶碗	々	1979
15	鉢「雷童」	三輪龍作	1981
16	陶筥	大和保男	1979
17	陶筥	加藤重美	1986
18	赤間硯「双体」	堀尾卓司	
19	赤間硯「すみすり」	々	1979
20	赤間硯「蘭花研」	々	1956
21	赤間硯「ビルディング」	々	1970

資料展示室

(美術史資料ほか)



1. 植木茂の世界

1987(昭和62)年9月15日～12月13日

出品作品

番号	作品	作者	制作年	素材・技法
1	作品	植木 茂	1951	ブロンズ
2	トルソ	〃	1962	〃
3	楯	〃	1962	〃
4	楯	〃	1962	〃
5	風A	〃	1962頃	鉄
6	トルソ	〃	〃	〃
7	人	〃	〃	ブロンズ
8	作品	〃	1966頃	〃
9	作品	〃	〃	〃
10	作品	〃	〃	〃
11	サーカス	〃	1966	鉄
12	人々	〃	1967	〃
13	フォームB	〃	1968	〃
14	フォームC	〃	1968頃	〃
15	女	〃	1963	テラコッタ
16	人	〃	1963頃	〃
17	民家	〃	1981	平面レリーフ・木
18	民家	〃	〃	〃
19	民家	〃	〃	〃
20	民家	〃	〃	〃
21	民家	〃	〃	〃
22	民家	〃	〃	〃

2. 雪舟と芳崖

1987(昭和62)年11月3日～11月23日

出品作品

番号	作品	作者	制作年	素材・技法
1	牧牛図二幅	雪舟	室町時代	紙本淡彩・軸
2	山水小巻	〃	1474	紙本墨画・画卷
3	八臂弁財天図	狩野芳崖		絹本彩色・軸
4	雪中山水図	〃		紙本墨画淡彩・軸

5	青砥藤網滑川拾銭図	〃	〃
6	羅漢図双幅	〃	紙本彩色・軸

3. カット絵原画と水彩画 ―香月泰男と中本達也―

1988(昭和63)年9月13日～12月18日

出品作品

番号	作品	作者	制作年	素材・技法
1	トマト	香月泰男		クレパス他・紙
2	セイシエル諸島	〃		〃
3	ザクロ	〃		〃
4	コスモス	〃	1950年代	〃
5	室内・窓	〃	〃	〃
6	下駄箱	〃	〃	〃
7	中庭・樹木	〃	〃	〃
8	自転車置場	〃	〃	〃
9	水溜	〃	〃	〃
10	水仙	〃	〃	鉛筆他・紙
11	Sacra S. Michele	中本達也	1964	水彩・パステル・紙
12	古代ローマの二人	〃	1964	墨・紙
13	人びと	〃	1965	水彩・墨・紙
14	三島由紀夫「豊饒の海」カット	〃	1968	墨・紙
15	三島由紀夫「豊饒の海」カット	〃	1968	〃
16	三島由紀夫「豊饒の海」カット	〃	1968	〃
17	開高健「パニック・裸の王様」 カバー装画	〃	1971	油彩・墨・紙
18	スタインバック「怒りの葡萄」 カバー装画	〃		油彩・墨・紙
19	ハーディ「テス」装画	〃		墨・紙
20	M氏宛葉書	〃	1970	〃

4. 雪舟と雲谷派

1988(昭和62)年11月8日～11月20日

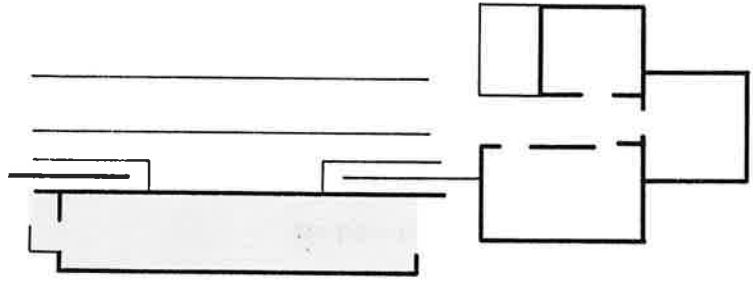
出品作品

番号	作品	作者	制作年	素材・技法
1	山水小巻	雪舟	1474	紙本墨画・画卷
2	牧牛図(牧童)	〃		紙本彩色・軸
3	牧牛図(渡河)(レプリカ)	〃		〃
4	懶山焼芋図	雲谷等顔		紙本墨画・軸
5	枯木にかわせみ図	〃		〃
6	樹下高士・山水図	〃		〃

常設展示室Ⅱ

1. 現代の陶芸

1987(昭和62)年2月3日～4月26日



出品作品

番号	作品	作者	制作年
1	モナリザ	佐藤 敏	1976
2	陶酔記	〃	1984
3	陶による石の群	杉浦康益	1984
4	伝道の書Ⅱ -白熱の中の崩壊-	西浦陽平	1975
5	ペンチを侵食するアルミ	〃	1980
6	カップを破壊する石	〃	1982
7	独逸浪漫主義 -アッシジに寄せて-	〃	1982
8	独逸浪漫主義Ⅱ	〃	1982
9	燃えない木	〃	1984
10	プレート	P. ボーコス	1982
11	スタック	〃	1982
12	アイスバスケット	〃	1982
13	砂の聖書	荒木高子	1980
14	L O V E	三輪龍作	1969
15	女	〃	1976
16	女Ⅰ	〃	1977
17	女Ⅱ	〃	1977
18	予感	〃	1977
19	流沙の人	〃	1979
20	L O V E (ハイヒール)	〃	1980
21	鉢「早春」	〃	1981
21	鉢「雷童」	〃	1981
23	花器	〃	1982
24	起土—魚形の仮説—	伊藤公象	1982
25	証言	鯉江良二	1973
26	スパーク・スパーク・アーム	〃	1982
27	赤ちゃんの帽子	里中英人	1973
28	表層・深層	星野 暁	1982
29	Appearance. Substance	〃	1982
30	ニュースペーパー '82	三島喜美代	1982
31	コピー '82	〃	1982
32	世紀末の風景 1 - 3	中村康平	1983
33	D A N G O	金子 潤	1984

2. 風景との対話

1987(昭和62)年4月28日～8月30日

出品作品

番号	作品	作者	制作年	素材・技法
1	風景	永地秀太		油彩・キャンバス
2	風景	錦義一郎		〃
3	秋晴	小林和作		〃
4	フローレンスタ映	西山英雄		〃
5	帰り道	桂 ユキ	1934	〃
6	ハイラル	香月泰男	1973	〃
7	ランドスケープ	宮崎 進	1976	〃
8	星空の富士	長谷川三郎	1934	〃
9	オートバイ	山本文彦	1971	〃
10	A STREET SCENE No.1	吉村芳生	1978	鉛筆・紙
11	作品1	殿敷 侃	1981	版画・紙
12	作品2	〃	〃	〃
13	漁港	小野具定	1965	紙本彩色・額
14	薄雪	〃	1977	油彩・キャンバス
15	漁港	沢野文臣	1979	紙本彩色・額
16	芭蕉の雨	中野弘彦	1977	〃
17	変貌する山	岩崎巴人	1966	〃
18	たそがれの畑	長崎莫人	1959	紙本彩色・ガラス粉・額
〈固定ケース〉				
前期				
19	群馬図	雲谷等顔		紙本墨画・六曲屏風一雙
20	山水図	雲谷等益		紙本墨画淡彩金砂子・6曲屏風1双
21	芥川図	森 寛斎		絹本彩色・軸
22	雪中山水	狩野芳崖		紙本墨画淡彩・軸
23	山水図	巖島虹石		紙本墨画淡彩・六曲屏風一雙
24	日本亜伯山溪図	高島北海	1916	絹本墨画彩色・軸
25	蓬萊瑞色図	田中柏隠	1921	絹本彩色・軸
26	紺糸を干す	小野竹喬		〃
後期				
19	山水図	雲谷等与		紙本墨画淡彩・六曲屏風一雙
20	青砥藤網滑川拾銭図	狩野芳崖		紙本墨画淡彩・軸
21	四季耕作図	〃		〃
22	雪景山水	高島北海	1916	絹本墨画彩色・軸
23	松林瀑布山水図	森 寛斎	1868	絹本墨画・軸
24	仙境聴仙図	松林桂月	1929	紙本墨画淡彩・六曲屏風一雙
25	洛北春風	堂本印象		絹本彩色・軸

3. 日本画コレクション展

1987(昭和62)年10月6日～10月18日

出品作品

番号	作品	作者	制作年	素材・技法
〈壁画〉				
1	萌芽	福田翠光	1936	絹本彩色・額
2	寂	〃	1969	紙本彩色・額
3	三眠	藤田隆治	1963	〃
4	原始太陽	〃	1960	〃
5	網船	沢野文臣	1957	〃
6	懐壁	西野新川	1962	〃
7	働く人	朝倉 撰	1952	〃
8	凍えるシベリアにて	岩崎巴人	1964	〃
9	七つの軌跡	下村良之介		
10	見物人	水谷勇夫		
11	北辺の船	小野具定	1964	紙本彩色・額
〈固定ケース〉				
12	四季耕作図屏風	狩野芳崖		紙本墨画淡彩・4曲屏風半双
13	山水図屏風	巖島虹石		紙本墨画淡彩・6曲屏風1双
14	春秋山水図屏風	高島北海	1928	紙本金地彩色・6曲屏風1双
15	鶴雛屏風	福田翠光	1934	絹本彩色・軸
16	鷺のいる風景	藤田隆治		紙本彩色・2曲屏風1双
17	日本1958-2	朝倉 撰	1958	紙本彩色・6曲屏風半双
18	水芭蕉曼陀羅・黄14	佐藤多持	1968	紙本墨画彩色・4曲屏風半双

4. トーマス・シュトゥールト写真展

1987(昭和62)年10月24日～12月27日

出品作品

番号	作品	作者	制作年
1	山 口	トーマス・シュトゥールト	1986
2	山 口	〃	1986
3	山 口	〃	1986
4	山 口	〃	1986
5	山 口	〃	1986
6	山 口	〃	1986
7	山 口	〃	1986
8	新 宿(東京)	〃	1986
9	新 宿(東京)	〃	1986
10	新 宿(東京)	〃	1986
11	新 宿(東京)	〃	1986
12	丸の内(東京)	〃	1986
13	山 口	〃	1986
14	京 都	〃	1986
15	新 宿	〃	1986
16	萩	〃	1986
17	黄波戸	〃	1986

18	萩	〃	1986
19	新宿	〃	1986
20	オーカー通り,レヴァークーゼン	〃	1979
21	ケルティング通り,ハノーヴァー	〃	1984
22	オーヴァーブルック通り,デュイスブルグ	〃	1985
23	ヘルダー・ブリュッケン通り,ドルトムント	〃	1986
24	パーラメント広場,エディンバラ	〃	1987
25	ダブリン・ミュージズ,エディンバラ	〃	1987
26	パルマーストン・プレイス,エディンバラ	〃	1985
27	聖ヴィンセント通り,エディンバラ	〃	1985
28	カールトン・ロード,エディンバラ	〃	1985
29	プリンス・リージェント通り,エディンバラ	〃	1985
30	フォフグラーベン,ミュンヘン	〃	1980
31	ルドヴィク通り,ミュンヘン	〃	1984
32	アウグスト帝広場,ローマ	〃	1984
33	アレッサンドロ・スペッチ通り,ローマ	〃	1984
34	コルソ通り,ローマ	〃	1984
35	エリトレア大通り,ローマ	〃	1984
36	シュラウン通り,ミュンスター	〃	1986
37	アウフ・デア・ハート,ポットゥロップ	〃	1985
38	プラネートゥン通り,デュッセルドルフ	〃	1979
39	デュッセル通り,デュッセルドルフ	〃	1979
40	バリーザー通り,ミュンヘン	〃	1981
41	ゲブザッテル通り,ミュンヘン	〃	1984

5. 山口の近・現代彫刻

1988(昭和63)年2月19日～4月3日

出品作品

番号	作品	作者	制作年	素材・技法
1	立像C	河内山賢祐	1952	ブロンズ
2	無題(裸婦抽象)	〃	1962	〃
3	或る日	中野四郎	1944	木
4	トルソ	〃	1951	ブロンズ
5	踊り子	〃	1953	〃
6	若い女	〃	1957	〃
7	淵(エスキース)	〃	1957	〃
8	永遠	〃	1968	〃
9	碧空	中村青田	1971	木
10	点字	田中米吉	1965	アルミ板・ラッカー
11	ドッキング No.15	〃	1974	プラスチック・グラスファイバー・アクリルラッカー
12	ドッキング BW.20	〃	1975	アルミ・鉄・アクリルラッカー
13	カリアチュード	伊藤 鈞	1963	ブロンズ
14	フルートを吹く女	〃	1970	〃

15	マスク	澄川喜一	1977	木
16	おうぎ	〃	1981	〃
17	そりとそぎ	〃	1980	〃
18	女	三輪龍作	1976	陶
19	花Ⅰ	〃	1977	〃
20	花Ⅱ	〃	1977	〃

6. 絵画における抽象表現

1988(昭和63)年5月20日～7月3日

出品作品

番号	作品	作者	制作年	素材・技法
1	たそがれの畑	長崎莫人	1957	紙本彩色・ガラス粉・額
2	野性	田中稔之	1960	油彩・キャンバス
3	異邦人	桂 ユキ	1960	〃
4	α(アルファ)	野村 耕	1963	板・紙型・塗料・彩色・額
5	W o r k	楠田信吾	1963	板・塗料・彩色・額
6	荒れる海	岩崎巴人	1967	紙本彩色・額
7	水芭蕉曼陀羅・黄14	佐藤多持	1968	紙本墨画彩色・4曲屏風半双
8	〈私の〉地球	香月泰男	1968	油彩・キャンバス
9	赤の地平	田中稔之	1976	〃
10	芭蕉の雨	中野弘彦	1977	紙本彩色・額

〈固定ケース内〉—中世・近世の日本画

出品作品

番号	作品	作者	素材・技法
11	群馬図屏風	雲谷等顔	紙本墨画淡彩・6曲屏風1双
12	花鳥画	雲谷等哲	絹本彩色・軸双幅
13	琴棋書画図	雲谷等璠	紙本墨画淡彩・6曲屏風1双
14	塞外射獵図	佐々木縮往	絹本彩色・画卷
15	西湖図	永富等雲	紙本墨画・6曲屏風1双

7. 香月泰男の版画 —寄贈版画披露展—

1988(昭和63)年9月27日～12月11日

出品作品

番号	作品	作者	制作年	技法・素材
1	針ねずみ	香月泰男	1970	石版2版2色 平版インク・アルシュ
2	コンドル	〃	〃	〃 2版2色 〃

3	バッファロー	◇	◇	◇	2版2色	◇
4	みどりちうはし	◇	◇	◇	2版2色	◇
5	虎	◇	◇	◇	3版3色	◇
6	あざらし	◇	◇	◇	3版3色	◇
7	ジャガー	◇	◇	◇	3版3色	◇
8	猿(アメリカ)	◇	◇	◇	3版3色	◇
9	白孔雀	◇	◇	◇	2版2色	◇
10	象	◇	◇	◇	3版3色	◇
11	真鶴	◇	◇	◇	3版3色	◇
12	エミュ	◇	◇	◇	3版3色	◇
13	マンドリルとゴリラ	◇	◇	◇	3版3色	◇
14	ペンギン	◇	◇	◇	3版3色	◇
15	動物園にて	◇	◇	◇	2版2色	◇
16	ライオン	◇	◇	◇	3版3色	◇
17	らくだ	◇	◇	◇	2版2色	◇
18	母子像1	◇	1971	◇	3版3色	◇
19	母子像2	◇	◇	◇	3版3色	◇
20	母子像3	◇	◇	◇	3版3色	◇
21	母子像4	◇	◇	◇	2版2色	◇
22	母子像5	◇	◇	◇	2版2色	◇
23	母子像6	◇	◇	◇	3版3色	◇
24	母子像7	◇	◇	◇	3版3色	◇
25	母子像8	◇	◇	◇	3版3色	◇
26	母子像9	◇	◇	◇	3版3色	◇
27	裸婦1	◇	◇	◇	1版1色	平版インク・出雲特漉和紙
28	裸婦2	◇	◇	◇	1版1色	◇
29	裸婦3	◇	◇	◇	1版1色	◇
30	裸婦4	◇	◇	◇	1版1色	◇
31	裸婦5	◇	◇	◇	1版1色	◇
32	裸婦6	◇	◇	◇	1版1色	◇
33	裸婦7	◇	◇	◇	1版1色	◇
34	裸婦8	◇	◇	◇	1版1色	◇
35	裸婦9	◇	◇	◇	1版1色	◇
36	裸婦10	◇	◇	◇	1版1色	◇
37	湯する女	◇	◇	◇	1版1色	◇
38	横たわる裸婦	◇	◇	◇	1版1色	◇
39	椅子の女	◇	◇	◇	1版1色	◇
40	北見	◇	◇	◇	2版2色	平版インク・B F K
41	層雲峡	◇	◇	◇	4版4色	◇
42	知床小漁村	◇	◇	◇	3版3色	◇
43	水芭蕉	◇	◇	◇	2版2色	◇
44	オホーツクの朝	◇	◇	◇	2版2色	◇
45	摩周湖	◇	◇	◇	3版3色	◇
46	美幌峠から屈斜路湖	◇	◇	◇	2版2色	◇
47	大雪山連峰	◇	◇	◇	2版2色	◇
48	オホーツクの日の出	◇	◇	◇	2版2色	◇
49	阿寒の山肌	◇	◇	◇	2版2色	◇
50	白樺若木	◇	◇	◇	2版2色	◇

51	美幌峠残雪	〃	〃	〃	2版2色	〃
52	パリの屋根 1	〃	〃	〃	4版4色	平版インク・アルシュ
53	パリの屋根 2	〃	〃	〃	6版6色	〃
54	パリの屋根 3	〃	〃	〃	4版4色	〃
55	パリの屋根 4	〃	〃	〃	5版5色	〃
56	パリの屋根 5	〃	〃	〃	5版5色	〃
57	パリの屋根 6	〃	〃	〃	4版4色	〃
58	パリの屋根 7	〃	〃	〃	4版4色	〃
59	パリの屋根 8	〃	〃	〃	4版4色	〃
60	パリの屋根(A)	〃	〃	〃	4版4色	〃
61	クレタ村	〃	1972	〃	7版7色	〃
62	ロードス郊外	〃	〃	〃	6版6色	〃
63	リンドス	〃	〃	〃	6版6色	〃
64	ロードスの裏街	〃	〃	〃	5版5色	〃
65	竜舌蘭	〃	〃	〃	3版3色	〃
66	アクロポリス展望	〃	〃	〃	3版3色	〃
67	連絡船	〃	〃	〃	5版5色	〃
68	ひなげし	〃	〃	〃	6版6色	〃
69	オリーブ畑	〃	〃	〃	5版5色	〃
70	エドラの風車	〃	〃	〃	6版6色	〃
71	サラミス沖の太陽	〃	〃	〃	4版4色	〃
72	クレタの家	〃	〃	〃	6版6色	〃
73	ロードスの修道院	〃	〃	〃	6版6色	〃
74	クレタの風車	〃	1973	〃	5版5色	〃
75	エドラの鐘	〃	〃	〃	4版4色	〃
76	スパルタ道祠	〃	〃	〃	5版5色	〃
77	マラトンのオリーブ	〃	〃	〃	4版4色	〃
78	貝殻	〃	〃	〃	木版8版8色	グワッシュ・生漉奉書
79	モーレア島	〃	〃	〃	3版3色	〃
80	旅の宿から	〃	〃	〃	6版6色	〃
81	休むカヌー	〃	〃	〃	3版3色	〃
82	日中の道	〃	〃	〃	3版5色	〃
83	フラダンス	〃	〃	〃	3版3色	〃
84	教会	〃	〃	〃	4版4色	〃
85	広場にて	〃	〃	〃	6版6色	〃
86	オレンジのある庭	〃	1974	〃	5版5色	〃
87	鳩のいる中庭	〃	〃	〃	3版3色	〃
88	海岸にて	〃	〃	〃	5版5色	〃
89	オリーブ	〃	〃	〃	4版4色	〃
90	海辺にて	〃	〃	〃	3版3色	〃
91	ルノアールの庭	〃	〃	〃	3版3色	〃
92	ニース	〃	〃	〃	7版7色	〃
93	サンポーロ	〃	〃	〃	4版4色	〃
94	みもぞ	〃	〃	〃	3版3色	〃

資料

1	石版画『雪・窓』の原版	1969	ジンク版
2	石版画『雪』の原版	〃	〃
3	石版画『避難民』の原版	〃	〃
4	石版画『久原山』の原版	〃	〃

8. 現代の陶芸

1988(昭和63)年12月13日～1989(平成元)年3月5日

出品作品

番号	作品	作者	制作年	素材
1	無題	佐々木 成	1987	陶
2	無題	〃	1987	〃
3	無題	〃	1987	〃
4	K O K 85 T - 1	井上雅之	1985	陶・磁
5	K O K 85 E - 2	〃	1985	〃
6	H E K 85 S - 2	〃	1985	〃
7	垂直から水平 - 2	土門邦勝	1986～87	陶
8	プレート	P. ボーコス	1982	〃
9	スタック	〃	1982	〃
10	体癖	井沢乙也		〃
11	モナリザ	佐藤 敏	1976	土(黒陶)
12	陶酔記	〃	1984	木・土・スクラップ
13	世紀末の風景 1～3	中村康平	1985	土
14	伝道の書Ⅱ -白熱の中の崩壊-	西村陽平	1975	土・ヤカン・王冠・カン
15	カップを破壊する石	〃	1982	カップ・石
16	独逸浪漫主義 -アッシジに寄せて-	〃	1982	土・亜鉛板・木
17	独逸浪漫主義 2	〃	1982	アルミ・鉄・亜鉛板ほか
18	燃えない木	〃	1984	木・土・土(黒陶)
19	砂の聖書	荒木高子	1980	陶
20	起土 - 魚形の仮説 -	伊藤公象	1982	〃
21	証言	鯉江良二	1973	〃
22	スパーク・スパーク・アーム	〃	1982	〃
23	赤ちゃんの帽子	里中英人	1973	〃
24	Appearance・Substance	星野 暁	1982	〃
25	表層深層	〃	1982	〃
26	コピー '82	三島喜美代	1982	〃
27	女	三輪龍作	1976	〃
28	花Ⅰ	〃	1977	〃
29	予感	〃	1977	〃
30	流沙の人	〃	1979	〃
31	L O V E (ハイヒール)	〃	1980	〃
32	花器	〃	1982	〃

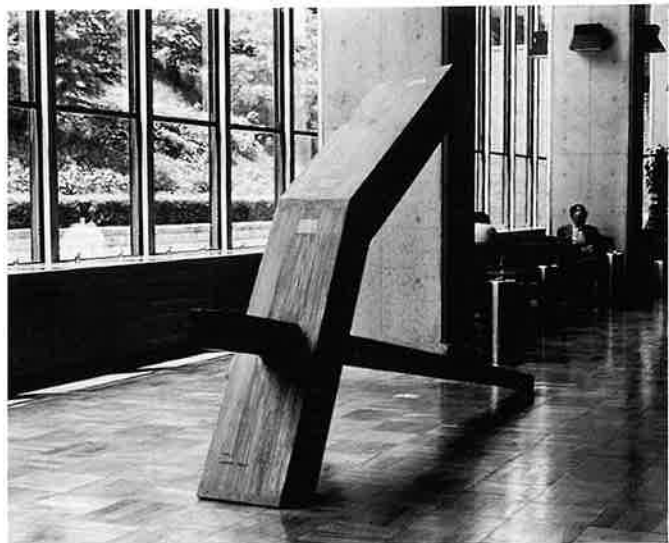
9. 植木茂と現代彫刻

1989(平成元)年3月7日～7月23日

出品作品

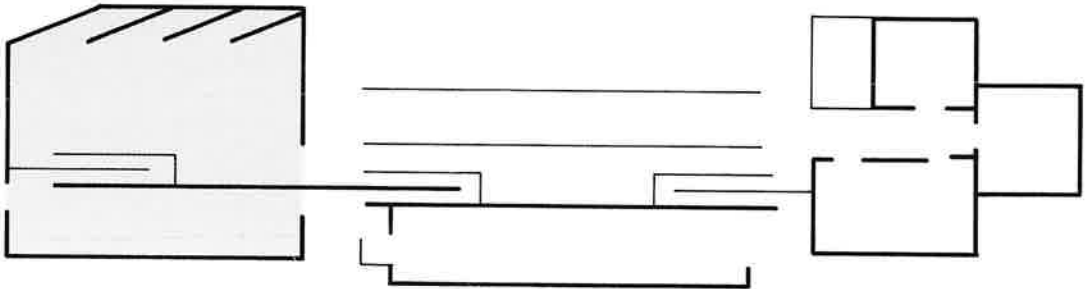
番号	作品	作者	制作年	素材
1	トルソ	植木 茂		木
2	トルソ	〃		〃
3	トルソ	〃		〃
4	鳥	〃		木(ケヤキ)
5	トルソ	〃		〃
6	トルソ	〃		〃
7	トルソ	〃		〃
8	トルソ	〃		〃
9	トルソ	〃	1947	木(タモ)
10	トルソ	〃	1940年代	木
11	ボッカ	〃	1943	木(チーク)
12	トルソ	〃	1947	木(シオジ)
13	体	〃	1978	木(チーク)
14	トルソ	〃	1947	木(ケヤキ)
15	トルソ	〃	1947	〃
16	トルソ	〃	1979より前	〃
17	仏陀	〃	1947	木(シオジ)
18	体	〃	1978	木(ケヤキ)
19	トルソ	〃		木
20	トルソ	〃		〃
21	トルソ	〃		木(シオジ)
22	トルソ	〃	1952	〃
23	兎小屋の住人	〃	1979より前	木(ケヤキ)
24	トルソ	〃	1981	〃
25	トルソ	〃	1983	〃
26	トルソ	〃	1980	〃
27	トルソ	〃	1981	〃
28	連	〃	1971	〃
29	トルソ 3	〃	1980	〃
30	体	〃	1976	〃
31	トルソ	〃	1979より前	〃
32	トルソ	〃	1981	〃
33	トルソ	〃		木(シオジ)
34	トルソ	〃	1979より前	木(ケヤキ)
35	作品	〃		鉄
36	作品	〃	1970年代	〃
37	作品	〃	1968	ブロンズ
38	漂流 '58	豊福知徳	1958	木
39	ドッキング No.15	田中米吉	1974	プラスチック・グラスファイバー ・アクリルラッカー
40	マスク	澄川喜一	1979	木(ケヤキ)
41	そりのあるかたち 9-27	〃	1979	〃
42	そりとそぎ	〃	1980	〃
43	そりのあるかたち	〃	1980	〃
44	おうぎ	〃	1981	〃
〈併設展-館蔵の具象彫刻〉				
45	ゆあみ	新海竹太郎	1907	ブロンズ
46	虚無	戸張弧雁	1920	〃

47	立像C	河内山賢祐	1952	ク
48	無題(裸婦産像)	ク	1953	ク
49	無題(裸婦抽象)	ク	1962	ク
50	裸女立像	中野四郎	1932	木
51	踊り子	ク	1953	ブロンズ
52	ふるさと	長嶺武四郎	1973	ブロンズ
53	碧空	中村青田	1971	木
54	歩む	伊藤 鈞	1962	F R P
55	カリアチュード	ク	1963	ブロンズ
56	自転車で一A	ク	1963	F R P
57	フルートを吹く少女	ク	1970	ブロンズ



(3)共催展など

いわゆる共催展は、新聞社などの企画による巡回展が主なものである。原則として年2回程度開催する。展示場は、企画展示室ⅠおよびⅡを使用する。



※ 凡例 共催展記録は、名称・趣旨・展観
カタログの順で編集されている。

川原慶賀展

——江戸の日本を伝えるシーボルトの絵師——

1987（昭和62）年3月28日～5月10日

月曜日休館

主催 TYSテレビ山口・西武美術館・日本経済新聞社・シーボルトカウンスル・山口県立美術館

後援 外務省・文化庁・オランダ大使館・オランダ国立ライデン民族学博物館

山口県・山口県教育委員会・山口市

会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ

趣旨

川原慶賀は、長崎出身の画家で、江戸時代後期、ヨーロッパ通商の窓口であった出島に、出入りを許されていた日本人画家で、当時のオランダ商館長であったJ.C.ブロンホフやJ.F.ファン・オフフェメール・フィッセルらの求めに応じて西洋技法を取り入れつつ、日本の行事・風俗・地誌から動物・植物・鉱物・道具・器具まで、日本におけるあらゆる分野を克明に描写した作品を残した。

当時の出島の歴代オランダ商館長は、誰れも熱心に日本研究を行い、その収集した資料の数は、膨大なものとなった。しかし、それらの資料は彼らの帰国の際に、ほとんどがオランダへ持ち帰られ、現在ライデン国立民族学博物館の「日本部門」所蔵品の基礎となった。とくに、先に述べたブロンホフ、フィッセルとともにF.V.シーボルトのコレクションは重要なものである。

シーボルトは、オランダ商館付医官としてかねて日本の自然および人文科学上の研究を命ぜられ1823年長崎へきた。彼は、日本人へ西洋医学および一般科学を教授すると同時に、日本の歴史、地理、民族など各方面の資料を集め、体系的に日本の科学研究を行った。川原慶賀は、フィッセルやブロンホフ同様、シーボルトにも従事し、専任の絵師として数多く絵を描いた。シーボルトは、1826年商館長ストゥルレルの江戸参府に随行しているが、その際、川原慶賀も従い道中の風物を描いている。慶賀はシーボルトが日本研究のために役に立つと考えたあらゆることを、要望に応じて描いた。多くのそうした絵が、同種の古いオランダの紙に描かれ、のちにシーボルトの著作「ニッポン Nippon」の挿絵原画となった。

川原慶賀は、1786（天明6）年に生まれ、没年は1860年代の後半と推測されるが、経歴等は不明なところが多く、作品もほとんどが海外に渡り、日本国内ではほとんど知られていない。しかし、印象派が浮世絵に注目するはるか以前に西洋に日本を紹介し、日本学に多大な貢献をした点は大きく評価される。

オランダのライデン国立民族学博物館では、所蔵する慶賀作品の整理・研究が進歩し、シーボルト・コレクションに比定される作品が大量に発見された。

この新発見のシーボルト・コレクションを中心とする川原慶賀展は、知られざる画家慶賀の本格的な紹介であるとともに、江戸美術史上はもとより、文化史・科学史・博物史上極めて貴重な資料として各界の注目を集めた。

カタログ

内容

あいさつ 主催者

メッセージ H.C.ポスチュマス・メイヤス（駐日オランダ大使）

ライデン国立民族学博物館「日本部門」の歴史



W.R.ファン・ダーリック（ライデン国立民族学博物館長）

川原慶賀・人と作品 兼重 護（長崎大学教授）

カラー図版

川原慶賀—オランダ商館をめぐる絵面— マティ・フォラー（ライデン国立民族学博物館学芸員）

記録絵師としての慶賀 ケン・フォス（ライデン国立民族博物館学芸員）

主要作品解説 佐々木利和（東京国立博物館資料部）

出品目録

参考年表

古代エジプト展

1987（昭和62）年6月27日～7月2日

主催 古代エジプト展実行委員会・TYSテレビ山口・毎日新聞社・山口県立美術館

後援 オランダ福利厚生文化省・外務省・文化庁・オランダ大使館・山口県

会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ

趣 旨

古代エジプト人は死を否定し、永遠の生命を信じていた。死後一時肉体を離れた魂が再び戻ってこれるためには、どうしても肉体を保存しておかなければならなかった。ミイラをつくる技術が古代エジプトで発達していたのも、彼らの信仰と深く関係していたのである。そして永遠の生命を地上において守護する場所が墓であり、したがって副葬品は、彼岸での永遠の理想的な生活を送れるための必要不可欠なものと考えられていた。彼岸においても主人に仕えるべく副えられた従者の像。豊富な種類の飲食物を彫り込んだ石板。死者が理想的な永遠の生命を生きるためにはまた、これらの副葬品も理想的なかたちで作られる必要があったのである。だから私たちはその実に見事な出来栄えに感嘆の声をあげ、見惚れることもしばしばあることだろう。

ところが、いかに写實的に描かれた肖像であっても、本来それは墓の内部で死者をひっそりと見守る以外にいかなる機能をも負わされていなかった。いかに精巧に、そして豪華に仕上げられた棺も、再び蘇る永遠の生命のために死者の肉体を守るもの以外のなにもでもなかった。それらは決して人々の目にふれることのない永遠の闇の中で、自らを隠しつづけ、自らの運命を生きるはずのものであった。つまり、これらのものは、今日私たちが「絵画」や「工芸」といったことばで理解していること以外の、なにか本来の生命をもって存在していたのである。芸術家の個性的な内面の表現とそれに対する追体験、あるいは生活に精神的な豊かさを与えるための装飾的役割。そして公的な場所での万人のための公開。——こうした考え方で理解されているものと古代エジプトの副葬品との間には、ふたつとも同じ「美術作品」と簡単に呼ばれているにせよ、なんと大きな隔りがあることだろう。

オランダ国立ライデン古代博物館所蔵の遺品で構成されたこの展覧会は、ともすれば古代文化の「宝物」展に傾きがちなこうした種類の展覧会とは異なり、『死者の書』など当時の人々の宗教観をうかがうことのできる第一級の資料を多数展示して、古代エジプト人の世界観を包括的に見せてくれている。今回の展覧会は、古代エジプト文化そのものを知るうえできわめて貴重な機会だった

と同時に、逆に現代の私たちの「美術」についての考え方を照らし返すような興味深い展覧会だった。

カタログ

あいさつ

概説 H.D.シュナイダー（オランダ国立ライデン古代博物館長）

図版ならびにカタログ H.D.シュナイダー（オランダ国立ライデン古代博物館長）

『エジプトとヌビア』（抄録）デイヴッド・ロバーツ

古代エジプト史年表

古代エジプトの神々

出品一覧



マチス展

1987（昭和62）年11月20日～12月27日

主催 マチス展実行委員会・K R Y山口放送・読売新聞西部本社・山口県立美術館

後援 フランス大使館・外務省・文化庁・山口県・山口県教育委員会・福岡県教育委員会

会場 企画室I・II

趣旨

今世紀最大の巨匠と並び称されるピカソとマチスは、しばしば図式的に対比されて語られてきた。例えば、ピカソは痛烈な皮肉家であり、同時代の精神的・文化的論争の中心に位置していた画家とみなされる一方で、マチスは永遠のオプティミストであり、同時代的な文化論争から離れて制作に打ち込んだ芸術家と考えられている。また、ピカソの作品は何とも知れない困惑の気持ちを起こさせるが、マチスの作品はそういった気持ちを起こさせない。むしろ魅力的で何の気掛かりもない穏やかなものと受け取られている。こういった一般的なマチス像は、マチス自身の有名な言葉に由来していると考えられる。その言葉は以下のようなものである。「私が夢見るのは心配な気がかりの種のない、均衡と純粋さと静穏の芸術であり、すべての頭脳労働者、たとえば文筆業者にとっても、ビジネスマンにとっても鎮静剤、精神安定剤、つまり、肉体の疲れをいやすよい肘掛け椅子に匹敵する何かであるような芸術である」（「画家のノート」みすず書房）。この言葉を聞く限り、確かに彼の絵は万人向きの、上品な絵ということになるだろう。しかしこれとは全く逆の意味も存在する。フラムによれば、マチスの作品にはとてつもない厳しさと緊張があって、彼の言葉から受け取れるような楽観的なものを見ることは困難であるという。むしろ、「慢性の不眠病患者の悩み」みたいなものを感じるとさえ言っている。マチスの作品は決して容易な絵画ではなく、理解することが難しいとフラムが主張する理由としてまず、彼は言語によってマチスの作品の核に達することができないということを挙げている。つまりピカソの「青の時代」の作品が人生に対する象徴や寓意を含んでいるのに対して、同時期のマチスの作品はこうした文学的な内容を持たず、明確な解釈ができないと述べている。というのも、マチスの絵画は色彩とフォルムの中でのみ完結するという、あの印象派以降の近代絵画が実践してきた美術の自律化に方向づけられているからである。もうひとつ

の理由としてフラムは、マチスが同じモチーフを全く異なるスタイルで描き続けたことを挙げて
いる。こうしたマチスの視覚の多様性は、現実を見る唯一の正しい方法など存在しないという現代
人の意識と直接に関係しているものだとも言うフラムの解釈をふまえてさらに言えば、理想的な視
点を想定する遠近法的な視覚が崩壊してゆく近代絵画の流れにマチスの芸術は一致していたといえ
るだろう。したがって、マチス芸術がフラムの言うように緊張と理解の困難さを含んでいるとすれ
ば、それはまさに近代芸術そのものがはらむ葛藤の歴史でもあったのである。

今回の展覧会では、西洋絵画の大きな転換点に位置していたマチスの作品を通史的に見ることが
できた。彼のたどった紆余曲折の道程を通じて私たちが感じたことは、やはりマチスが追及してや
まなかったものは、万人が腰を掛けることのできるあの「肘掛け椅子」のような芸術ではなかった
かと思うのである。

カタログ

内容

あいさつ

メッセージ

アンリ・マチスの美術館 グザヴィエ・ジラルド

完全なる画家アンリ・マチス ニコラス・ワトキンス

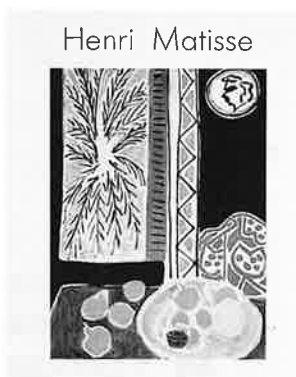
日本のなかのマチス、そして／あるいは、マチスのなかの日本 島田紀夫

図版

カタログ

年譜

参考文献抄



20世紀美術 偉大な先駆者たち展

1988（昭和63）年3月9日～4月3日

主催 毎日新聞社・テレビ山口・山口県立美術館

後援 山口県・山口県教育委員会・山口市・山口市教育委員会・NHK山口放送局・西日本旅客鉄道広島支社・九州旅客鉄道会社

会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ

要旨

今世紀の初頭から画商たち、例えばアンブロワーズ・ヴォラールなどによる版画の出版があいついだ。彼らは自分たちが支持する画家たちの作品を世間に知らせるために、画集などを発行したわけだが、同時に美術の普及という名目で、一点しか制作されない高価な油絵とは違って比較的安価な版画を制作・発行したのである。ギリシア出身のパリで活躍した大出版者エフストラティオス・エレフテリアード（テリアードの本名、1897-1983）も、今世紀最大と称される美術書ならびに版画の出版者であった。彼はまた、親交を持った巨匠たちの作品のコレクターでもあった。テリアードは有名な美術雑誌「ヴェルヴ」ばかりでなく、27巻にも及ぶ豪華本を作り上げたが、それらは「画家の本」と呼ばれている。これらの本は、サイズ・飾り罫・飾り文字・カット・字体など、お

よそ本作りのすべてにわたる部分を画家自身が決定して作られたといわれるが、実際の作者たちは、例えば、ルオー、マチス、ピカソ、シャガール、ミロなど現在の私たちになじみの深い画家たちばかりである。今回の展覧会ではテリアード自身のコレクションだった油彩画なども出品されているが、最大のみどころは、やはり彼が出版した『画家の本』だったといえるだろう。20巻分にもおよぶ出品作品は以下のとおりである。マチスの「ポルトガルの修道女の手紙」、「ジャズ」、「詩」、ローランスの「ルーキオスあるいははろば」、「牧歌」、「対話」、ピカソの「死者の書」、レジェの「サーカス」と「都会」、グリスの「天井の太陽」、シャガールの「聖書」、「ダフニスとクロエ」、「サーカス」、ボナールの「書簡集」、ボーダンの「シルヴィー」、ジャコメッティの「終わりなきバリ」、ル・コルビュジェの「直角の詩」、ミロの「ユピュ王」、「バレアレス諸島のユピュ王」、「ユピュ王の子供時代」。これらのリトグラフの作品に加えて、さらにルオーの「気晴し」のためのグワッシュで描かれた原画も展示された。

今回の展覧会は、1973年以降バリ、ロンドン、ドイツ、イタリア、ハンガリー、ポルトガル、アメリカなどで開催された一連の展覧会に続くものである。彫刻や油彩画あるいは建築などによって紹介されることの多かった芸術家たちを、版画というジャンルを中心に、しかもテリアードという個性をとおして見たこの展覧会は、通常の近代美術史には登場しない美術商の存在にも私たちの目をむけさせたユニークな展覧会だったといえるだろう。

カタログ

日本展カタログ ミシェル・アントニオーズ

『画家の本』の作家たち—そのプロフィール— 中村真一郎

『画家の本』の原文翻訳抄

テリアードの時代 瀬木慎一

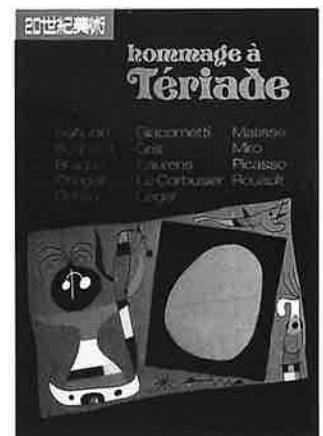
テリアード賛歌 吉井長三

テリアードの芸術観 (『カイエ・ダール』『アントランジシャン』よりの抜萃)

作家の生没年 (グラフ年表)

テリアード略年譜

作品リスト



ルネ・マグリット展

——視覚のミステリー——

1988年(昭和63)年4月8日～5月15日

主催 東京国立近代美術館・ベルギー国フランス語圏省・TYSテレビ山口・毎日新聞社・山口県立美術館

後援 外務省・ベルギー大使館・山口県・山口、福岡両県教育委員会・九州旅客鉄道会社・西日本旅客鉄道

会社・中国放送・RKB毎日放送

会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ 常設展示室Ⅱ

趣旨

ルネ・マグリット(1898—1967)は、シュルレアリスムの代表的な画家として、すでに日本でも広く知られている。今回の展覧会は、1987年、没後20周年を記念してローザンヌとミュンヘンで開催された展覧会を基礎にして構成されたものである。日本で彼の大規模な個展が開かれるのは、

1971年に東京と京都で開かれて以来のことである。

マグリットは、18歳（1916年）の時ブリュッセルの美術学校に入学する。習作時代の彼は、新印象主義、未来派、キュビズムなど当時主張され始めた新しい芸術運動を積極的に吸収しようとしている。その後、友人に見せてもらったジョルジョ・デ・キリコの絵が契機となり、1925年から26年にかけて絵画上の転換期が訪れる。以後、本格的なシュルレアリスム絵画の時期を形成していく。27年から3年間パリに移り住むが、そこで知りあった人々の中には、アンドレ・ブルトン、ポール・エリュアール、ホアン・ミロ、ハンス・アルプ、サルヴァドール・ダリなどがいた。マグリットがパリに住んだ頃は、シュルレアリスムの運動が最も盛り上がった時期でもあった。この頃の彼の作品は、言葉を絵の中に描き込むことで、言葉とイメージとの非日常的関係を視覚化したもの、あるいは、事物のデペイズマン（置き換え）によって非現実的空間を現出させたものが多い。その後、彼の語るところによれば、1936年に再び絵画上の大転換期を迎える。つまり、それまでの互いに異質な事物の並置による思いがけない出会いによる効果をねらう手法から、お互いに近い関係にある事物を融合させたり、接続させたりすることによる効果を積極的にねらうものへと移行してゆくのである。さらに、ルノワールの作法を採り入れて自分の画法を変えようとした「ルノワール時代」や、失敗におわったといわれる「牝牛（ヴァーシュ）の時代」など、意識的に自分の作風を変化させようとした時期もあったが、結局、生涯を通じて彼が追い求めていたものは、自らの言葉によれば、見えるものの「神秘」としかいいようのないものであった。

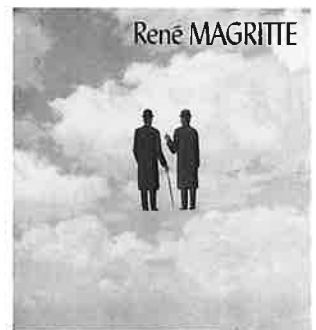
マグリットの絵には日常的なものの「見かた」が通用しない。事物の持つ本来の意味を剝奪し、そこに非現実的な空間を現出させようとして、かえって事物をリアルに描く。一見オーソドックスな技法を駆使した写実的な作品のように見えながら、実はどこにも存在しない不思議な光景を描く。こういった逆説めいたところにマグリットの芸術の本当の意味がひそんでいるといえるだろう。

作品のほか数多くの資料による補足的説明によってマグリットの全貌を浮き彫りにしたこの展覧会は、また、その作品の質の高さによって、彼の芸術の真髄にも触れることを可能にしたまたとない機会となった。

カタログ

内容

- あいさつ 謝辞
- 序論 高橋幸次
- 生きているマグリット カミーユ・ゲーマンズ
- マグリットの死 マルセル・マリエン
- マグリットの足跡 マルセル・マリエン
- 予言者マグリット E.L.T.メザンス
- カタログ
- I. 探求時代
- II. イメージの誕生
- III. 言葉とイメージ
- IV. マグリットの鍵
- V. ルノワール時代
- VI. 牝牛（ヴァーシュ）の時代
- VII. 見えるものの神秘
- VIII. 資料
- 年譜 マルティーンヌ・ジャケ
- 主要文献



ハイテクアート展

1988（昭和63）年6月3日～6月26日

月曜日休館

主催 TYSテレビ山口・毎日新聞社・山口県立美術館

後援 山口市・山口市教育委員会・山口県・山口県教育委員会

協力 グループ・アールジュニ

会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ

趣旨

ハイテクノロジー即ち、先端科学技術の進歩は、私たちの生活環境だけでなく、芸術の分野にも大きな影響を与えてきた。とくにエレクトロニクス・テクノロジーの発展は目をみはるものがあり、芸術の分野でもコンピューター・アート、ホログラフィ・アート、ビデオ・アートなど新しい芸術の発生の原動力となってきた。

こうした現代の申し子ともいえるハイテクノロジー・アートは、ハイテク社会と呼ばれる現代において、その社会的背景ゆえに、いまや単に美術作品としてだけでなく空間・環境デザインのなかでも私たちの生活に深い影響をあたえはじめています。

今回ですでに5回目をむかえるハイテクノロジー・アート展は、併催される公募展も4回目を数え、招待作家・入選作家の作品の質はさらに向上してきた。新しい技術を採用したもの、ハイテク・メディア盲信への批判をこめた作品と、極めて今日的な作品も数多く出品され、私たちのおかれる現代というものを考えるよい機会となっている。

今回は、展覧会企画の主要な部分を占めた作家集団であるグループ・アールジュニによる新しい提案である、観覧者の作品への参加というコンセプトをとり入れたシミュレーション装置エレクトロ・ルナパークが会場の中心を占めた。全体がハイテク・アートによるイベント空間的な性格をもたされ、入場者にとっては親しみやすく、わかりやすいハイテク・アートへの招待といった趣きとなっている。

ハイテクノロジーの産物である光・音・動きといったものと造形を複合させて制作されているカラフルで、楽しい作品群は、観客参加型という新しい展示構成とあいまって、他の芸術分野にない独自の感覚と、現代あるいは未来といったものへの認識を与えてくれる。

このハイテク・アートと呼ばれる芸術分野の歴史は新しいが、技術の進歩、それにとまなう社会の変化を敏感に反映する分野であると考えられ、意義深いものといえる。今後この分野への関心はさらに高まっていくであろうと思われる。

カタログ

「ハイテクノロジー・アート展〈エレクトロファンタジー〉」

中日新聞・東京新聞・グループ・アールジュニ

内容

開催にあたって グループ・アールジュニ 代表 山口勝弘（筑波大学教授）

ELECTRO-FANTASY-LUNAR-PARK 伊藤隆道・田崎和隆

カラー図版・作家略歴・メッセージ

映像未来形 岩井俊雄

光と重力 水野 晃一・志村雄逸

技術からアートへ 瀧田 哲治

光のらせん界を求めて 田中敬一

ハイテクノロジー・アート公募展入選作家



豊饒なるインド美術展

1988（昭和63）年10月15日～11月20日 月曜日休館

主催 K R Y山口放送・読売新聞社・美術館連絡協議会・インド祭事務局（インド政府・ニューデリー）・山口県立美術館

後援 外務省・インド大使館・山口県・山口県教育委員会・福岡県教育委員会

協賛 花王株式会社

会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ

趣 旨

この「豊饒なるインド美術展」は、日本開催の10年前にインドで開催された展覧会をもとに構成された。その10年の間にも、アニマルシンボリズム（動物象徴主義）に対する理解が深められ、その成果も含めて今回の展覧会は企画されている。

インド文学の古典である「ヴェーダ」、「プラーナ」や仏教教典のなかに多く収められる動物に関わりをもつ寓話などに主題をとった美術作品は、インド美術の中心をなすといつてよいほど多数が制作されてきた。本展の出品作品の大半を所蔵し、本展の企画立案にたずさわったプリンス・オブ・ウェールズ博物館では、こうした動物表現の変遷をとおして、動物に関わる思想、ひいてはインドの宗教思想（ヒンドゥー、ジャイナなど）が変化していくさまを解釈していこうとする視点から、作品選定・構成をおこなっている。

全体の構成は、主題と象徴されるものによって6つのテーマに分けておこなわれている。

1. 動物としての動物。
2. 乗り物としての動物。
3. 観念としての動物。
4. 象徴としての動物。
5. 装飾としての動物。
6. 寓話のなかの動物。

これら6つのテーマのもとに、絵画・彫刻・工芸とさまざまな分野の美術品が出品され、インドの人々の動物への関心のあり方を具体的遺品をとおして理解できるように配慮した点は、本展の文化史・思想史的視点による構成ならではのものである。

インド美術の遺品は、ヒンドゥー教やジャイナ教、仏教などと深く関わっているため、一般に神秘性、精神性はかりが過大に意識され、極めて難解なものと考えられてきた。しかし、本展のような、動物表現をとおして思想の変遷も含めて見ていこうとする企画は、インド美術をより身近なも

のとして認識するよい機会であったと考えられる。

さらに、出品作品はいずれも質が高く、しかも日本初公開のものが多く、この展覧会の意義をさらに深いものになっている。

本展は、1988年インド祭の一環として開催された。

カタログ

監修・編集 秋山光文

内容

謝辞

ごあいさつ

序文 サダシヴ・ゴラクシュカール (プリンス・オブ・ウェールズ博物館長)

インド美術における動物表現によせて——主題と象徴 サダシヴ・ゴラクシュカール

インド美術の流れ——動物表現を中心に 秋山光文 (お茶の水女子大学助教授)

インド装飾美術における鳥獣表現 M・L・ニガム (ハイデラバード、サラール・ジャング博物館長)

カラー図版

作品解説 プリンズ・オブ・ウェールズ博物館

年表 インドの美術と歴史

インド美術史要図

参考文献



ジョン・シンガー・サージェント展

——肖像と風景、美と光のエレガンス——

1989 (平成元) 年3月2日~4月2日 月曜日休館

主催 山口県立美術館・KRY山口放送・読売新聞社・美術館連絡協議会

後援 外務省・文化庁・アメリカ大使館・ブリティッシュ・カウンシル・山口県・山口県教育委員会

福岡県教育委員会

会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ

趣 旨

サージェントはアメリカ人を両親にして1856年にフィレンツェに生まれた。父は医師、母親はフィアデルフィアの資産家の娘だった。息子を芸術家に育てることを夢みた母親の希望をになって彼は上質の知性と感性をもつ育ちのいいコスモポリタンに成長する。

サージェントがパリに出、今をときめく流行の肖像画家カロリュス・デュランのもとで本格的な絵の研究をはじめたのは1874年、19歳のときだった。結果的には彼は師と同様に肖像画家としての道をえらぶ。1878年にサロン・デヴュー。このころが肖像画家としての本格的出発点になった。

デヴューいらいサージェントは一連の大胆さを加味した出品作をとおしてパリ美術界での地位をたかめていった。社交界に出入りする女性たちの肖像画には、手がたい官学派的写実のうえに上流階級好みの洗練されたファッション感覚とエレガンスが加わる。彼は新聞や会場で話題の人となっ

ていく。その一方、フランス・アヴァンギャルド絵画のあらゆる展開にたいしても敏感な反応をしめた。特に1876年のモネとの出会いとそれにつづく生涯の親交によるものか、印象派的手法は終生さまざまな形で彼の画面に影響をおよぼしている。彼をアメリカ印象派の系譜に位置づけようとする試みがなされる所以である。

1885年彼はロンドンに転居する。サロンに出品した野心作『マダム・X』が思わぬスキャンダルをまきおこしたのも一因だった。ロンドンではホイッスラーの家を引き継ぎ、肖像制作の注文をあつめる一方、素朴な風景画の制作に着手する。1885年の夏から数年田舎のウスターシアに滞在したのが風景画を描くきっかけになったようだ。とくにこの時期の即興的な風景画の習作にはモネ風の大胆なタッチが目立つ。肖像画ではパリ時代の官学派的手法をベースにおきながらも、たとえば筆跡を多少のこす処理、世俗性の加味、形式ばらないポーズ、スナップショット風の場面設定など印象派的な要素がよりつよく反映してくるのもこの時代の特徴である。

肖像画家としての評価を確立したとされる1890年、彼は友人の紹介でボストン市民図書館の壁面装飾の仕事に委嘱される。この大プロジェクトに彼は以後30余年間をかけて没頭する。一方、1900年ごろになると肖像画の数がへってくる。描いた肖像画がほぼ400点に達した1907年ごろには彼は世俗的肖像画の制作放棄を宣言するまでになった。その反動によるものかその後70歳でロンドンで没する1925年までの25年間は驚くほど精力的な量の風景画や風俗画を制作した。この時期の風景画は画家として精力を傾注したボストンでの仕事とは好対照だが、ウィンスロー・ホーマーに比すべき評価がなされている。

サージェントの本格的な画業紹介は我が国では今回がはじめてで、油彩画はじめ水彩、素描あわせて80余点が出品された。

カタログ

内容

あいさつ

ジョン・シンガー・サージェント：アメリカのコスモポリタン デニス・サットン

サージェント：印象主義と審美主義の間（はざま）で 千足伸行

図版（カタログ）

ジョン・シンガー・サージェントと岡倉天心—1908年春ロンドンの幻し 岡部昌幸

J.S.サージェント R.M.A. スティーヴンソン

ニュー・ギャラリーの一枚の肖像画 ジョージ・ムーア

ボストン公立図書館の壁画 アーネスト・F・フェノロサ

サージェント年譜

文献



事業

Ⅱ. 普及活動

(1) 山口県美術展覧会

第41回山口県美術展覧会

会期 1987(昭和62)年9月9日～25日

会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ、常設展示室Ⅱ

○運営委員

美術作家

田口克己 川口政宏

大和保男 広実泉城

下瀬信雄 富永恒光

学識経験者

杉本春生 山本二郎

斉藤武男 奥津 聖

県教育委員会

工藤公照

○審査員

乾 由明 今井凌雪 田中米吉 中原佑介

服部碩夫 本間正義 山内 観 山岸享子

○平面部門受賞者

〈最優秀賞〉

二人 小田善郎

〈優秀賞〉

寒日 河本武士 黄庭堅詩 上鶴啓博

Dannoura' 87 綿谷清志 釜山漁港のおんな 兵頭治雄

HORIZON-September 足立勝身

〈奨励賞〉

遠い春 森永葦彦 古の人に 横田敬子

1987 夏まつり 井岡義朋 露店の少年 永富賢治

イラスト(デラシネ) 泉 将志

〈佳作賞〉

百鬼幻想 近藤弘一 海の族 藤井宗男

追想 古村裕子 元好問詩 岡田和子

曼珠沙華 三上研治 いづくにか 貴船幸枝

四ツ辻にて 白濁千恵子 月夜 村重幸子

よろこんでいる 浜田純人 蜀道夫人詩 大島房子

春愁 石丸康生 唐箕を回す人 福田博文

ブロック(5) 勝丸実紀枝 明けゆく日本丸 津森吉孝

ブラック・ミュージック ヒロシ・シライワ 猫 堀田俊秀

A-A' No. 6 吉松順一郎 終焉 中村利和

空間的形態Ⅱ	岡田博幸	光景	上寺政義
鬼	河村純一郎	どしゃ降り	吉村久司
絵本「ブリキのオートバイ」弘中順一 No. 3		秋の色	水野祐策
寒山詩	明石坤生	越える	藤津八重子

○立体部門受賞者

〈最優秀賞〉

MADE IN JAPAN 磯部 司

〈優秀賞〉

Gravitation XIV 大井秀規 萩深鉢 大和信昭

〈奨励賞〉

A WINDY PALACE 浜野邦昭 天空の座人 永見文人
OF APHROS
(アフロスの虚ろな宮殿)

〈佳作賞〉

talk to talk シリーズ 森野清和 粉華金彩陶管 加藤重美
懲りない面々 作品36 鈴木由紀子

窯変円文壺 田原謙次

六面花器 近藤 守

○実績

部 門	分 野	出品点数	入選点数	展示合計	展示率%
平 面	日 本 画	57	7	12	21
	工 芸	16	3	4	25
	デザイン	27	2	5	19
	洋 画	273	39	50	18
	写 真	237	35	44	19
	書	139	21	29	21
	(計)	749	107	144	19
立 体	彫 刻	18	2	6	33
	工 芸	132	28	34	27
	デザイン	0	0	0	
	(計)	150	30	40	27
総 計		899 (887)	137 (140)	184 (182)	20% (21%)

()内は61年度

第42回山口県美術展覧会

会期 1988(昭和63)年9月8日～25日

会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ、常設展示室Ⅱ

○運営委員

美術作家

田口克己 川口政宏

大和保男 広実泉城

下瀬信雄 冨永恒光

学識経験者

杉本春生 山本二郎

斉藤武男 奥津 聖

県教育委員会

工藤公照

○審査員

飯沢耕太郎 今井凌雪 中村敬治 服部碩夫

福永重樹 本間正義 峯村敏明 山内 観

○平面部門受賞者

〈最優秀賞〉

捨てる 河本武士 むらさきは 小島 清

〈優秀賞〉

工場'88 (寂) 三上研治 時点 (時の流れの上の一点) 栗林和彦

エリアーデの百合 長瀬篤孝 裴迪詩 竹重秀治

イラストレーション DESIGN 1 下尾周男

〈奨励賞〉

Call back 田中義文 竹 兵頭治雄

点・線・面 荒瀬景敏 百人一首 (奥山に) 横田敬子

HORIZON-October 足立勝身

〈佳作賞〉

草小波 緒方一美 ジーンズ 上寺政義

火口にて (No. 5) 小田善郎 玉彩 角田 誠

くつろぎ 池岡泰子 花風 山下重子

子供Ⅰ 山本哲生 瞬間のリズム 原田由紀人

折り(2) 萩野靖夫 ブルーバンジーによる表現構成 国吉道雄

ジーンズ 吉村芳生 雪景色 福田博文

作品'88- 1 重村幹夫 波 時重文生

呼応 柳 修治 若山牧水のうた 堀山貴子

海夢 井頭弘美 歳旦朝回 若松洋子

ウオッチングアイ 河本裕幸 言葉なく 藤井幸子

of the pupil ... by the pupil...for the pupil 上野百合夫 寒山詩 奥屋恵子

海へ行った日	藤井宏昭	李燈詩	川辺勝代
竹林のファンタステー	伊藤良彦	無題	ミヨシ・イチロウ

○立体部門受賞者

〈最優秀賞〉

該当作品なし

〈優秀賞〉

talk to talk シリーズ 時空間漂流者達	森野清和	地のメッセージ	金子信彦
------------------------------	------	---------	------

〈奨励賞〉

SPARE	尾崎元信	白釉窯変花器	岡田 裕
-------	------	--------	------

〈佳作賞〉

Four first in a square	大井秀規	遙 (よう)	山下俵平
灰被陶管	新庄貞嗣	萩藁流縦壺	柴田武師
夢の壺 (浮游)	中村絵里子	罅 (ひび)	堀切香澄
萩深鉢	大和信昭		

○実 績

部 門	分 野	出品点数	入選点数	展示合計	展示率%
平 面	日 本 画	53	10	14	26
	工 芸	11	3	3	27
	デザイン	25	3	6	24
	洋 画	222	38	47	21
	写 真	255	39	51	20
	書	98	13	22	22
	そ の 他	14	1	2	14
	(計)	678	107	145	21
立 体	彫 刻	12	2	5	42
	工 芸	116	27	35	30
	デザイン	0	0	0	
	(計)	128	29	40	31
総 計		806 (899)	136 (137)	185 (184)	23% (20%)

() 内は62年度

(2) 現代美術展

山口の現代芸術Ⅳ

「今日の立体——素材・構造・イメージ——」

1987(昭和62)年5月19日～6月14日

月曜休館

主催 山口県立美術館

会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ



(1) 趣旨

今日の「彫刻」を称して立体というのは、いわゆる近代的な彫刻とは一線を画してそうした作品が制作されていることを示すものだが、英語においてはスカルプチャーは依然としてスカルプチャーのままであるように、これは日本独特の用語というべきである。それは、端的にいえば「彫」や「刻」の字義へのこだわりをなくして、それ以外の要素もまき込みながら、文字通り立体的なものを造るという意識に外ならない。いや、それぞれの作家に共通するものといえば、それしかないといきったほうが適切かも知れず、それほど今日の立体といったときの概念の曖昧さは、被うべくもないほどである。

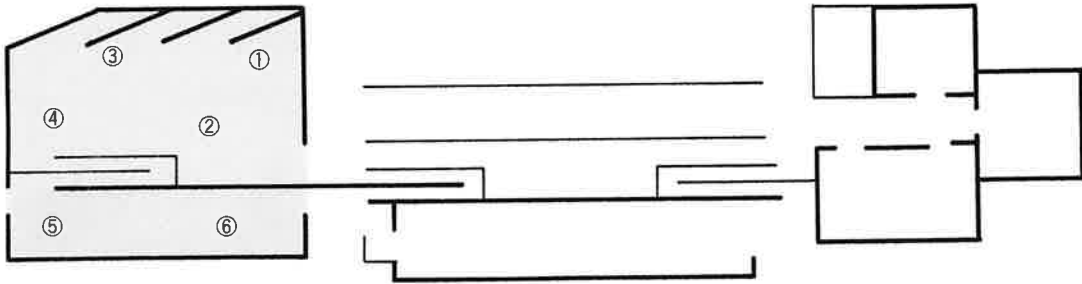
確かにある種の傾向は存在する。それは、空間を意識しながらも素材との独自の関係を見出そうとする態度であり、かつては表現しようとするなにかに対して素材は従属的な位置に甘んじていたとすれば、表現しようとするものと素材との距離がより接近してきており、そのことによっていわば私的な身振りがダイレクトに伝わりやすくなっているということである。とはいえ、かつての彫刻家たちがなにかをイメージした時、その実現にあたって、素材はなんでもよかったということではない。むしろ彼らは、日常的な習練によっていわゆるノウ・ハウには精通していたし、その体験の中から実現すべきものというものは精選されていたのであるから、作家のイデーは、素材への十分な知識と技術練磨の具体性をふまえたものというべきであった。ミケランジェロがプラスチックを知らなかったからといって、新たな素材が与えられていたらもっと別なミケランジェロに出会えたかも知れないと想像するのは自由だが、これは全く無意味であろう。なぜなら、かつての巨匠たちはその歴史的な限定（これを必然性と言い換えてもいい）のなかから立ち上がってきているのだから、その限定を無視するわけにはいかないのである。

さて、今日の作家たちには、とりあえずさまざまな素材が開かれているとしよう。したがってこの時、「彫」でも「刻」でもない取り組み方が可能になるが、このことによって、その素材とのかかわり方が作品の中で重要な要素となるという結論を得る前に、そのなかで何が見えてくるかという失われた物語について語らなければならない。

簡潔に言って、表現活動によって実現されるものは、理想的な人物像でもなければ、環境造形に転化しうるありうべき形の究極的なバランスでもないだろう。それは、大きすぎず、小さすぎず、まさにそのもののスケールにおいて現出されるある存在、実体なのではないか。これをオブジェとってしまったら、必ずしも求心的な構造を必要としない点で不十分であると同時に、歴史的な価値判断がその言葉にまわりついているという点でも相応しくないが、断片が断片のままひとつの全体であるような、そして、そのものの形や大きさ、素材感、配置などが具体的にそこにある

——見えることによって、「ある」ことや「見る」ことの意味にもかかわらざるをえないような何かであるということ、彼らの作品こそ今日最もよく示すものであろう。私的な身振りが過剰すぎるという批判は当然あるだろう。しかし、個人の私的な部分をどのように徹底するか、あるいは貫通するかという問いは、近代的自我の確立を未成熟に投げやっている今日では、なお有効だといわなければならない。

(2) 会場構成



①中西学 ②中原浩大 ③松井紫朗 ④竹田康宏 ⑤小泉俊己 ⑥橘田尚之

(3) カタログ

内容

ごあいさつ

カラー図版

作家別モノクローム図版

トランス・アート装置 篠原資明(大阪芸術大学講師)

差異のなかに 高田美規雄

出品目録

●大スキラ版60ページ ●アート110kg／4色オフセット8ページ、一色オフセット52ページ



(4) 出品目録

作者	作品	制作年	技法	寸法
橘田尚之	WORK87-1	1987	アルミニウム	100×200×230(h)
〃	WORK87-2	1987	アルミニウム	300×350×200(h)
〃	WORK87-3	1987	アルミニウム、アクリル絵具、コンテ	500×250×250(h)
〃	WORK87-4	1987	アルミニウム、アクリル絵具、コンテ	400×200×200(h)
小泉俊己	鉱泉 (MINERAL SPRING)	1986	鉄、銅、水	86×280×110(h)
〃	森(場所の記憶)	1986	鉄、大理石、水	300×400×140(h)
〃	千年	1987	鉄、木、鉛	70×70×170(h)
竹田康宏	今夜はたぶんブルームーン	1986	木	150×270×210(h)
〃	設置された形	1987	プラスチック、発泡スチロール、石膏	540×720×460(h)
中西学	ECCENTRIC SLIDER	1986	発泡スチロール、エマルジョンペイント、アクリル絵具、ウレタン樹脂塗料	400×600×210(h)
中原浩大	2つの光のミミズ	1987	大理石、毛糸	500×180×70(h)
〃	カタクリトギフチョウ	1987	木、毛糸、ガラス、ほか	540×330×230(h)

松井紫朗	UNIDENTIFIED FLYING OBJECT	1986	真鍮、アルミ、大理石	220×220×220(h)
〃	COMB	1987	大理石、アルミ	420×100×120(h)

(5) 展評など

新聞（報道記事をのぞく）

展評

地域の枠超え新しい傾向紹介 朝日新聞（西部）／（源）62・5・22(夕)

〓新人類、台頭の潮流示す 西日本新聞／5・25

イメージの固定排除 毎日新聞／（徹）5・28

造形の面白さあふれる 中国新聞／（寺本泰輔）6・8

シリーズ

「今日の立体」展①～⑥ 高田美規雄 山口日々新聞／62・5・27～6・7

ニュー・ジャパニーズ・スタイル・ペインティング

—日本画材の可能性—

1988(昭和63)年12月2日～12月25日

月曜日休館

主催 山口県立美術館

会場 企画展示室Ⅰ・Ⅱ



(1) 趣旨

現代のイメージ肥大化の傾向は、それらを作品の上に定着させる素材そのものの開放につながったといえる。作品の表情を豊かにし、そこに示されるイメージを最大限に膨らませるため、あらゆる手だてがとられるようになる。その際、「なにを使い、なにを描き形づくろうといいじゃないか」という一種の開き直りにも似た感覚で、いろいろな素材が試されるのである。

こうした状況にあって、とくに絵画において、いわゆる日本画で使用されてきた顔料（岩絵具）を、画面をつくりあげる重要な素材として積極的にとりいれようという若い作家たちがあらわれはじめている。かれらは、岩絵具自体がもつ特殊な性格を意識しながら、実に気楽に、そして周到に、自らの知性と感性とを画面の上できわだたせようとする。そのかれらが具体的に意識する岩彩の大きな特性をあげるとすれば、色彩と質感のふたつということになるだろう。

岩彩は、簡単にいえば顔料自体がむきだしになって支持体に付着しているだけで、その生の鮮やかな色彩を駆使できる。こうした岩彩の即物的で鮮明な色彩性は、作品制作の過程で豊かなイメージを画面にあふれさせ、さらにそれらを象徴化していく上に大きな効果をもつ。

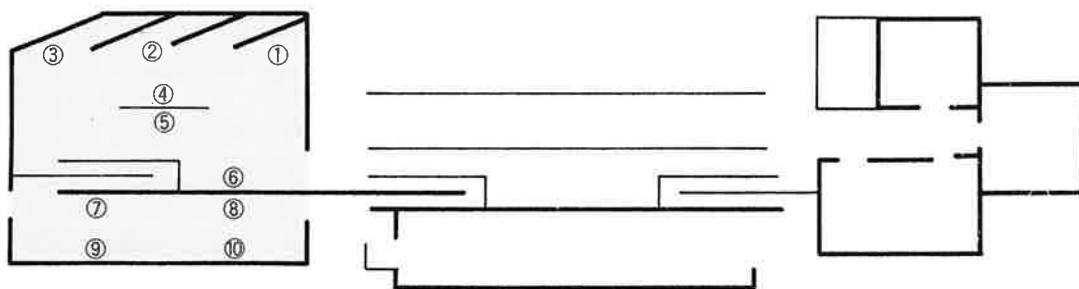
また岩彩の粗い粒子は、サラサラとした触感にも似た感覚を絵の表面に創りだすいっぽう、目の細かい岩彩は展色性がよく、絵筆の痕跡を画面において強調することも可能となる。とくに近年、「描く」ということが見直され、ブラッシュストローク（筆さばき）が表現効果の上で重視されるようになりつつあるが、この目の細かい岩彩は、筆の動勢や速度といった作家自身の手仕事の軌跡をそのまま残してくれるわけである。

今回この展覧会で紹介するのは、ここ数年の間、とくに日本画で使用する伝統的な顔料（岩絵具、水干、泥絵具など）を用いて制作活動を続ける主に20～30代の若い作家たちである。その内訳は、

東京から内倉ひとみ、宮前正樹、河嶋淳司、芝章文、諏訪直樹、山田宴三の6人、関西では京都出身で在米中の片山雅史、大阪の加藤悦郎、柴野幸仁の3人。さらに富山で制作活動を続ける清河恵美の総勢10人である。ところがかれらのうち実際に学校で日本画を専攻した作家は、そのうちの半数である5人にすぎない。つまり現在、日本のアートシーンに特徴的にあらわれはじめた岩彩を使用する若い作家たちのうちの多くは、かならずしも日本画の技法を専門的に学んでいるわけではない。このようにむしろこれまで直接的に日本画と関わりをもたなかった作家の方に強く岩彩にひかれ、その使用においても柔軟に対応しようという人が多くみられることは興味深い。

近年の美術界全体の動き、あるいは各作家の志向をながめて見る時、素材としての岩絵具使用の誘因は、他にも多くみうけられる。日本的な伝統性やモチーフの、きわめて個人的レベルでの引用や類似の流行。イメージ発現のため、居直りとも思えるようなきらびやかで派手な装飾をその前面にみせつけようとする作品群。さらに、岩彩と同じ水性絵具であるアクリル絵具のここ最近の大流行も、大いに関連をもっているといえるだろう。

(2) 会場構成



- ①河嶋淳司 ②宮前正樹 ③山田宴三 ④内倉ひとみ ⑤芝章文
⑥加藤悦郎 ⑦柴野幸仁 ⑧片山雅史 ⑨清河恵美 ⑩諏訪直樹

(3) 報告書

責任編集 菊屋吉生

内容

ごあいさつ

カラー図版

モノクロ図版

作家紹介

イメージと素材—日本画絵具 菊屋吉生 (山口県立美術館学芸員)

出品目録

● A 4版44ページ ● アート110kg / 4色オフセット8ページ、モノクロ8ページ

● 上質紙90kg / 28ページ



(4) 出品作品

作者	作品	制作年	材質・技法	寸法
内倉ひとみ	植物たち	1986	アルミニウム・エナメル	120.0×290.0
	三方に向かう形	1988	アルミニウム・エナメル	180.0×260.0
	風がくれた風景 I	1988	アルミニウム・エナメル、シルクスクリーン	235.0×235.0

	ふたつの関係	1988	アルミニウム・エナメル・岩絵具	70.0×50.0 3点
片山 雅史	風のなる日のために '88 Delancy—I	1988	パネル・コットンダックキャンバス・墨・ 和紙・油性インク・岩絵具	パネル (121.0× 85.0) 18枚
	風のなる日のために '88 Delancy—II	1988	パネル・コットンダックキャンバス・墨・ 和紙・油性インク・岩絵具	パネル (121.0× 121.0) 8枚
加藤 悦郎	水のない河を渡る	1988	パネル・和紙・アクリル絵具・水干・泥絵 具・墨・クレヨン・油彩・水性ニス、シル クスクリーン	200.0×1125.0
河嶋 淳司	ガダルカナルの夜の夢	1988	パネル・和紙・新聞紙・岩絵具・水干・ア クリル絵具・金・銀箔、コラージュ	300.0×650.0
	磔刑	1988	パネル・板・和紙・岩絵具・胡粉、コラ ージュ	300.0×260.0 板6枚
清河 恵美	サンサシオン (記憶か ら)	1988	パネル・木・岩絵具・水干・泥絵具・砂 (ケイ砂・石英粉)	200.0×200.0×10.5 (厚さ) 3点 200.0×132.0×5.5 (厚さ) 4点
芝 章文	翠露—111188	1988	パネル・和紙・モデリングペースト・胡 粉・アクリル絵具・墨・岩絵具	220.0×440.0
	天明—161188	1988	パネル・和紙・モデリングペースト・胡 粉・アクリル絵具・墨・岩絵具・プラチナ 箔	220.0×440.0
	起源説—181188	1988	パネル・和紙・モデリングペースト・胡 粉・アクリル絵具・墨・岩絵具	220.0×440.0
柴野 幸仁	Seasons	1986	パネル・水干・泥絵具・アクリル絵具・ 墨・和紙・モデリングペースト・水性ニス	220.0×220.0
	伝承II	1986	パネル・水干・泥絵具・アクリル絵具・ 墨・和紙・モデリングペースト・水性ニス	180.0×270.0
	9つの話	1988	パネル・水干・泥絵具・アクリル絵具・ 墨・和紙・モデリングペースト・水性ニス	270.0×270.0
	伝承III	1988	パネル・水干・泥絵具・アクリル絵具・ 墨・和紙・モデリングペースト・水性ニ ス・砂	250.0×90.0
諏訪 直樹	無限連鎖する絵画 PART I (No. 1~12)	1988	パネル・綿キャンバス・アクリル絵具・岩 絵具・墨	パネル (180.0× 120.0) 12枚
宮前 正樹	THE GARDEN FOR LANDING ICONO- JIPARNI	1988	パネル・寒冷紗・布・金属・ダンボール・ エナメル・岩絵具・アクリル絵具・蛍光灯	布 (480.0×200.0) パネル (180.0× 180.0) 2枚他
	THE GARDEN FOR LANDING ICONO- JIPARNI	1988	パネル・寒冷紗・布・金属・ダンボール・ エナメル・岩絵具・アクリル絵具・蛍光灯	布 (480.0×200.0) パネル (180.0× 180.0) 2枚他
山田 宴三	石油化合物とマイナス	1988	パネル・和紙・岩絵具・水干・油彩・アク リル絵具・ペン (インク) ・鉛筆・セロハ ン・キャンバス・銀箔、コラージュ	422.5×1042.0

(5) 展評など

新聞 (報道記事をのぞく)

展評

日本美術の伝統の現代化模索 朝日新聞 (西部) / (源) 63・12・9

伝統的な顔料使い—ニューウェーブ追求 読売新聞 (西部) / (秋山) 63・12・19

前面にせり出す装飾性 毎日新聞 (西部) / (重里) 63・12・23

エッセイ

顔料による新表現への挑戦 菊屋吉生 新美術新聞/63・12・11 (No. 522)

美術雑誌

妖怪・フリーク考=河嶋淳司=日向あき子 月刊ギャラリー/H 1・3

思考と一致しない絵画 斎藤郁夫 AC/H 1・3・1 (No. 10)

(3) 美術講演会および講座

自主企画展、県美展、共催展等の展覧会事業の内容理解と普及をはかるために、下記の講演会および講座を行った。

美術講演会

日 時 1988(昭和63)年1月17日 12時30分～13時30分
 場 所 美術館講座室
 講 師 河北倫明(前京都国立近代美術館長・美術評論家)
 演 題 昭和初期日本画の動き
 参集人員 100人

日 時 1988(昭和63)年7月17日 13時～15時
 場 所 美術館講座室
 講 師 シーモア・ハワード(カリフォルニア大学教授)
 演 題 1920年代のアヴァンギャルドについて
 参集人員 70人

日 時 1988(昭和63)年7月24日 13時～14時30分
 場 所 美術館講座室
 講 師 浅野 徹(東京国立近代美術館美術課長)
 演 題 国際的な美術動向への呼応—日本の前衛絵画の展開—
 参集人員 30人

美術講座

年月日	62. 9. 13		62. 9. 15	
講 師	山口大学名誉教授 服部 碩夫	写真家 下瀬 信雄	山口大学教授 川口 政宏	書家 広実 泉城
演 題	県美展の絵画について	県美展の写真について	県美展の立体について	県美展の書について
参集人員	45人	35人	30人	30人

年月日	63. 9. 11		63. 9. 15	
講 師	山口大学名誉教授 服部 碩夫	山口大学教授 川口 政宏	書家 広実 泉城	写真家 下瀬 信雄
演 題	県美展の絵画について	県美展の立体について	県美展の書について	県美展の写真について
参集人員	50人	30人	30人	40人

美術教養講座

年月日	62. 10. 17	62. 12. 5		63. 1. 17	63. 3. 5
講師	当館研究員 安井 雄一郎	当館学芸員 斎藤 郁夫	当館学芸員 高田 美規雄	当館学芸員 菊屋 吉生	当館学芸員 榎本 徹
演題	松田正平の作品について	マチス・その人と作品	マチスと近代芸術	日本画・昭和の熱き鼓動展について	やきもののみかたづくりかた -ア-サ-レン-による-
参集人員	45人	65人	65人	45人	40人

年月日	64. 3. 11			平成元3. 15		
講師	当館研究員 安井雄一郎	当館学芸員 斎藤 郁夫	当館学芸員 高田美規雄	当館研究員 福島 恒徳	当館学芸員 菊屋 吉生	当館学芸員 榎本 徹
演題	サージェント展案内	「絵画」と「見る こと」について	絵画のモチーフとして の人物について	唐物文化について	雪舟と雪舟流について	大内時代の工芸 文化
参集人員	45 人			58 人		

実技講座

上級(62年度)

部 門	講 師	期 間	参集人員
洋 画	富 永 恒 光	7月22日(水)～27日(月)	50名
版 画	山 下 哲 郎	7月29日(水)～31日(金)	21名
日 本 画	近 藤 弘 一	8月3日(月)～5日(金)	25名

上級(63年度)

部 門	講 師	期 間	参集人員
洋 画	富 永 恒 光	7月22日(水)～27日(月)	47名
版 画	吉 村 芳 生	7月29日(金)～31日(月)	12名
日 本 画	近 藤 弘 一	8月2日(火)～4日(木)	25名

(4) 美術館ニュース

館活動の状況報告、とくに企画展の案内を中心に、年4回、12ページの構成で発行している。
1987・1988（昭和62・63）年度は32号から39号まで発行された。

第32号(昭和62年・6・1発行)

館蔵品紹介 「紺糸を干す」小野竹喬 菊屋吉生
今日の立体—素材・構造・イメージ— 高田美規雄
古代エジプト展 斎藤郁夫
古代エジプト展によせて 田中晴久（下関市立美術館学芸員）
昭和61年度新収蔵品から



第33号(昭和62・9・1発行)

館蔵品紹介 「周防灘（祝島）」松田正平 安井雄一郎
松田正平展 安井雄一郎
師範学校奉職時代の松田先生 直野 進（洋画家）
無限に作品を生きながらえさせる 足立明男
初期萩焼メモ—李敬という名への疑問— 榎本 徹



第34号(昭和62・12・1発行)

館蔵品紹介 「牡丹唐草文手洗」 榎本 徹
マチス展—南フランスの色彩とリズム— 斎藤郁夫
日本画 昭和の熱き鼓動 菊屋吉生
無意識の場所—トーマス・シュトゥルツ写真展に寄せて— 高田美規雄



第35号(昭和63・3・1発行)

館蔵品紹介 「水芭蕉曼陀羅 黄14」 佐藤多持 菊屋吉生
視覚のミステリー—ルネ・マグリット展— 斎藤郁夫
奇妙なる風景 今井徹也（建築家）
街並み・都市計画考—山口県の場合— 熊野 稔（徳山高等専門学校講師）
新たな意識の確立をめざして 高田美規雄



第36号(昭和63・6・1発行)

館蔵品紹介 「大仏寺」 阪口（坂口）一草 菊屋吉生

ハイテク・アート展 福島恒徳

1920年代・日本一都市と造形のモンタージュール 高田美規雄

昭和63年度新収蔵品から



第37号(昭和63・9・1発行)

館蔵品紹介 「山口市 (Yamaguchi-shi)」 トマス・シュトルート 高田美規雄

豊饒なるインド美術展 福島恒徳

豊饒なるインド美術展によせて 秋山光文（お茶の水女子大学助教授）

ひたすらに歩き、見るⅠ 足立明男

グリュネヴァルトの『修業時代』、あるいは美術的背景について 安井雄一郎



第38号(昭和63・12・1発行)

館蔵品紹介 「江戸時代初期山水図」 周徳印（渡辺了慶） 福島恒徳

ニュージャパニーズスタイルペインティング展 菊屋吉生

11人の1965～75—日本の写真は変えられたか— 榎本 徹

ひたすら歩き、見るⅡ 足立明男



第39号(平成元年3月1日発行)

館蔵品紹介 「流沙の人」 三輪龍作 榎本 徹

怡雲賛白衣観音図 福島恒徳

サージェント展 安井雄一郎

古代ギリシア・ローマ展 高田美規雄

肖像画と現代美術 浜田拓志（和歌山県立近代美術館学芸員）

日本近代美術雑感 高田美規雄



(5) 移動美術館

館蔵品を県下各地で広く展覧し、美術文化の振興に寄与するという趣旨のもとで移動美術館を開催した。

「美と出会う時」

1987年11月12日～11月16日 上の関中央公民館

同年11月19日～11月23日 田万川勤労者体育センター

(1) 趣旨

(2) カタログ

大スキラ版36ページ（表紙とも）／モノクロ30ページ

(3) 出品作品

油彩、日本画、版画、彫刻など計40点

(4) 参観者内訳

日	場所	上の関中央公民館
11月12日		2 5 3 (人)
13日		6 3 1
14日		2 4 6
15日		1 8 3
16日		3 5 8
計		1, 6 7 1 (人)

日	場所	田万川勤労者体育センター
11月19日		4 4 2 (人)
20日		2 8 5
21日		3 2 3
22日		1 5 0
23日		1 3 3
計		1, 3 3 3 (人)

「見えるもの 見えないもの」

1988年11月2日～11月6日 豊田町民センター

同年11月12日～11月16日 美和町農林業者トレーニングセンター

(1) 趣旨

(2) カタログ

大スキラ版40ページ（表紙とも）／モノクロ32ページ

(3) 出品作品

油彩、日本画、水彩、彫刻、素描など計38点

(4) 参観者内訳

日	場所	豊田町民センター
11月2日		698 (人)
3日		767
4日		569
5日		129
6日		78
計		2,240 (人)

日	場所	美和町農林業者トレーニングセンター
11月12日		602 (人)
13日		165
14日		529
15日		239
16日		186
計		1,721 (人)



県美展風景

事業

Ⅲ. 入館者数一覽

展 覧 会 名	閉 催 期 間	個						人		小 計
		大		高		小		中		
		料 金	人 数	料 金	人 数	料 金	人 数			
常 設 展	62. 4. 1~63. 3.31(309)	170	13,501	110	1,410	70	1,683	16,594		
川 原 慶 賀 展	62. 4. 1~ 5.10(36)	700	6,966	500	553	300 100	1,411	8,930		
山口の現代美術Ⅳ	62. 5.19~ 6.14(24)	700	1,244	500	112	300	46	1,402		
古代エジプト展	62. 6.27~ 8. 2(32)	900	47,525	700	5,625	400 300	14,636	67,786		
日本現代工芸美術展	62. 8. 5~ 8. 9(5)	300	644	100	50	50	79	773		
第 41 回 県 美 展	62. 9. 9~ 9.25(15)	250	5,290	200	202	150	386	5,878		
松 田 正 平 展	62.10. 3~ 11. 8(32)	700	4,141	500	133	300	192	4,466		
山口県学校美術展	62.11.12~ 11.15(5)									
マ チ ス 展	62.11.20~ 12.27(33)	900	17,848	700	1,592	500	2,537	21,977		
日本画・昭和の熱き鼓動展	63. 1. 7~ 2.14(34)	700	5,627	500	177	300	283	6,087		
山口大学卒業制作展	63. 2.18~ 2.21(4)									
二 紀 展	63. 2.23~ 2.28(6)	600	892	400	88			980		
山口芸術短期大学卒業制作展	63. 3. 3~ 3. 6(4)									
20世紀美術偉大な先駆者たち展	63. 3. 9~ 3.31(20)	900	11,101	7002	1,920	500	2,455	15,476		
62 年 度 計	(通し累計)		114,779		11,862		23,708	150,349		
常 設 展	63. 4. 1~ 1. 3.31(308)	170	12,577	110	928	70	1,262	14,767		
20世紀美術偉大な先駆者たち展	63. 4. 1~63. 4. 3(3)	900	2,921	700	249	500	857	4,027		
ルネ・マグリット展	63. 4. 8~ 5.15(32)	900	29,719	700	6,279	400	7,007	43,005		
伝統工芸新作展	63. 5.20~ 5.29(9)	300	1,378	200	19	100	32	1,429		
ハイテクアート展	63. 6. 3~ 6.26(21)	700	9,464	500	912	300	3,851	14,227		
服 部 碩 夫 展	63. 6.29~ 7. 3(5)									
1920年代・日本展	63. 7.15~ 8.21(33)	800	12,608	600	701	400	677	13,986		
第 42 回 県 美 展	63. 9. 8~ 9.25(16)	250	5,540	200	184	150	359	6,083		
モダンアート展	63.10. 4~ 10. 9(6)									
豊饒なるインド展	63.10.15~ 11.20(32)	900	12,127	700	1,082	500	1,333	14,542		
山口県学校美術展	63.11.24~ 11.27(4)									
山口の現代美術Ⅴ	63.12. 2~ 12.25(21)	700	941	500	263	300	39	1,243		
11人の1965-75展	64. 1. 6~平1.2.12(33)	700	2,241	500	187	300	84	2,512		
山口大学卒業制作展	1. 2.16~ 2.19(4)									
山口芸術短期大学卒業制作展	1. 2.23~ 2.26(4)									
サージェント展	1. 3. 2~ 3.31(25)	900	8,979	700	1,325	500	846	11,150		
63 年 度 計			98,495		12,129		16,347	126,971		

団 体							計			合 計	累 計
大 人	高	大	小	中	小	有 料	無 料	招 待			
料 金	人 数	料 金	人 数	料 金	人 数	小 計					
140	766	90	189	50	745	1,700	18,294	629		18,923	18,923
600	206	400	57	200	380	643	9,573	766	2,869	13,208	32,131
600	142	400	284	200	848	1,274	2,676	47	270	2,993	35,124
700	2,878	500	1,205	300 200	894	4,977	72,763	5,180	10,424	88,367	123,491
							773	61	499	1,333	124,824
200	176	150	337	100	0	513	6,391	177	858	7,426	132,250
600	748	400	40	200	616	1,404	5,870	257	1,179	7,306	139,556
								6,026		6,026	145,582
700	549	500	234	300	190	973	22,950		8,894	31,844	177,426
600	287	400	169	200	64	520	6,607	403	1,105	8,115	185,541
								946		946	186,487
	50					50	1,030	138	1,269	2,437	188,924
								1,254		1,254	190,178
700	54	600	0	400	413	467	15,943	1,113	3,083	20,139	210,217
	5,856		2,515		4,150	12,521	162,899	16,997	30,450	210,217	210,217
140	969	90	291	50	1,415	2,675	17,442	584		18,026	18,026
700	27	600	0	400	7	34	4,061	262	1,515	5,838	23,864
700	289	500	980	300	1,338	2,607	45,612	3,311	5,719	54,642	78,506
200	170	100	46	50	396	612	2,041	49	600	2,690	81,196
600	418	400	380	200	275	1,073	15,300	2,009	1,128	18,437	99,633
								806		806	100,439
700	129	500	35	300	27	191	14,177	676		14,853	115,292
200	159	150	486	100	53	698	6,781	354	839	7,974	123,266
								1,209		1,209	124,475
700	1,259	500	45	300	499	1,803	16,345		6,855	23,200	147,675
								5,725		5,725	153,400
600	20	400	0	200	0	20	1,263	121	373	1,757	155,157
600	62	400	88	200	0	150	2,662	289	687	3,638	158,795
								1,001		1,001	159,796
								1,210		1,210	161,006
700	64	500	0	300	245	309	11,459		4,619	16,078	177,084
	3,566		2,351		4,255	10,172	137,143	17,606	22,335	177,084	177,084

收集資料

I. 館藏品貸出利用狀況

作 品	作 者	期 間	貸 出 先	展覧会名等	備 考
餓	香月 泰男	62.6.1～8.12	埼玉県立近代美術館	現代のイコナーかみ とひとものときの のなかに	
奉天(右)	香月 泰男	62.8.10～8.22	中日新聞社社会事業部	真夏の戦争博物館 「鎮魂・外地に眠る 兵士たちの詩」展	
奉天(左)	〃	〃	〃	〃	
写生 図巻	森 寛斎	62.8.29～11.2	サントリー美術館	日本博物学事始―描 かれた自然Ⅰ―	
山 水 図	雪舟	62.9.28～12.7	東京国立博物館	日本の水墨画展	
し ぼ り	永地 秀太	62.9.10～10.25	板橋区立美術館	明治洋画壇の巨匠た ち―日本のアカデミ ズムの形成―	
壁に倚れる女	〃	〃	〃	〃	
復員クテラップ	香月 泰男	62.10.20～12.10	大分県立芸術会館	開館10周年記念「日本 近代洋画の歩み」展	
鴨 図	高橋 由一	〃	〃	〃	
α	野村 耕	62.11.27～1.15	西武百貨店	戦後日本画変革の戦 士たち展	
山 水 図	雪舟	63.3.8～4.27	岡山県立美術館	開館記念展「岡山の 絵画500年―雪舟か ら国吉まで―」	
作 品	桂 ゆき	63.3.12～4.24	姫路市立美術館	昭和前期洋画の歩み 展	
春 の 海	小林 和作	63.4.20～6.8	岡山県立美術館	瀬戸内風景―近代画 家の目展	
周防灘(祝島)	松田 正平	〃	〃	〃	
菖筆洗茶碗	三輪 休和	63.5.7～7.10	福島県立美術館	近代日本の陶芸展	
菖 沓 茶 碗	〃	〃	〃	〃	
予 感	三輪 龍作	〃	〃	〃	
ラ ブ	〃	〃	〃	〃	
証 言	鯉江 良二	〃	〃	〃	
聖痕を授かる アッシジの聖フラン チェスコ (ジョットによる)	長谷川三郎	63.6.6～8.5	下関市立美術館	長谷川三郎とその時 代展	
星空の富士	〃	〃	〃	〃	
83-105-2	服部 碩夫	63.6.28～7.4	山口大学教育学部	服部碩夫展	
84-163	〃	〃	〃	〃	
桜 島	小林 和作	63.7.1～8.20	鹿児島市立美術館	巨匠たちが描く桜島 展	
桜 島	〃	〃	〃	〃	
1945	香月 泰男	63.7.23～9.4	いわき市立美術館	戦後美術の原像―戦 争の刻印と鎮魂―展	
ホロンバイル	〃	〃	〃	〃	

埋 葬	〃	〃	〃	〃	寄託品
証 言	鯉江 良二	〃	〃	〃	
四季花鳥図屏風	狩野 松栄	63.9.15~12.6	「自然への憧憬展」実行委員会	自然への憧憬展	
龍虎図屏風	森 寛斎	〃	〃	〃	
喫 茶 室	田口 壮	63.9.21~11.2	京都市美術館	1930年代の京都一日 本画・洋画・工芸展	寄託品
海 と 霧	小野 具定	63.9.21~11.14	いわき市立美術館	日本画一戦後の歩み Ⅱ展	
葡萄とりす	森 寛斎	63.9.28~11.16	福岡県立美術館	明治の日本画展	
八臂弁財天図	狩野 芳崖	63.10.11~4.16	山種美術館ほか3館	狩野芳崖—その人と 芸術—展	
青砥藤綱滑川拾 銭図	〃	〃	〃	〃	
羅漢図双幅	〃	〃	〃	〃	
呂洞賓鉄拐図	〃	〃	〃	〃	
四季耕作図屏風	〃	〃	〃	〃	
懸崖飛沫図	〃	〃	〃	〃	
牧 馬 図	〃	〃	〃	〃	
山 水 図	〃	〃	〃	〃	
雪中山水図	〃	〃	〃	〃	
士農工商図	〃	〃	〃	〃	寄託品
湖畔漁舟図	〃	〃	〃	〃	寄託品
山陰の海	小林 和作	63.10.1~10.10	パレット画廊	生誕100年・小林和 作回顧展	寄託品
海	〃	〃	〃	〃	寄託品
海	〃	〃	〃	〃	寄託品
秋 山	〃	〃	〃	〃	寄託品
残雪の妙高山中	〃	〃	〃	〃	寄託品
秋 山	〃	〃	〃	〃	寄託品
海	〃	〃	〃	〃	寄託品
英彦山中	〃	〃	〃	〃	寄託品
英彦山中の秋	〃	〃	〃	〃	寄託品
妙高山の秋	〃	〃	〃	〃	寄託品
海	〃	〃	〃	〃	寄託品
漁村の夕	〃	〃	〃	〃	寄託品
上高地(三)	小林 和作	63.10.11~10.30	小林和作展実行委員会	生誕100年記念・小 林和作展	
エクス風景(二)	〃	〃	〃	〃	
春 の 山	〃	〃	〃	〃	

山 湖	◇	◇	◇	◇
海	◇	◇	◇	◇
春 の 海	◇	◇	◇	◇
ゆ あ み	新海竹太郎	63.10.25～12.25	静岡県立美術館	近代日本彫刻の歩みー 西欧との出会いー展
漂流 '58	豊福 知徳	63.10.26～12.19	練馬区立美術館	抽象彫刻の形成期・ 1945～1960展
七つの軌跡	下村良之介	64.1.19～3.1	0美術館	下村良之介展ー鳥の 歌・翔く形象ー 寄託品
群 鶴	福田 翠光	平成元・2.12～4.7	ふくやま美術館	京都画壇・花鳥動物 画のながれ展
葡萄とりす	森 寛斎	◇	◇	◇
写生図巻	◇	◇	◇	◇
旅 芸 人	宮崎 進	平成元・2.20～4.3	西武アート・フォーラム	宮崎 進ー湧現する 内なる風景展
黄色い壁	◇	◇	◇	◇
凍 る 土	◇	◇	◇	◇
牧 馬 図	狩野 芳崖	平成元・2.28～4.2	京都国立博物館	没後100年記念「狩野 芳崖」展
凍れるシベリア にて	岩崎 巴人	平成元・3.1～4.22	西武・ザ・コンテンポラ リー・アートギャラリー	戦後日本画変革の戦 士たち-墨線と色彩-
変貌する山	◇	◇	◇	◇
三 人	長崎 莫人	◇	◇	◇
たそがれの畑	◇	◇	◇	◇
美人図双幅	月岡 雪鼎	平成元・3.28～5.20	板橋区立美術館	肉筆浮世絵名品展

収集資料

Ⅱ. コレクション

※ 凡例 以下の目録は1987(昭62)年4月から1989(平成元)年3月までに収集された館蔵品をすべて網羅したものである。作品の整理方針および個々のデータの記録法は『山口県立美術館蔵品目録1979』に準じている。すなわち、作品は日本画(J)・洋画(O)・水彩画(W)・素描(D)・版画(P)・彫刻(S)・工芸(C)・写真(Ph)・資料(M)の順で編集され、また個々のデータについては整理番号・作者・生没年・タイトル・制作年・素材技法・寸法(cm)・サイン等の位置・収蔵年・収蔵経緯の順で記録されている。整理番号は『山口県立美術館年報(昭和60~61)』につづく通し番号とした。



J-106

雲谷等益 UNKOKU, Tōeki

1591~1644

樹下高士山水図

A Scholar under the Tree, Landscape

17世紀

紙本淡彩・軸三幅対

各114.2×46.6

昭和62年度 購入



J-107

雲谷等顔 UNKOKU, Tōgan

1547~1618

蜷子和尚

Priest Xsiang-tzū

17世紀初期

紙本墨画・軸

昭和63年度 購入



J-108

雲谷等顔 UNKOKU, Tōgan

1547~1618

懶瓊煨芋図

Lai-tsan Baking Potatoes

17世紀初期

紙本墨画・軸

119.6×47.6

昭和63年度 購入



J-109

雲谷等鶴 UNKOKU, Tōkaku

1674~?

花鳥図屏風 Flowers-and-Birds

18世紀頃

紙本金地彩色・六曲屏風一双

各156.4×359.8

昭和62年度 保管転換 (山口県立山口博物館旧蔵)



J-111

加納三楽 KANŌ, Sanraku
1898~1981

舟耕 Going off to Farm
1934

紙本彩色・二曲屏風一双
各227.0×258.0
昭和62年度 寄贈



J-112

阪口一草 SAKAGUCHI, Itssō
1902~

大仏寺 Daibutsu-ji Temple
1941

紙本彩色・額
269.0×194.0
昭和62年度 購入

J-110

雲谷等与 UNKOKU, Tōyo
1612~1668

達磨図 Priest Dharma
17世紀中期

紙本淡彩・軸
85.5×40.2
昭和63年度購入



J-113

藤田隆治 FUJITA, Ryūji
1907~1965

初夏 Early Summer
1925~30

紙本彩色・二曲屏風一双
194.0×197.6
昭和62年度 購入



J-114

岩崎 鐸 IWASAKI, Taku
1913~

山嶺 Mountain Peaks
1938

紙本彩色・額
211.0×300.0
昭和63年度 購入



J-115

岩崎 鐸 IWASAKI, Taku
1913~

夜 Night
1939

紙本彩色・額
211.0×300.0
昭和63年度 購入



○-145
香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
神農 Shien Nung
1964
油彩・キャンバス
91.3×60.8
昭和62年度 購入



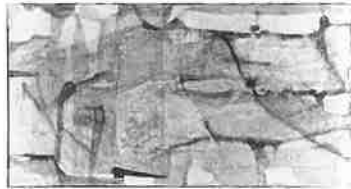
○-146
香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
湿地 Marsh
1961
油彩・キャンバス
73.6×50.0
昭和63年度 購入



○-147
松田正平 MATSUDA, Shōhei
1913~
裸婦 Nude Woman
1959
油彩・板
30.9×164.6
昭和62年度 購入



○-148
松田正平 MATSUDA, Shōhei
1913~
銭湯 Public Bath
1955
油彩・キャンバス
80.5×61.0
昭和62年度 購入



○-149
宮崎 進 MIYAZAKI, Susumu
1922~
凍る土 Frozen Earth
1985~86
油彩・キャンバス
昭和62年度 購入



P-56
香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
針ねずみ Hedgehog
1970
18.0×13.5
石版2版2色 平版インク・アルシュ
動物シリーズ石版画集Ⅱ
昭和63年度寄贈



P-57
 香月泰男 KAZUKI, Yasuo
 1911~1974
 コンドル Condor
 1970
 18.0×13.5
 石版2版2色 平版インク・アルシュ
 動物シリーズ石版画集Ⅱ
 昭和63年度寄贈



P-58
 香月泰男 KAZUKI, Yasuo
 1911~1974
 バッファロー Buffalo
 1970
 18.0×13.0
 石版2版2色 平版インク・アルシュ
 動物シリーズ石版画集Ⅱ
 昭和63年度寄贈



P-59
 香月泰男 KAZUKI, Yasuo
 1911~1974
 みどりちうはし Midori-Chiuhashi
 1970
 18.0×13.0
 石版2版2色 平版インク・アルシュ
 動物シリーズ石版画集Ⅱ
 昭和63年度寄贈



P-60
 香月泰男 KAZUKI, Yasuo
 1911~1974
 虎 Tiger
 1970
 33.0×23.0
 石版3版3色 平版インク・アルシュ
 動物シリーズ石版画集Ⅱ



P-61
 香月泰男 KAZUKI, Yasuo
 1911~1974
 あざらし Seal
 1970
 33.0×23.0
 石版3版3色 平版インク・アルシュ
 動物シリーズ石版画集Ⅱ



P-62
 香月泰男 KAZUKI, Yasuo
 1911~1974
 ジャガー Jaguar
 1970
 33.0×23.0
 石版3版3色 平版インク・アルシュ
 動物シリーズ石版画集Ⅱ



P-63

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
猿<アメリカ> American Tapir
1970
33.0×23.0

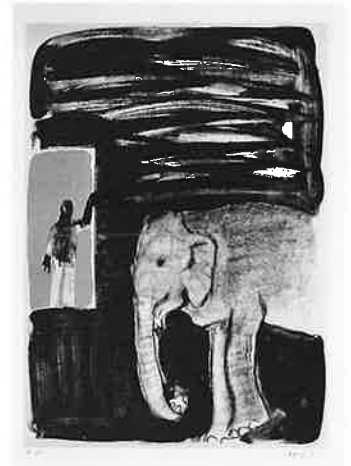
石版3版3色 平版インク・アルシュ
動物シリーズ石版画集Ⅱ
昭和63年度寄贈



P-64

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
白孔雀 White Peacock
1970
32.0×24.0

石版2版2色 平版インク・アルシュ
動物シリーズ石版画集Ⅱ
昭和63年度寄贈



P-65

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
象 Elephant
1970
48.0×34.5

石版3版3色 平版インク・アルシュ
動物シリーズ石版画集Ⅰ
昭和63年度寄贈



P-66

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
真鶴 White-naped Crane
1970
48.0×34.5

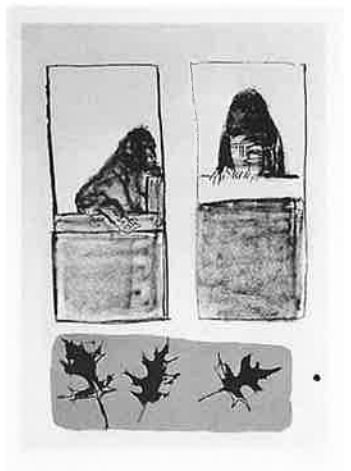
石版3版3色 平版インク・アルシュ
動物シリーズ石版画集Ⅰ
昭和63年度寄贈



P-67

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
エミュ Emu
1970
48.0×34.5

石版3版3色 平版インク・アルシュ
動物シリーズ石版画集Ⅰ
昭和63年度寄贈



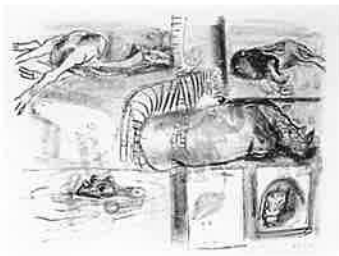
P-68

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
マンドリルとゴリラ
Mandrill and Gorilla
1970
48.0×34.5

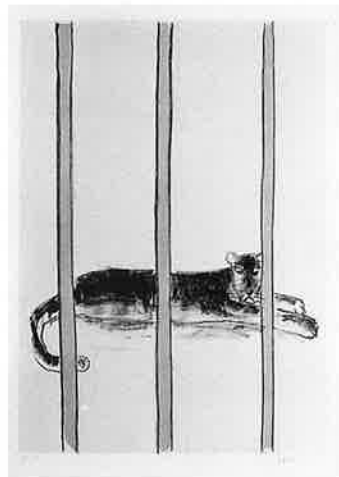
石版3版3色 平版インク・アルシュ
動物シリーズ石版画集Ⅰ
昭和63年度寄贈



P-69
 香月泰男 KAZUKI, Yasuo
 1911~1974
 ペンギン Penguins
 1970
 48.0×34.5
 石版3版3色 平版インク・アルシュ
 動物シリーズ石版画集I
 昭和63年度寄贈



P-70
 香月泰男 KAZUKI, Yasuo
 1911~1974
 動物園にて In the Zoological
 Gardens 1970
 43.0×57.3
 石版2版2色 平版インク・アルシュ
 動物シリーズ石版画集I
 昭和63年度寄贈



P-71
 香月泰男 KAZUKI, Yasuo
 1911~1974
 ライオン Lion
 1970
 48.0×34.5
 石版3版3色 平版インク・アルシュ
 動物シリーズ石版画集I
 昭和63年度寄贈



P-72
 香月泰男 KAZUKI, Yasuo
 1911~1974
 らくだ Camel
 1970
 48.0×34.5
 石版2版2色 平版インク・アルシュ
 動物シリーズ石版画集I
 昭和63年度寄贈



P-73
 香月泰男 KAZUKI, Yasuo
 1911~1974
 母子像1 Mother and Child 1
 1971
 36.0×27.6
 石版3版3色 平版インク・アルシュ
 石版画集「母子像」
 昭和63年度寄贈



P-74
 香月泰男 KAZUKI, Yasuo
 1911~1974
 母子像2 Mother and Child 2
 1971
 36.0×27.6
 石版3版3色 平版インク・アルシュ
 石版画集「母子像」
 昭和63年度寄贈



P-75

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
母子像3 Mother and Child 3
1971

36.0×27.6

石版3版3色 平版インク・アルシュ
石版画集「母子像」
昭和63年度寄贈



P-76

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
母子像4 Mother and Child 4
1971

36.0×27.6

石版2版2色 平版インク・アルシュ
石版画集「母子像」
昭和63年度寄贈



P-77

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
母子像5 Mother and Child 5
1971

36.0×27.6

石版2版2色 平版インク・アルシュ
石版画集「母子像」
昭和63年度寄贈



P-78

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
母子像6 Mother and Child 6
1971

36.0×27.6

石版3版3色 平版インク・アルシュ
石版画集「母子像」
昭和63年度寄贈



P-79

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
母子像7 Mother and Child 7
1971

36.0×27.6

石版3版3色 平版インク・アルシュ
石版画集「母子像」
昭和63年度寄贈



P-80

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
母子像8 Mother and Child 8
1971

36.0×27.6

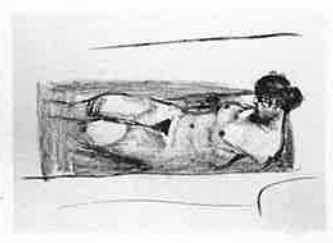
石版3版3色 平版インク・アルシュ
石版画集「母子像」
昭和63年度寄贈



P-81

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
母子像9 Mother and Child 9
1971
36.0×27.6

石版3版3色 平版インク・アルシュ
石版画集「母子像」
昭和63年度寄贈



P-82

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
裸婦1 Nude Woman 1
1971
37.0×53.5

石版1版1色 平版インク・出雲特漉和紙
石版画集「裸婦」
昭和63年度寄贈



P-83

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
裸婦2 Nude Woman 2
1971
39.7×29.3

石版1版1色 平版インク・出雲特漉和紙
石版画集「裸婦」
昭和63年度寄贈



P-84

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
裸婦3 Nude Woman 3
1971
39.7×29.3

石版1版1色 平版インク・出雲特漉和紙
石版画集「裸婦」
昭和63年度寄贈



P-85

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
裸婦4 Nude Woman 4
1971
46.5×38.0

石版1版1色 平版インク・出雲特漉和紙
石版画集「裸婦」
昭和63年度寄贈



P-86

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
裸婦5 Nude Woman 5
1971
37.6×51.5

石版1版1色 平版インク・出雲特漉和紙
石版画集「裸婦」
昭和63年度寄贈



P-87

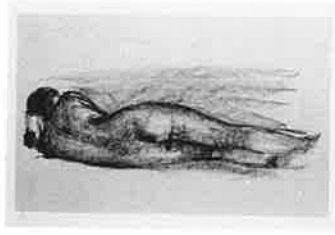
香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974

裸婦6 Nude Woman 6

1971

32.5×51.8

石版1版1色 平版インク・出雲特漉和紙
石版画集「裸婦」
昭和63年度寄贈



P-88

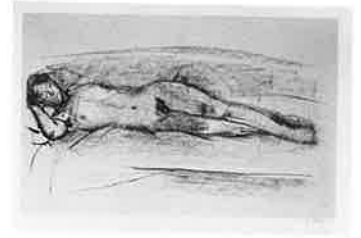
香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974

裸婦7 Nude Woman 7

1971

34.0×53.5

石版1版1色 平版インク・出雲特漉和紙
石版画集「裸婦」
昭和63年度寄贈



P-89

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974

裸婦8 Nude Woman 8

1971

33.5×53.5

石版1版1色 平版インク・出雲特漉和紙
石版画集「裸婦」
昭和63年度寄贈



P-90

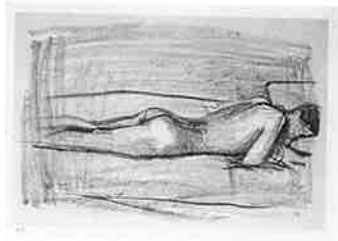
香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974

裸婦9 Nude Woman 9

1971

32.5×53.5

石版1版1色 平版インク・出雲特漉和紙
石版画集「裸婦」
昭和63年度寄贈



P-91

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974

裸婦10 Nude Woman 10

1971

37.6×53.8

石版1版1色 平版インク・出雲特漉和紙
石版画集「裸婦」
昭和63年度寄贈



P-92

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974

湯する女 Woman Bathing

1971

37.3×51.8

石版1版1色 平版インク・出雲特漉和紙
昭和63年度寄贈



P-93

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

1911~1974

横たわる裸婦 Lying Nude Woman

1971

39.3×51.8

石版1版1色 平版インク・出雲特漉和紙
昭和63年度寄贈



P-94

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

1911~1974

椅子の女 Woman on a Sofa

1971

40.0×29.5

石版1版1色 平版インク・出雲特漉和紙
昭和63年度寄贈



P-95

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

1911~1974

北見 View of Kitami

1971

34.0×25.0

石版2版2色 平版インク・BFK
石版画集「北海道」
昭和63年度寄贈



P-96

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

1911~1974

層雲峡 Soun Gorge

1971

33.0×24.5

石版4版4色 平版インク・BFK
石版画集「北海道」
昭和63年度寄贈



P-97

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

1911~1974

知床小漁村

Small Fishing Village in Shiretoko

1971

34.0×25.0

石版3版3色 平版インク・BFK
石版画集「北海道」
昭和63年度寄贈



P-98

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

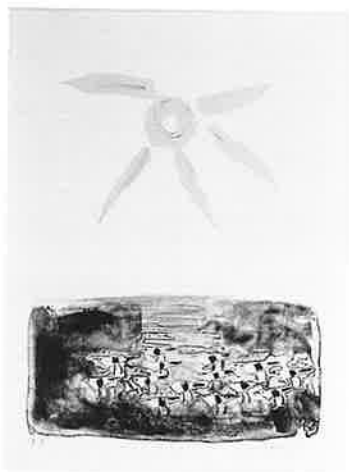
1911~1974

水芭蕉 Skunk Cabbages

1971

34.0×25.0

石版3版3色 平版インク・BFK
石版画集「北海道」
昭和63年度寄贈



P-99

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
オホーツクの朝 Morning in
Okhotsk 1971

36.0×27.0
石版2版2色 平版インク・B F K
石版画集「北海道」
昭和63年度寄贈



P-100

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
摩周湖 Lake Mashū
1971

33.5×25.5
石版3版3色 平版インク・B F K
石版画集「北海道」
昭和63年度寄贈



P-101

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
美幌峠から屈斜路湖 Lake Kus-
sharo from Mihoro 1971

34.0×25.5
石版2版2色 平版インク・B F K
石版画集「北海道」



P-102

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
大雪山連峰 Daisetsu-Zan Peaks
1971

36.0×27.0
石版2版2色 平版インク・B F K
石版画集「北海道」
昭和63年度寄贈



P-103

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
オホーツクの日の出
Sunrise in Okhotsk
1971

36.0×27.0
石版2版2色 平版インク・B F K
石版画集「北海道」
昭和63年度寄贈



P-104

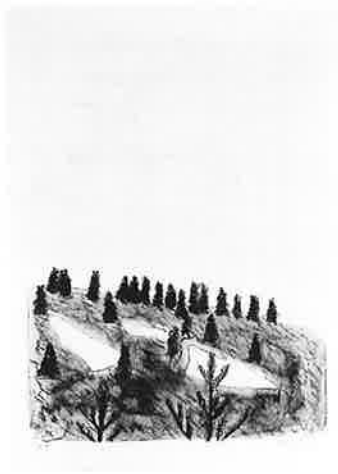
香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
阿寒の山肌 Mt. Akan
1971

33.0×24.5
石版2版2色 平版インク・B F K
石版画集「北海道」
昭和63年度寄贈



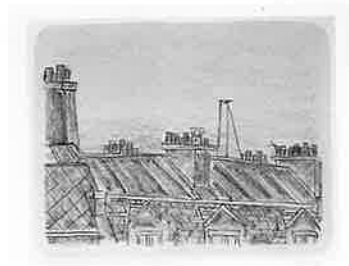
P-105

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
白樺若木 White Birch Sapling
1971
31.5×22.0
石版2版2色 平版インク・BFK
石版画集「北海道」
昭和63年度寄贈



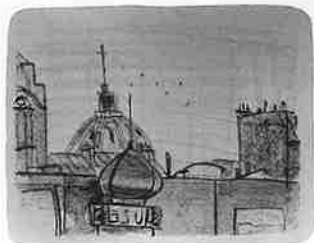
P-106

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
美幌峠残雪
Lingering Snow in Mihoro Pass
1971
34.0×25.5
石版2版2色 平版インク・BFK
石版画集「北海道」
昭和63年度寄贈



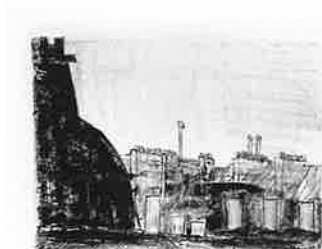
P-107

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
パリの屋根1 Paris Rooftops 1
1971
31.7×39.8
石版4版4色 平版インク・アルシュ
石版画集「パリの屋根」
昭和63年度寄贈



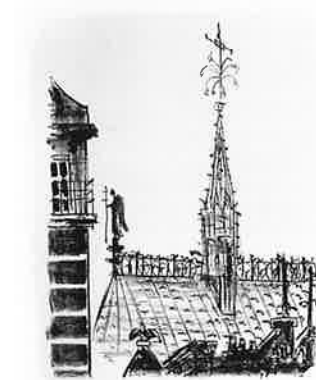
P-108

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
パリの屋根2 Paris Rooftops 2
1971
31.7×39.8
石版6版6色 平版インク・アルシュ
石版画集「パリの屋根」
昭和63年度寄贈



P-109

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
パリの屋根3 Paris Rooftops 3
1971
31.7×39.8
石版4版4色 平版インク・アルシュ
石版画集「パリの屋根」
昭和63年度寄贈



P-110

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
パリの屋根4 Paris Rooftops 4
1971
39.8×31.7
石版5版5色 平版インク・アルシュ
石版画集「パリの屋根」
昭和63年度寄贈



P-111

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

1911~1974

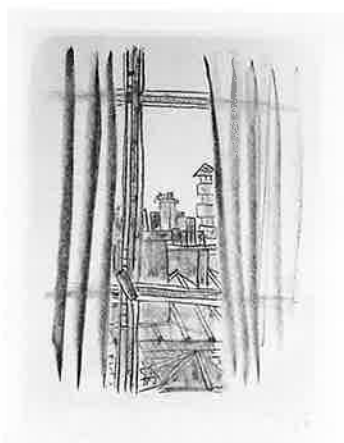
パリの屋根 5 Paris Rooftops 5

1971

39.8×31.7

石版 5版 5色 平版インク・アルシュ
石版画集「パリの屋根」

昭和63年度寄贈



P-112

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

1911~1974

パリの屋根 6 Paris Rooftops 6

1971

39.8×31.7

石版 4版 4色 平版インク・アルシュ
石版画集「パリの屋根」

昭和63年度寄贈



P-113

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

1911~1974

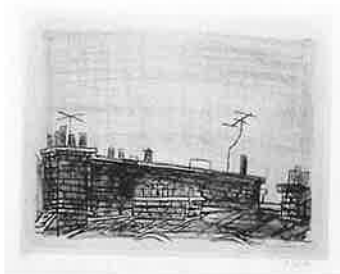
パリの屋根 7 Paris Rooftops 7

1971

39.8×31.7

石版 4版 4色 平版インク・アルシュ
石版画集「パリの屋根」

昭和63年度寄贈



P-114

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

1911~1974

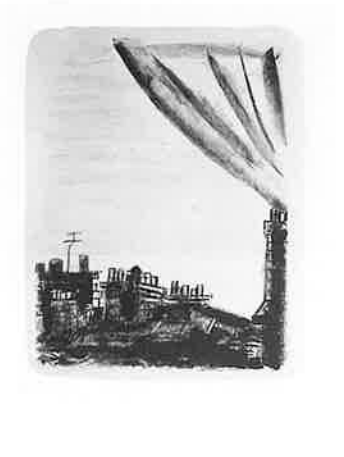
パリの屋根 8 Paris Rooftops 8

1971

31.7×39.8

石版 4版 4色 平版インク・アルシュ
石版画集「パリの屋根」

昭和63年度寄贈



P-115

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

1911~1974

パリの屋根-A Paris Rooftops A

1971

31.5×40.0

石版 4版 4色 平版インク・アルシュ
昭和63年度寄贈



P-116

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

1911~1974

クレタ村 Village in Crete

1972

41.5×29.5

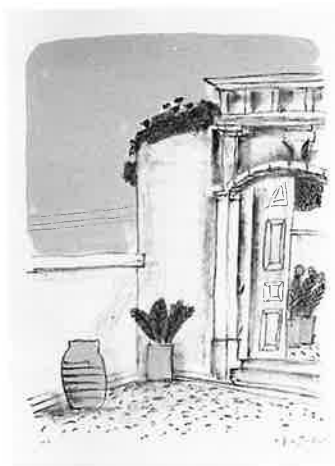
石版 7版 7色 平版インク・アルシュ
石版画集「ギリシャ」

昭和63年度寄贈



P-117

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
ロードス郊外 Outskirts of Rhodes
1972
41.5×30.0
石版6版6色 平版インク・アルシュ
石版画集「ギリシャ」
昭和63年度寄贈



P-118

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
リンドス Lindos
1972
40.0×30.0
石版6版6色 平版インク・アルシュ
石版画集「ギリシャ」
昭和63年度寄贈



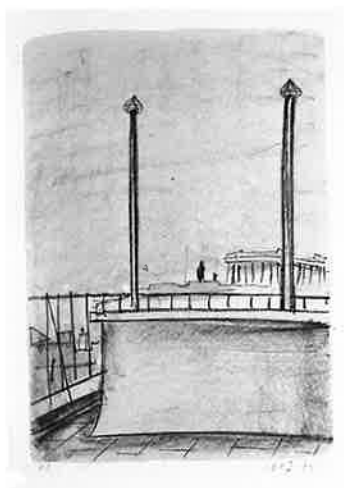
P-119

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
ロードスの裏街 Backstreets of
Rhodes 1972
42.0×29.3
石版5版5色 平版インク・アルシュ
石版画集「ギリシャ」
昭和63年度寄贈



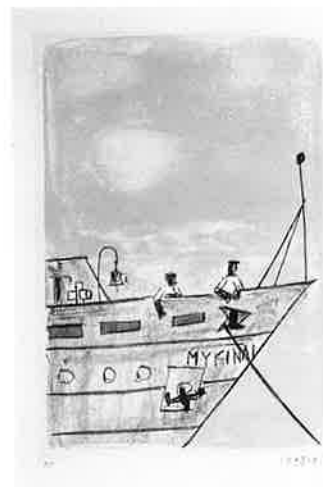
P-120

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
竜舌蘭 Agaves
1972
42.0×30.0
石版3版3色 平版インク・アルシュ
石版画集「ギリシャ」
昭和63年度寄贈



P-121

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
アクロポリス展望
View of the Acropolis
1972
42.5×29.5
石版3版3色 平版インク・アルシュ
石版画集「ギリシャ」
昭和63年度寄贈



P-122

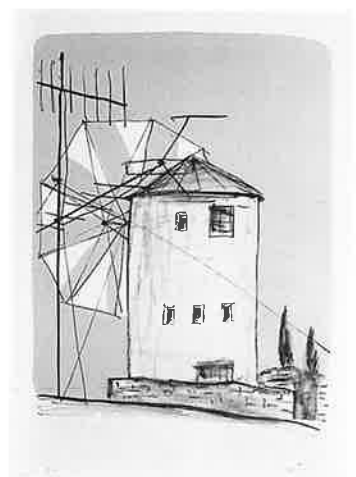
香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
連絡船 Ferryboat
1972
41.0×27.8
石版5版5色 平版インク・アルシュ
石版画集「ギリシャ」
昭和63年度寄贈



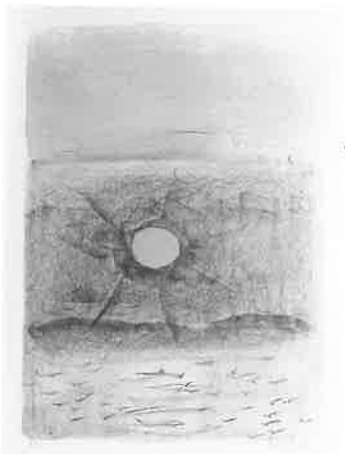
P-123
 香月泰男 KAZUKI, Yasuo
 1911~1974
 ひなげし Poppy
 1972
 41.0×28.0
 石版 6版 6色 平版インク・アルシュ
 石版画集「ギリシャ」
 昭和63年度寄贈



P-124
 香月泰男 KAZUKI, Yasuo
 1911~1974
 オリーブ畑 Olive Grove
 1972
 40.5×27.8
 石版 5版 5色 平版インク・アルシュ
 石版画集「ギリシャ」
 昭和63年度寄贈



P-125
 香月泰男 KAZUKI, Yasuo
 1911~1974
 エドラの風車 Windmill in Edra
 1972
 40.6×28.3
 石版 4版 4色 平版インク・アルシュ
 石版画集「ギリシャ」
 昭和63年度寄贈



P-126
 香月泰男 KAZUKI, Yasuo
 1911~1974
 サラミス沖の太陽
 Shining Sun off the Coast of Salamis
 1972
 41.3×30.0
 石版 6版 6色 平版インク・アルシュ
 昭和63年度寄贈



P-127
 香月泰男 KAZUKI, Yasuo
 1911~1974
 クレタの家 House in Crete
 1972
 41.5×29.4
 石版 6版 6色 平版インク・アルシュ
 昭和63年度寄贈



P-128
 香月泰男 KAZUKI, Yasuo
 1911~1974
 ロードスの修道院 Cloister in
 Rhodes
 1972
 41.0×28.0
 石版 6版 6色 平版インク・アルシュ
 昭和63年度寄贈



P-129

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

1911~1974

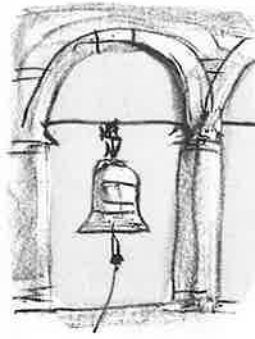
クレタの風車 Windmill in Crete

1973

11.0×8.7

石版5版5色 平版インク・アルシュ
リトグラフ小品集

昭和63年度寄贈



P-130

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

1911~1974

エドラの鐘 Bell in Edra

1973

11.0×8.7

石版4版4色 平版インク・アルシュ
リトグラフ小品集

昭和63年度寄贈



P-131

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

1911~1974

スパルタ道祠 Wayside Shrine in
Sparta 1973

11.0×8.7

石版5版5色 平版インク・アルシュ
リトグラフ小品集

昭和63年度寄贈



P-132

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

1911~1974

マラトンのオリーブ

Olive Grove in Marathon

1973

11.0×8.7

石版4版4色 平版インク・アルシュ
リトグラフ小品集

昭和63年度寄贈



P-133

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

1911~1974

貝殻 Shells

1973

33.0×23.5

木版8版8色 グワッシュ・生漉奉書
木版画集「タヒチ」

昭和63年度寄贈



P-134

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

1911~1974

モーレア島 Mauritius

1973

32.0×23.0

木版3版3色 グワッシュ・生漉奉書
木版画集「タヒチ」

昭和63年度寄贈



P-135

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

1911~1974

宿の窓から View from a Hotel

Room 1973

31.8×23.3

木版 6版 6色 グワッシュ・生漉奉書

木版画集「タヒチ」

昭和63年度寄贈



P-136

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

1911~1974

休むカヌー Moored Canoes

1973

32.0×23.2

木版 3版 3色 グワッシュ・生漉奉書

木版画集「タヒチ」

昭和63年度寄贈



P-137

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

1911~1974

日中の道 A Road at High Noon

1973

32.2×23.5

木版 5版 5色 グワッシュ・生漉奉書

木版画集「タヒチ」

昭和63年度寄贈



P-138

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

1911~1974

フラダンス Hula Dance

1973

30.5×21.5

木版 3版 3色 グワッシュ・生漉奉書

木版画集「タヒチ」

昭和63年度寄贈



P-139

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

1911~1974

教会 Church

1973

30.5×23.3

木版 4版 4色 グワッシュ・生漉奉書

木版画集「タヒチ」

昭和63年度寄贈



P-140

香月泰男 KAZUKI, Yasuo

1911~1974

広場にて In a Square

1973

32.0×23.0

木版 6版 6色 グワッシュ・生漉奉書

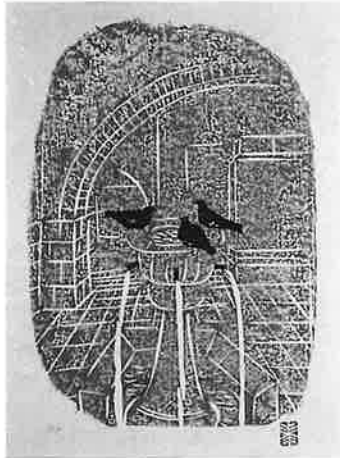
木版画集「タヒチ」

昭和63年度寄贈



P-141

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
オレンジのある庭 Garden with
Orange Trees 1974
33.0×24.0
木版5版5色 グワッシュ・生流奉書
木版画集「ニース」
昭和63年度寄贈



P-142

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
鳩のいる中庭 Courtyard with
Pigeons 1974
32.5×23.5
木版3版3色 グワッシュ・生流奉書
木版画集「ニース」
昭和63年度寄贈



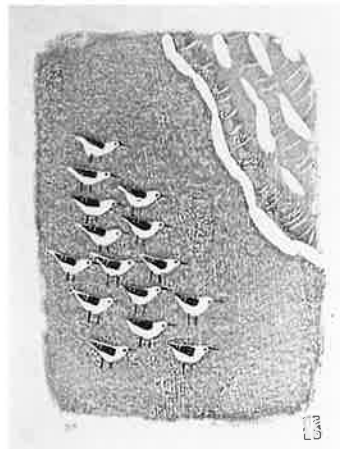
P-143

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
海岸にて At the Seaside
1974
33.5×24.0
木版3版3色 グワッシュ・生流奉書
木版画集「ニース」
昭和63年度寄贈



P-144

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
オリーブ Olive
1974
31.0×24.0
木版4版4色 グワッシュ・生流奉書
木版画集「ニース」
昭和63年度寄贈



P-145

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
海辺にて On the Seashore
1974
31.5×23.5
木版3版3色 グワッシュ・生流奉書
木版画集「ニース」
昭和63年度寄贈



P-146

香月泰男 KAZUKI, Yasuo
1911~1974
ルノアールの庭 Renoir's Garden
1974
33.5×24.5
木版3版3色 グワッシュ・生流奉書
木版画集「ニース」
昭和63年度寄贈



P-147
 香月泰男 KAZUKI, Yasuo
 1911~1974
 ニース Nice
 1974
 33.5×24.0
 木版7版7色 グアッシュ・生漉奉書
 木版画集「ニース」
 昭和63年度寄贈



P-148
 香月泰男 KAZUKI, Yasuo
 1911~1974
 サンポーロ St. Paul
 1974
 33.0×23.5
 木版4版4色 グアッシュ・生漉奉書
 木版画集「ニース」
 昭和63年度寄贈



P-149
 香月泰男 KAZUKI, Yasuo
 1911~1974
 みもざ Mimosa
 1974
 32.5×23.0
 木版3版3色 グアッシュ・生漉奉書
 昭和63年度寄贈



S-91
 戸張孤雁 TOBARI, Kogan
 1882~1927
 虚無 Deepest Dispair
 1920
 ブロンズ
 29.0×31.0×51.5(H)
 昭和62年度 購入



C-106
 三輪休雪 MIWA, Kyūsetsu
 1910~
 茶碗 Tea Cup
 1987
 陶
 昭和62年度 購入



C-107
 三島喜美代 MISHIMA, Kimiyo
 1932~
 ニュースペーパー '87
 Newspaper '87
 1987
 陶
 113.0(H)
 昭和62年度 購入



Ph- 1

トマス・シュトルート
STRUTH, Thomas
1954~
山口市 Yamaguchi City
1986

写真・モノクロ
32.9×46.0
昭和62年度 購入



Ph- 2

トマス・シュトルート
STRUTH, Thomas
1954~
山口市 Yamaguchi City
1986

写真・モノクロ
38.6×50.2
昭和62年度 購入



Ph- 3

トマス・シュトルート
STRUTH, Thomas
1954~
山口市 Yamaguchi City
1986

写真・モノクロ
37.0×51.2
昭和62年度 購入



Ph- 4

トマス・シュトルート
STRUTH, Thomas
1954~
山口市 Yamaguchi City
1986

写真・モノクロ
41.8×58.3
昭和62年度 購入



Ph- 5

トマス・シュトルート
STRUTH, Thomas
1954~
山口市 Yamaguchi City
1986

写真・モノクロ
41.5×58.5
昭和62年度 購入



Ph- 6

トマス・シュトルート
STRUTH, Thomas
1954~
新宿 (東京) Shinjuku, Tokyo
1986

写真・モノクロ
33.0×48.0
昭和62年度 購入



Ph-7
 トマス・シュトルート
 STRUTH, Thomas
 1954~
 新宿(東京) Shinjuku, Tokyo
 1986
 写真・モノクロ
 37.0×51.8
 昭和62年度 購入



Ph-8
 トマス・シュトルート
 STRUTH, Thomas
 1954~
 新宿(東京) Shinjuku, Tokyo
 1986
 写真・モノクロ
 58.0×43.5
 昭和62年度 購入



Ph-9
 トマス・シュトルート
 STRUTH, Thomas
 1954~
 新宿(東京) Shinjuku, Tokyo
 1986
 写真・モノクロ
 33.3×53.8
 昭和62年度 購入



Ph-10
 トマス・シュトルート
 STRUTH, Thomas
 1954~
 丸の内(東京) Marunouchi, Tokyo
 1986
 写真・モノクロ
 36.0×50.2
 昭和62年度 購入



Ph-11
 トマス・シュトルート
 STRUTH, Thomas
 1954~
 萩市 Hagi City
 1986
 写真・モノクロ
 33.2×44.2
 昭和62年度 購入



Ph-12
 トマス・シュトルート
 STRUTH, Thomas
 1954~
 黄波戸 Kiwado
 1986
 写真・モノクロ
 33.5×45.5
 昭和62年度 購入



Ph-13

トマス・シュトルート
STRUTH, Thomas
1954～
ケルティング通り、ハノーヴァー
1984 Körting Strasse, Hannover
写真・モノクロ
35.3×44.0
昭和62年度 購入



Ph-14

トマス・シュトルート
STRUTH, Thomas
1954～
オーヴァーブルック通り、デュイス
ブルク
Overbruck Strasse, Duisburg
1985
写真・モノクロ
35.5×49.5
昭和62年度 購入



Ph-15

トマス・シュトルート
STRUTH, Thomas
1954～
ヘルダー・ブリュッケン通り、ドル
トムント
Hörder Brücken Strasse, Dortmund
1986
写真・モノクロ
37.5×51.0
昭和62年度 購入



Ph-16

トマス・シュトルート
STRUTH, Thomas
1954～
ダブリン・ミューズ、エディンバラ
Dublin meuse, Edinburgh
1987
写真・モノクロ
32.6×45.7
昭和62年度 購入



Ph-17

トマス・シュトルート
STRUTH, Thomas
1954～
聖ヴィンセント通り、エディンバラ
St. Vincent Street, Edinburgh
1985
写真・モノクロ
31.0×43.8
昭和62年度 購入



Ph-18

トマス・シュトルート
STRUTH, Thomas
1954～
カールトン通り、エディンバラ
Calton Road, Edinburgh
1985
写真・モノクロ
39.6×58.5
昭和62年度 購入



Ph-19
 トマス・シュトルート
 STRUTH, Thomas
 1954～
 ホフグラベン、ミュンヘン
 Hofgraben, München
 1980
 写真・モノクロ
 38.3×53.2
 昭和62年度 購入



Ph-20
 トマス・シュトルート
 STRUTH, Thomas
 1954～
 アウグスト帝広場、ローマ
 Piazza Augusto Imperatore, Roma
 1984
 写真・モノクロ
 36.7×45.2
 昭和62年度 購入



Ph-21
 トマス・シュトルート
 STRUTH, Thomas
 1954～
 アレッサンドロ・スペッキ通り、ローマ
 Via Alessandro Specci, Roma
 1984
 写真・モノクロ
 48.8×35.0
 昭和62年度 購入



Ph-22
 トマス・シュトルート
 STRUTH, Thomas
 1954～
 シュラウン通り、ミュンスター
 Schlaun Strasse, Münster
 1986
 写真・モノクロ
 49.8×36.0
 昭和62年度 購入



Ph-23
 トマス・シュトルート
 STRUTH, Thomas
 1954～
 アウフ・デア・ハート、ボットロップ
 Auf der Hardt, Bottrop
 1985
 写真・モノクロ
 37.8×51.5
 昭和62年度 購入



Ph-24
 トマス・シュトルート
 STRUTH, Thomas
 1954～
 デュッセル通り、デュッセルドルフ
 Düssel Strasse, Düsseldorf
 1979
 写真・モノクロ
 36.8×51.9
 昭和62年度 購入



Ph-25

トマス・シュトルート
STRUTH, Thomas
1954～
ゲブザッテル通り、ミュンヘン
Gebaßattel Strasse, München
1984

写真・モノクロ
36.8×49.3
昭和62年度 購入



Ph-26

東松照明 TÔMATSU, Shōmei
1930～
太陽の鉛筆 The Pencil of the Sun
写真・モノクロ
40.64×50.8
昭和63年度 購入



Ph-27

東松照明 TÔMATSU, Shōmei
1930～
太陽の鉛筆 The Pencil of the Sun
写真・モノクロ
40.64×50.8
昭和63年度 購入



Ph-28

東松照明 TÔMATSU, Shōmei
1930～
太陽の鉛筆 The Pencil of the Sun
写真・モノクロ
40.64×50.8
昭和63年度 購入



Ph-29

東松照明 TÔMATSU, Shōmei
1930～
太陽の鉛筆 The Pencil of the Sun
写真・モノクロ
40.64×50.8
昭和63年度 購入



Ph-30

東松照明 TÔMATSU, Shōmei
1930～
太陽の鉛筆 The Pencil of the Sun
写真・モノクロ
40.64×50.8
昭和63年度 購入



Ph-31
 東松照明 TÔMATSU, Shōmei
 1930～
 太陽の鉛筆 The Pencil of the Sun
 写真・モノクロ
 40.64×50.8
 昭和63年度 購入



Ph-32
 東松照明 TÔMATSU, Shōmei
 1930～
 太陽の鉛筆 The Pencil of the Sun
 写真・モノクロ
 40.64×50.8
 昭和63年度 購入



Ph-33
 東松照明 TÔMATSU, Shōmei
 1930～
 太陽の鉛筆 The Pencil of the Sun
 写真・モノクロ
 40.64×50.8
 昭和63年度 購入



Ph-34
 東松照明 TÔMATSU, Shōmei
 1930～
 太陽の鉛筆 The Pencil of the Sun
 写真・モノクロ
 40.64×50.8
 昭和63年度 購入



Ph-35
 東松照明 TÔMATSU, Shōmei
 1930～
 太陽の鉛筆 The Pencil of the Sun
 写真・モノクロ
 40.64×50.8
 昭和63年度 購入



Ph-36
 東松照明 TÔMATSU, Shōmei
 1930～
 太陽の鉛筆 The Pencil of the Sun
 写真・モノクロ
 40.64×50.8
 昭和63年度 購入



Ph-37

東松照明 TÔMATSU, Shōmei
1930～
太陽の鉛筆 The Pencil of the Sun
写真・モノクロ
40.64×50.8
昭和63年度 購入



Ph-38

東松照明 TÔMATSU, Shōmei
1930～
太陽の鉛筆 The Pencil of the Sun
写真・モノクロ
40.64×50.8
昭和63年度 購入



Ph-39

東松照明 TÔMATSU, Shōmei
1930～
太陽の鉛筆 The Pencil of the Sun
写真・モノクロ
40.64×50.8
昭和63年度 購入



Ph-40

東松照明 TÔMATSU, Shōmei
1930～
太陽の鉛筆 The Pencil of the Sun
写真・モノクロ
40.64×50.8
昭和63年度 購入



Ph-41

東松照明 TÔMATSU, Shōmei
1930～
太陽の鉛筆 The Pencil of the Sun
写真・モノクロ
40.64×50.8
昭和63年度 購入



Ph-42

東松照明 TÔMATSU, Shōmei
1930～
太陽の鉛筆 The Pencil of the Sun
写真・モノクロ
40.64×50.8
昭和63年度 購入



Ph-43

東松照明 TÔMATSU, Shōmei
1930～

太陽の鉛筆 The Pencil of the Sun

写真・モノクロ

40.64×50.8

昭和63年度 購入



Ph-44

東松照明 TÔMATSU, Shōmei
1930～

太陽の鉛筆 The Pencil of the Sun

写真・モノクロ

40.64×50.8

昭和63年度 購入



Ph-45

東松照明 TÔMATSU, Shōmei
1930～

太陽の鉛筆 The Pencil of the Sun

写真・モノクロ

40.64×50.8

昭和63年度 購入



Ph-46

東松照明 TÔMATSU, Shōmei
1930～

太陽の鉛筆 The Pencil of the Sun

写真・モノクロ

40.64×50.8

昭和63年度 寄贈



Ph-47

東松照明 TÔMATSU, Shōmei
1930～

太陽の鉛筆 The Pencil of the Sun

写真・モノクロ

40.64×50.8

昭和63年度 寄贈



Ph-48

東松照明 TÔMATSU, Shōmei
1930～

太陽の鉛筆 The Pencil of the Sun

写真・モノクロ

40.64×50.8

昭和63年度 寄贈



Ph-49

中平卓馬 NAKAHIRA, Takuma

1938～

来たるべき言葉のために

For the Language to come

1970

写真・モノクロ

27.94×35.56

昭和63年度 購入



Ph-50

中平卓馬 NAKAHIRA, Takuma

1938～

来たるべき言葉のために

For the Language to come

1970

写真・モノクロ

27.94×35.56

昭和63年度 購入



Ph-51

中平卓馬 NAKAHIRA, Takuma

1938～

来たるべき言葉のために

For the Language to come

1970

写真・モノクロ

27.94×35.56

昭和63年度 購入



Ph-52

中平卓馬 NAKAHIRA, Takuma

1938～

来たるべき言葉のために

For the Language to come

1970

写真・モノクロ

27.94×35.56

昭和63年度 購入



Ph-53

中平卓馬 NAKAHIRA, Takuma

1938～

来たるべき言葉のために

For the Language to come

1970

写真・モノクロ

27.94×35.56

昭和63年度 購入



Ph-54

中平卓馬 NAKAHIRA, Takuma

1938～

来たるべき言葉のために

For the Language to come

1970

写真・モノクロ

27.94×35.56

昭和63年度 購入



Ph-55

中平卓馬 NAKAHIRA, Takuma

1938～

来たるべき言葉のために

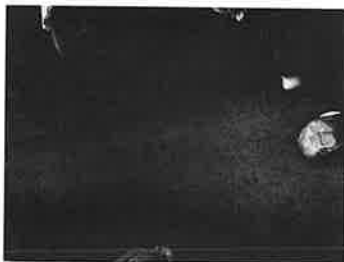
For the Language to come

1970

写真・モノクロ

27.94×35.56

昭和63年度 購入



Ph-56

中平卓馬 NAKAHIRA, Takuma

1938～

来たるべき言葉のために

For the Language to come

1970

写真・モノクロ

27.94×35.56

昭和63年度 購入



Ph-57

中平卓馬 NAKAHIRA, Takuma

1938～

来たるべき言葉のために

For the Language to come

1970

写真・モノクロ

27.94×35.56

昭和63年度 購入



Ph-58

中平卓馬 NAKAHIRA, Takuma

1938～

来たるべき言葉のために

For the Language to come

1970

写真・モノクロ

27.94×35.56

昭和63年度 購入



Ph-59

中平卓馬 NAKAHIRA, Takuma

1938～

来たるべき言葉のために

For the Language to come

1970

写真・モノクロ

27.94×35.56

昭和63年度 購入



Ph-60

中平卓馬 NAKAHIRA, Takuma

1938～

来たるべき言葉のために

For the Language to come

1970

写真・モノクロ

27.94×35.56

昭和63年度 購入



Ph-61

中平卓馬 NAKAHIRA, Takuma
1938~
来たるべき言葉のために
For the Language to come
1970

写真・モノクロ
27.94×35.56
昭和63年度 購入



Ph-62

中平卓馬 NAKAHIRA, Takuma
1938~
来たるべき言葉のために
For the Language to come
1970

写真・モノクロ
27.94×35.56
昭和63年度 購入



Ph-63

中平卓馬 NAKAHIRA, Takuma
1938~
来たるべき言葉のために
For the Language to come
1970

写真・モノクロ
27.94×35.56
昭和63年度 購入



Ph-64

中平卓馬 NAKAHIRA, Takuma
1938~
来たるべき言葉のために
For the Language to come
1970

写真・モノクロ
27.94×35.56
昭和63年度 購入



Ph-65

中平卓馬 NAKAHIRA, Takuma
1938~
来たるべき言葉のために
For the Language to come
1970

写真・モノクロ
27.94×35.56
昭和63年度 購入



Ph-66

中平卓馬 NAKAHIRA, Takuma
1938~
来たるべき言葉のために
For the Language to come
1970

写真・モノクロ
27.94×35.56
昭和63年度 購入



Ph-79
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 購入



Ph-80
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 購入



Ph-81
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 購入



Ph-82
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 購入



Ph-83
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 購入



Ph-84
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 購入



Ph-85
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 購入



Ph-86
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 購入



Ph-87
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 購入



Ph-88
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 購入



Ph-89
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 寄贈



Ph-90
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 寄贈



Ph-91
 牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
 1946~1983
 SELF AND OTHERS
 写真・モノクロ
 24.13×27.94
 昭和63年度 寄贈



Ph-92
 牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
 1946~1983
 SELF AND OTHERS
 写真・モノクロ
 24.13×27.94
 昭和63年度 寄贈



Ph-93
 牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
 1946~1983
 SELF AND OTHERS
 写真・モノクロ
 24.13×27.94
 昭和63年度 寄贈



Ph-94
 牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
 1946~1983
 SELF AND OTHERS
 写真・モノクロ
 24.13×27.94
 昭和63年度 寄贈



Ph-95
 牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
 1946~1983
 SELF AND OTHERS
 写真・モノクロ
 24.13×27.94
 昭和63年度 寄贈



Ph-96
 牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
 1946~1983
 SELF AND OTHERS
 写真・モノクロ
 24.13×27.94
 昭和63年度 寄贈



Ph-97

牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983

SELF AND OTHERS

写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 寄贈



Ph-98

牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983

SELF AND OTHERS

写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 寄贈



Ph-99

牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983

SELF AND OTHERS

写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 寄贈



Ph-100

牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983

SELF AND OTHERS

写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 寄贈



Ph-101

牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983

SELF AND OTHERS

写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 寄贈



Ph-102

牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983

SELF AND OTHERS

写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 寄贈



Ph-103
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 寄贈



Ph-104
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 寄贈



Ph-105
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 寄贈



Ph-106
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 寄贈



Ph-107
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 寄贈



Ph-108
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 寄贈



Ph-109

牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo

1946~1983

SELF AND OTHERS

写真・モノクロ

24.13×27.94

昭和63年度 寄贈



Ph-110

牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo

1946~1983

SELF AND OTHERS

写真・モノクロ

24.13×27.94

昭和63年度 寄贈



Ph-111

牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo

1946~1983

SELF AND OTHERS

写真・モノクロ

24.13×27.94

昭和63年度 寄贈



Ph-112

牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo

1946~1983

SELF AND OTHERS

写真・モノクロ

24.13×27.94

昭和63年度 寄贈



Ph-113

牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo

1946~1983

SELF AND OTHERS

写真・モノクロ

24.13×27.94

昭和63年度 寄贈



Ph-114

牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo

1946~1983

SELF AND OTHERS

写真・モノクロ

24.13×27.94

昭和63年度 寄贈



Ph-115
 牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
 1946~1983
 SELF AND OTHERS
 写真・モノクロ
 24.13×27.94
 昭和63年度 寄贈



Ph-116
 牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
 1946~1983
 SELF AND OTHERS
 写真・モノクロ
 24.13×27.94
 昭和63年度 寄贈



Ph-117
 牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
 1946~1983
 SELF AND OTHERS
 写真・モノクロ
 24.13×27.94
 昭和63年度 寄贈



Ph-118
 牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
 1946~1983
 SELF AND OTHERS
 写真・モノクロ
 24.13×27.94
 昭和63年度 寄贈



Ph-119
 牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
 1946~1983
 SELF AND OTHERS
 写真・モノクロ
 24.13×27.94
 昭和63年度 寄贈



Ph-120
 牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
 1946~1983
 SELF AND OTHERS
 写真・モノクロ
 24.13×27.94
 昭和63年度 寄贈



Ph-121
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 寄贈



Ph-122
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 寄贈



Ph-123
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 寄贈



Ph-124
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 寄贈



Ph-125
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 寄贈



Ph-126
牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo
1946~1983
SELF AND OTHERS
写真・モノクロ
24.13×27.94
昭和63年度 寄贈



Ph-127

牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo

1946~1983

SELF AND OTHERS

写真・モノクロ

24.13×27.94

昭和63年度 寄贈



Ph-128

牛腸茂雄 GOCHŌ, Shigeo

1946~1983

SELF AND OTHERS

写真・モノクロ

24.13×27.94

昭和63年度 寄贈

收集資料

Ⅲ. 美術圖書

分類	資 料 名	著・編 者	発 行	刊行年
0. 総記				
021.2	最新版著作権ハンドブック 1987	文 化 庁	著作権資料協会	1987
	著作権講習テキスト	〃	同 左	〃
	著作権関係法令集	〃	〃	〃
	美術著作権その他契約 ひな型	日本美術家連盟	〃	1987
029	1986年刊行イタリア関係図書目録 第10号	イタリア文化会館	同 左	1987
029.2	新収図書目録54	山口県立山口図書館	同 左	1988
030	和漢三才圖會(上)	寺島良安	東 京 美 術	1977
	〃 (下)	〃	〃	〃
031	角川日本地名大辞典35 山口県	竹内理三	角 川 書 店	1988
060	山口県医師会創立百周年記念誌	山口県医師会	同 左	1988
1. 哲学				
103	望月, 佛教大辞典 第一卷 アーケ	塚本善隆	世界聖典刊行協会	1973
	〃 第二卷 コーシ	〃	〃	〃
	〃 第三卷 シーセ	〃	〃	〃
	〃 第四卷 ソーナ	〃	〃	〃
	〃 第五卷 ニーワ	〃	〃	〃
	〃 第六卷 年 表	〃	〃	〃
	〃 第七卷 索 引	〃	〃	〃
	〃 第八卷 増 遺	〃	〃	〃
	〃 第九卷補遺(I)	〃	〃	〃
	〃 第十卷補遺(II)	〃	〃	〃
	神道大辞典	下中彌三郎	臨 川 書 店	1988
2. 歴史				
208	日本歴史探険 ①古代を発掘する	国立歴史民俗博物館	同 左	1988
	②中世を歩く			
	③近世に生きる			
	④くらしに学ぶ			
209.7	20世紀全記録	講談社	同 左	1987
210.088	防長寺社證文	山口県文書館	同 左	1987
	萩藩閥閥録 別巻	〃		1989
210.47	戦国大名論集 6 中国大名の研究	岸田裕之	吉川弘文館	1984
217.7	周防国分寺 歴史資料目録	山口県教育委員会	同 左	1988
	府県史料 山口県 二	山口県文書館	同 左	1988
	〃 三	〃	〃	1988
288	大内氏史研究	御菌生翁甫	山口県地方史学会 大内氏史刊行会	1959
	鎌倉武士の後裔たち	三浦美知子	卯辰山文庫	1988
291.23	足で見つけた歴史 見聞録	七十七銀行	同 左	1988
3. 社会科学				
375.7	中学校美術 1 教師用指導書	桑原 実 共著	日本文教出版(株)	
	〃 2 〃	〃		
	〃 3 〃	〃	〃	
380	やまぐち 郷土読本	山口市教育委員会	同 左	1988

分類	資料名	著・編者	発行	刊行年
4. 自然科学				
462	プリニウス博物誌 第1巻	中野定雄ほか訳	雄山閣出版	1986
	〃 第2巻		〃	〃
	〃 第3巻		〃	〃
5. 技術				
520	建築学大系34 コミュニティーセンター図書館, 博物館, 美術館	穂積信夫, 川添智利 山崎三郎, 佐藤仁 他	彰国社	1973
521.6	日本近代建築総覧 各地に遺る明治大正昭和の建物	日本建築学会	技報堂出版	1983
526	1986年第29回建築士会全国大会記念誌 山口建築ガイドブック	山口県建築士会	同 左	1986
6. 産業				
699.2	山口放送三十年史	山口放送株式会社	同 左	1987
7. 芸術				
702	The Japanese Influence in America	CLAY LANCASTER	Abbeville	1983
702.359	ベルギーの美術 中世から現代まで	コレット・スィヤール	ラノー出版社	1985
703	日本書畫骨董大辞典 骨董篇	泰山哲之	歴史図書社	1971
	〃 書畫篇	〃	〃	〃
	美術名典 (1988年版)	芸術新聞社	同 左	1988
	〃 (1989年版)	〃	〃	1989
	美術家名鑑 1988	清水 治	美術倶楽部	1988
	〃 1989	〃	〃	1989
	福岡県日本画・古今画人名鑑	野田正明	筑後画廊	1987
	中国歴史書畫篆刻家子號索引(上)	人民美術出版社	同 左	1960
	〃 (下)	〃	〃	〃
	芸術・美術に関する10年間の雑誌 文献目録 (昭和50~59)	「雑誌文献目録」 編集部	日外アソシエーツ	1987
	I 一般・理論・芸術史	〃	〃	〃
	II 絵画・書・彫刻・写真・工芸	〃	〃	〃
703.8	古美術・百萬人のコレクション	東洋総企	同 左	1987
	収蔵資料目録・美術・工芸	秋田県立博物館	同 左	1987
	所蔵品目録	愛知県陶磁資料館	同 左	1988
	所蔵品目録	石川県立美術館	同 左	1987
	池田20世紀美術館	池田20世紀美術館	同 左	1987
	所蔵品目録 (IV)	鹿児島県歴史資料センター 黎明館	同 左	1987
	〃 (V)	〃	〃	1988
	人文部門資料目録 (9)中世・近世・近代 美術館関係資料目録	神奈川県立博物館	同 左	1987
	〃 (8)丹波コレクション 版画図録 I	〃	〃	〃
	岐阜県美術館所蔵品目録	岐阜県美術館	同 左	1987
	京都国立近代美術館所蔵作品選 写真	京都国立近代美術館	同 左	1985
	〃	〃	同 左	1987
	串本応挙芦雪館収蔵品目録	串本応挙芦雪館	同 左	1988
	収蔵品目録 第14, 第15	黒川古文化研究所	同 左	1988
	館蔵名品図録	神戸市立博物館	同 左	1988
	館蔵品目録 美術の部 1~4	〃	〃	〃

分類	資料名	著・編者	発行	刊行年
	考古・歴史の部 1～4	〃	〃	〃
	地図の部 1～4	〃	〃	〃
	収蔵品目録	埼玉県立近代美術館	同 左	1987
	館蔵名品図録	佐賀県立九州陶磁文化館	同 左	1988
	所蔵品目録 日本画・郷土美術 2	滋賀県立近代美術館	同 左	1986
	〃 現代美術 2	〃	〃	〃
	新収蔵品目録	静岡県立美術館	同 左	1988
	図書資料目録 昭和60年度	〃	〃	〃
	〃 昭和61年度 増補版	〃	〃	〃
	高松市美術館収蔵品図録	高松市美術館	同 左	1988
	諏訪文庫, 前田文庫目録	東京都美術館	同 左	1988
	東京国立博物館収蔵品目録 (金工, 刀剣, 陶磁, 漆工, 染織)	東京国立博物館	同 左	
	MUSEUM 総目録 1～430号	〃	ミュージアム出版	1987
	所蔵品目録 工芸	東京国立近代美術館	同 左	1988
	蔵品目録	東京芸術大学資料館	同 左	1983
	収蔵作品についての報告	富山県立近代美術館	同 左	1987
	徳島県博物館所蔵資料目録			
	〃 第17号手塚家資料目録	徳島県博物館	同 左	1988
	〃 第18号歴史資料目録	〃	〃	〃
703.8	徳島のコレクション	徳島県立近代美術館	同 左	1988
	収蔵作品についての報告 1986	富山県立近代美術館	同 左	1988
	蔵品図録 第一集・浮世絵版画篇	奈良県立美術館	同 左	1987
	名古屋城所蔵・資料目録	名古屋市	同 左	1988
	所蔵品目録	新潟市美術館	同 左	1987
	新青山荘清賞―根津美術館名品聚成			
	〃 鑑賞編	根津美術館	同 左	1987
	〃 解説編	〃	〃	〃
	〃 茶器編	〃	〃	〃
	白鶴美術館名品選	白鶴美術館	同 左	1989
	昭和59年度 収蔵品目録	福岡市博物館建設準備室	同 左	1987
	櫛田神社収蔵品目録	福岡市教育委員会	同 左	1987
	筈崎宮収蔵品並田村文書目録	〃	〃	1988
	所蔵品目録 I	北海道立近代美術館	同 左	1988
	〃 II	〃	〃	〃
	出品目録	正木美術館	同 左	
	所蔵品目録	三重県立美術館	同 左	1987
	収蔵品目録 第二集	都城市立美術館	同 左	1988
	諸文庫仮目録 II	山口県文書館	同 左	1987
	〃 III	〃	〃	1988
	山梨県立美術館 蔵品抄	山梨県立美術館	同 左	1988
704	国際シンポジウム 「ボロブドールの宗教美術とその保存」	ボロブドール国際シン ポジウム実行委員会	同 左	1980
	ゴッホ展記念シンポジウム	高階秀爾	東京新聞出版局	1988
	広島市における木櫃の製造と民俗	広島市教育委員会	同 左	1988
	山まゆ織り	〃	〃	1988
	油絵初学	青木 茂	筑摩書房	1987
	美術講演会講演録	鹿島美術財団	同 左	1987
	〃	〃	〃	1988

分類	資料名	著・編者	発行	刊行年
	南太平洋・南米の石造美術 ——イースター島モアイの系譜——	大阪大学南太平洋学術 調査学術交流専門委員会	同 左	1989
	巨匠科が生まれる迄	竹田道太郎	真珠社	1960
	吉村貞司 絵を読む	吉村貞司	大日本絵画	1984
	〃 中国絵画を読む	〃	〃	1986
	行動する画家	東大寺 乱	沖積社	1988
	国際絵画市場 流転する名画	藤井一雄	講談社	1987
705	日本美術年鑑 1985	美術研究所	同 左	1987
	美術年鑑 1989 現存作家名鑑編	根岸秀行	美術年鑑社	1989
	美術会絵資料編	〃	〃	〃
706	神奈川県立博物館 20年のあゆみ	神奈川県博物館	同 左	1987
	二科 70年史	二科会	日本経済新聞社	1987
	発足20周年 岩国新美術協会記念画集	岩国新美術協会	同 左	1987
	日展史 第19巻	日展	同 左	1987
	〃 第20巻	〃	〃	1988
	広島平和記念資料館 30年のあゆみ	広島平和記念資料館	同 左	1987
	根岸競馬記念公苑 10年のあゆみ	馬事文化財団	同 左	1987
	都城美術史	古垣隆雄	都城市立美術館	1988
	一水会 五十年史	田中 穰	中央公論美術出版	1988
	山口芸術短期大学 20年のあゆみ	山口芸術短期大学	同 左	1988
707	大阪狭山市史要	大阪狭山市役所	同 左	1988
707	よくわかる美術の学習	明治図書	同 左	〃
	美術の学習	吉野教育図書	同 左	〃
	日本の美	美術教育研究室	浜島書店	1987
	西洋の美	〃	〃	〃
	鑑賞と表現	〃	〃	〃
708	韓国美術シリーズ			
	(10) 李朝の白磁	姜敬淑	近藤出版社	1987
	(11) 韓国の粉青沙器	鄭良謨	〃	〃
	(12) 韓国の風俗画	安輝溶	〃	〃
709	山口市埋蔵文化財調査報告			
	第23集 大内氏館跡	山口市教育委員会	同 左	1987
	第24集 堂道遺跡	〃	〃	1987
	第25集 大内氏関連遺跡分布調査	〃	〃	1987
	第26集 大内氏築山跡Ⅱ	〃	〃	1988
	第27集 小路遺跡	〃	〃	1988
	第28集 瑠璃光寺跡遺跡	〃	〃	1988
	滋賀県指定文化財美術工芸品	滋賀県立琵琶湖文化会館	同 左	1987
	文化財の虫菌害と保存対策	文化財虫害研究所	同 左	1988
	山口県文化財 第12号	山口県文化財愛護協会	同 左	1988
	〃 第17号	〃	〃	〃
	茂木町小貫地区文化財所在調査	栃木県立博物館	同 左	1987
	重要文化財 旧松本家住宅修理工事報告書	文化財建造物保存技術協会	西日本工業倶楽部	1982
	明治の洋館 松本家住宅の家具	小泉和子	〃	1982
	古文化財の化学	山崎一雄	思文閣出版	1987
710	ひょうたん鯨「国際鉄鋼彫刻シンポ ジウム YAHATA '87」から	加瀬田昭生	ぎょうせい	1988
714	木村賢太郎作品集1953~1988	木村賢太郎	美術出版社	1988
	町田市仏像調査報告書 町田市の佛像	町田市立博物館	同 左	1985

分類	資 料 名	著・編 者	発 行	刊行年
720.2	長崎繪畫全史	古賀十二郎	北光書房	1944
	長崎画史彙伝	〃	大正堂書店	1983
	日本絵画史図典	山根有三・福武總一郎	福武書店	1987
720.8	日本水彩画名作全集			
	1 浅井忠	原田平作	第一法規	1987
	2 石井柏亭	匠秀夫	〃	1987
	3 竹久夢二	小倉忠夫	〃	1982
	4 岸田劉生	富山秀男	〃	1983
	5 中西利雄	匠秀夫	〃	1983
	風景画全集 美しい日本 1 北海道・東北	井上靖・河北倫明	ぎょうせい	1988
721	福田豊四郎画集	福田豊四郎	現代創美社	1976
	小松均画集	小松均	協和出版	1980
	日本画の遺産 明治・大正・昭和の物語作家たち	マリア書房	同 左	1987
	幽谷画譜	岡上爲右衛門	精 華 社	1918
	雅邦大観 全輯	木澤 孚	書 報 社	1915
721.3	禅林画賛—中世水墨画を読む	島田修二郎	毎日新聞社	1987
722.1	高麗仏画	菊竹淳一・吉田宏志	〃	1981
723	アルバムヴェルブ 別冊テキスト(抄訳)	吉井長三	吉井画廊	1988
	L'ALBUM VERVE	MICHEL ANTHONIOZ	〃	1987
723.1	エレガント 梶進魅惑の女人画集	梶 進	叢 文 社	1986
	中村貞夫画集 第四巻	中村貞夫		1988
	内田武夫画集	内田武夫	日本経済新聞社	1988
	長山義一画集	長山義一	藝 林 社	1988
723.3	プリュージェル全作品	森 洋子	中央公論社	1988
	ファン・エイク全作品	前川誠郎	〃	1980
	RENÉ MAGRITTE	KUNSTHALLE	同 左	1987
	MATISSE	Jack Flam	THAMES AND HUDSON	1986
723.05	BRACQUEMOND	JEAN PAUL BOUILLON	SKIRA	1987
724.16	国際交流美術史研究会	国際交流美術史研究会	同 左	1988
	第3回シンポジウム 東洋における山水表現Ⅱ			
	第4回 〃 東洋美術における風俗表現	〃	〃	〃
725	一木平蔵の素描	一木平蔵	美術出版社	1988
727	堀 友三郎九紋図案集	堀友三郎	六 芸 書 房	1987
728	過眼墨宝撰書 1	古筆学研究所	旺 文 社	1988
	〃 2	〃	〃	〃
	〃 3	〃	〃	〃
730	清原啓子作品集	美術出版社	同 左	1988
740	日本写真全集 1 写真の幕あけ	(株)第一アートセンター	小 学 館	1985
	2 芸術写真の系譜	〃	〃	〃
	3 近代写真の群像	〃	〃	〃
	4 戦争の記録	〃	〃	〃
	5 人物と肖像	〃	〃	〃
	6 ノードフォト	〃	〃	〃
	7 都市の光景	〃	〃	〃
	8 自然と風景	〃	〃	〃
	9 民俗と伝統	〃	〃	〃
	10 フォトジャーナリズム	〃	〃	〃

分類	資 料 名	著・編 者	発 行	刊行年
	11 コマーシャルフォト	〃	〃	1986
	12 ニューウェーブ	〃	〃	1988
世界写真全集	1 ファイン・アート	堀内末男	集 英 社	1982
	2 ポートレート	〃	〃	1983
	3 フォトジャーナリズム	〃	〃	〃
	4 ヌードフォトグラフィ	〃	〃	〃
	5 ドキュメンタリー	〃	〃	〃
	6 サイエンス・フォト	〃	〃	1984
	7 シティ&ライフ	〃	〃	1983
	8 ネイチャー&カントリー	〃	〃	1984
	9 ファッション・フォトグラフィ	〃	〃	1983
	11 コマーシャル・アート	〃	〃	〃
	12 ニューウェーブ	〃	〃	〃
	PHOTO GRAFFITI '88	日本写真家協会	同 左	1987
	THE PHOTOGRAPH COLLECTORS GUIDE	Lee.D.Witkin and Barbara London	NEW YORK GRAPHIC SOCIETY	1979
740.2	日本写真史 1840-1845	日本写真家協会	平 凡 社	1971
	〃 1845-1970	〃	〃	1977
740.6	日本写真美術館 海外の写真美術館 2	日本写真美術館 設立促進委員会	同 左	1979
744	BEST OF FINE PRINT ファインプリントの手引き	原直久・桜井始・山崎信	クリエーターフォト	1987
744.9	写真の保管	(株)コダック・ナガセ	同 左	1979
748	昭和写真全仕事 1 秋山庄太郎	秋山庄太郎	朝日新聞社	1982
	3 林 忠彦	林 忠彦	〃	〃
	4 大竹省二	大竹省二	〃	〃
	5 土門 拳	土門 拳	〃	〃
	6 緑川洋一	緑川洋一	〃	〃
	7 三木 淳	三木 淳	〃	〃
	8 中村正也	中村正也	〃	〃
	10 植田正治	植田正治	〃	〃
	11 白旗史郎	白旗史郎	〃	〃
	12 稲村隆正	稲村隆正	〃	〃
	14 入江泰吉	入江泰吉	〃	〃
	15 東松照明	東松照明	〃	〃
	内藤正敏写真集 東京 都市の闇を幻視する	内藤正敏	名著出版	1985
	〃 遠野物語	〃	春 秋 社	1988
	日本の聖域 第9巻 出羽三山と修験	内藤正敏・戸川安章	佼成出版社	1982
	須田一政 わが東京100	須田一政	ニッコール・クラブ	1979
	東松照明作品集 廃園	東松照明	(株)PARCO 出版局	1987
	ポラロイド20×24作品集 スーパー・イメージの世界	山岸享子	青 弓 社	1986
	LEE FRIEDLANDER	〃	佼成出版社	1987
	ソノラマ写真選書			
	1 雪国	濱谷 浩	朝日ソノラマ	1977
	2 佐渡	岩宮武二	〃	1978
	3 山河遍歴	緑川洋一	〃	〃
	4 抱擁	細江英公	〃	〃
	5 ナディア	沢渡 朔	〃	〃
	6 続にっぽん劇場 写真帖	森山大道	〃	〃

分類	資 料 名	著・編 者	発 行	刊行年
	7 わが愛 陽子	荒木経惟	〃	〃
	8 洋子	深瀬昌久	〃	〃
	9 王国	奈良原一高	〃	〃
	10 ドリーム・エイジ	長野重一	〃	〃
	11 砂丘・子供の四季	植田正治	〃	〃
	12 泥の王国	東松照明	〃	〃
	13 エマヌードインアフリカ	中村正也	〃	〃
	14 踊り子	稲村隆正	〃	〃
	15 東京長日	桑原甲子雄	〃	〃
	16 風姿花伝	須田一政	〃	〃
	17 六代目菊五郎	木村伊兵衛	〃	〃
	18 世界の音楽家	大竹省二	〃	〃
	19 頌歌	福田勝治	〃	〃
	20 アラスカエスキモー	渡辺雄吉	〃	〃
	21 春光秋色	西山 清	〃	〃
	22 ヒロシマ 1945～1979	土田ヒロミ	〃	〃
	23 裸々裸々乱	秋山庄太郎	〃	〃
	24 ルードヴィヒⅡ世の城	川田喜久治	〃	〃
	25 婆 東北の民間信仰	内藤正敏	〃	〃
	26 都市の軌跡	柳沢信	〃	〃
	27 下町,ひと昔	田沼武能	〃	〃
	Ansel Adams: Classic Images	James Alinder John Szarkowski	New York Graphic Society	1985
	小澤俊樹作品集	小澤俊樹	(株)フォトテック	1988
750	定本 川喜田半泥子作品集	藤田等風	淡 交 社	1987
751.1	久我コレクション九州陶磁 第一集 福岡篇	福岡県立美術館	同 左	1987
	薩摩焼の研究	田沢金吾・小山富士夫	国書研究会	1987
751.5	エミール・ガレのガラス	由水常雄	学習研究社	1985
	ガレの素描 エミール・ガレとその工房	Ph.ティエボー・与謝野訳	求 龍 堂	1988
752	日本漆工の研究	沢口悟一	美術出版社	1988
	高麗季朝の螺鈿	河田貞・高橋隆博	毎日新聞社	1986
760	現代日本の音楽 7 三善晃：文響三章(1960) 武満徹：樹の曲(1961)	渡辺曉雄指揮 日本フィルハーモニー交響楽団		
773.67	巖島神社 能装束	原田圭子	京 都 書 院	1981
9. 日本文学				
911.56	自選詩画集 花そして火野・岩下たち	星野順一	創思出版社	1980
914.6	シベリアのラーゲリを逃れて— ホロンバイルからシベリアへ	堺六郎	筑 摩 書 房	1987
	小糸源太郎 随筆集	小糸源太郎	岩波ブックセンター	1988

